

2025（令和7）年度  
服飾芸術科  
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間 後期	配当年 2	単位数 1	科目必選区分 服専：必修 主要科目：○
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F31A01 実務家教員による授業 授業方法：対面			
添付ファイル			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 2年間の学修成果をディプロマポリシーに基づいて振り返り、履修モデルに即したテーマを設定し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>(授業目標) プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身につける。</p> <p>(学習成果) ◎D：ディプロマポリシーに基づき、2年間で身につけた知識を的確に理解し、自分の考えを論理的に述べることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 学長講演（服飾芸術科専任教員） 学長講演 2 本ゼミナーの概要、制作（1）（服飾芸術科専任教員） 研究計画の概要、資料収集およびプレゼンテーションの手法について 3 制作（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法等をまとめ 4 制作（3）（服飾芸術科専任教員） 資料収集およびプレゼンテーションの個別指導 5 制作（4）（服飾芸術科専任教員） 資料作成およびプレゼンテーションの個別指導 6 プrezentation（1）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 7 プrezentation（2）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 8 PROGテストの実施 PROGテストの実施 9 「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について 10 プrezentation（3）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 11 プrezentation（4）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 12 プrezentation（5）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 13 プrezentation（6）（服飾芸術科専任教員） ゼミ代表者による合同発表、「卒業後の生き方について」講義 14 PROGテストの解説 PROGテストの解説 15 2年間の学びの振り返り（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びを振り返る
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ディプロマポリシーに基づき、2年間で身につけた知識を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について、個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における意見交換

	る採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：プレゼンテーション内容を評価する。 課題70%、授業貢献度30%（合計100%）
テキスト	なし
参考書	適宜、指示する
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、メディア情報、店舗等における実態調査、映画、美術館等を活用することが大切である。
アクティブラーニング、PBL	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F21A01	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>社会人のビジネス上の大きな悩みは「人間関係」です。学生でも学校生活の中で人間関係に悩む事が少なくなっています。このホスピタリティ論は、単なるマナーや礼儀作法ではなく、「コミュニケーション力」を上げるための理論を学びます。講師が代表理事を務める(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会が30年以上研究、検証してきたホスピタリティの考え方をベースにしたコミュニケーションスキルが身につく授業です。ホテル、ウェディング、ファッショントピック、ビューティ、医療、金融、建設など多くの大手企業の評価を受けてきたホスピタリエ認定講座と同様の内容を授業で学ぶ事ができます。同時に、戸板の学生にしか提供できないカスタマイズした授業設計になっています。この講義からたくさんの魅力的なホスピタリエが誕生する事を願っています。</p> <p>単位習得者は、ホスピタリエ認定講受講者の資格を習得でき、ホスピタリエ認定試験を受験する事もできます。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ホスピタリティの持つフラットな考え方をもとに、ユニバーサルな視点を育む。本学の校訓である「知好樂」の意味を授業を通じて理解し、大学ならではの知識教養を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、日常生活に活かす事ができる  <input type="radio"/> C：個別対応が基本となる事の必要性を理解し、日常生活のシーンで「THEの対応」を考え出す事ができる</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ホスピタリティの必要性 ホスピタリティは何故必要なのか? 2 共感力とは何か? 共感力の概念の理解と事例紹介 3 ホスピタリティ理論（1） ホスピタリティのファーストステップの概念と国際感覚 4 ホスピタリティ理論（2） ホスピタリティのセカンドステップの概念と3つの効果 5 ホスピタリティ理論（3） ホスピタリティの二つのアビリティ 右脳編 6 ホスピタリティ理論（4） ホスピタリティの二つのアビリティ 左脳編 7 ホスピタリティ理論（5） THEのコミュニケーションの作り方 8 想定能力と水平思考 かもしれないゲームによる想定能力の磨き方 9 共感力を高める知識教養とナレッジツリー 教養とは何か?知識教養の広げ方と楽しみ方 10 共感力会話（1）グループワーク 共感力を使った二つの会話スキル 11 共感力会話（2）グループワーク 共感力を使った質問手法を知る 12 ファッション業界事例 ファッション業界で活かせるホスピタリティ 13 ビューティ業界事例 ビューティ業界で活かせるホスピタリティ 14 総まとめと総合確認テスト 授業の総まとめと総合確認テストの実施 15 テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 総合確認テストの内容の解説と就職活動や日常生活にどうホスピタリティを活かしていくか
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、自分の言葉で説明する事ができる ○C：ホスピタリティのセカンドステップの重要性を理解し、自分の言葉で説明する事ができる
事前・事後学習	◎D：リーディングワークシートに沿ってテキストの指定されたページを熟読した上でシート記入をし、内容を整理する。(90分) ○C：毎回の課題に取り組む。授業で学んだコミュニケーションシーンを自分の別の日常生活に置き換え記録しておく(90分)
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用いた講義形式を中心とし、グループディスカッションを通じて毎回の課題を授業内でまとめる。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：ホスピタリティ理論を正しく理解しているか C：ホスピタリティ理論を基に具体的な行動に導く事ができるか 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト1回(14回目) 25%
テキスト	ホスピタリティ・コミュニケーション ～ホスピタリエ認定講座テキスト～ 日本ホスピタリエ協会
参考書	なし
履修上の注意	単位取得者は(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会認定資格「ホスピタリエ」の認定講座修了者として認められホスピタリエ認定試験の受験資格が得られる。 服飾芸術科の学びの根幹となる考え方であるため、授業内で「考える姿勢」を持つ事。 ホスピタリティの学びの場であるため、教室内のホスピタリティにも気を配る事。 ディスカッションタイムも多いため、積極的に他学生とのコミュニケーションを取り、主体性を持って授業に臨む事。
アクティブ・ラーニング、PBL	授業内でグループに分かれてワークショップをする。毎回クラスルームに提出し、その内容を次回の授業内で共有する。講師と学生、学生同士の意見交換をする事により、深い思考を促す。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F11A02	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッショセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することが快適な衣生活の条件と考えられる。衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分け、平面構成服と立体構成服の違い、人体構造、人体計測、アパレル製品のJISサイズ、素材、パターン設計について広く学修する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>衣服を選択するための基礎知識を身につけ、快適な衣生活を実践できることを目標とする。</p> <p>(学修成果)</p> <p>◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解し、体型に適合する衣服を選択することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 衣服の起源と推移 衣服の起源、衣服の機能、生活様式の影響 2 衣服と環境（1） 立体構成服と平面構成服 3 衣服と環境（2） 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴 4 衣服と人体（1） 日常生活における動作と衣服圧 5 衣服と人体（2） 衣服圧が健康におよぼす影響と有効利用 6 衣服と人体（3） 人体計測 7 衣服と人体（4） 衣服のサイズ表示 8 衣服と人体（5） シルエットとディテール 9 衣服と人体（6） 衣服の美的因子（1） 10 衣服と人体（7） 衣服の美的因子と身体因子（2） 11 衣服と生産（1） 素材と造形性能 12 衣服と生産（2） 注文服の製造工程 13 衣服と生産（3） 既製服の製造工程、パターン設計におけるゆとり 14 講義のまとめ、期末試験 半期の振り返りと期末筆記テストを行う 15 衣服と消費、総まとめ（グループワーク）（PBL） 既製服衣料の選択と購入 最終テストのフィードバック 半期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方を理解し、体型に適合する衣服について説明することができる。

事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと（90分）。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと（90分）。
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施②小テスト実施後、質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：期末試験、授業内小テスト、授業への貢献度、課題を評価する。 期末試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ、他6名、文化出版局 『アバレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美、株式会社朝倉書店
履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブラーニング、PBL	グループワーク、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A03	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしたのか、相手にどのように表現すれば、意図が伝わるのかを構想する力をつける。AdobeのIllustratorを使い、学んだ法則を実践的に使用できるかを毎回のワークで振り返りながら制作する。</p> <p>(授業目標) ブランド発信におけるデザインやポートフォリオなどのレイアウト術に活かせる基本を身に付ける。</p> <p>(学習成果) 広がるファッショニの分野で様々に活かせるデザインを学び、実践に活かせる力を身につける。  <input type="radio"/> D：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを自己肯定感を持って考えることができる。  <input type="radio"/> E：習得した事を活かし、商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 アート思考 デザインとアートの違いを知り、0から1を生み出すアウトプットの重要性を知る。 アートを鑑賞し、鑑賞から作り上げたストーリーを共有し、相手との感じ方の違いを知る。
	2 デザイン思考 デザイン思考で生まれた商品などを知る。デザイン思考のプロセスを体感する。
	3 デザインの歴史 時代と共に変わるデザインを知る 流行にどらわれず、社会を知ることで、生まれるデザインを考える 時代におけるデザインの特徴を捉える
	4 デザインの種類 様々なデザインの種類を学びデザインによって行動変容が起きることを知る 優れたデザインを見つけ、何が優れているのか考察し、デザインによって受け取る印象がどう違うかなどまとめる
	5 ビジュアルアイデンティティー ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザインを調べる 実在のブランドを設定しブランド発信に使用されているデザインを調査し有効的に使われている部分や効果を導く
	6 ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とブランドストーリーを知り、表現する力をつける 企業のロゴのコンセプトを考察し、同じコンセプトで違うマークを考える
	7 コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する ファッション業界においてブランドとしてどんな色やエレメントが多いか調査し、なぜかの理由を考察しディスカッションする
	8 配色 色の特性を知り言葉からイメージされる配色を作り表現する 季節やテーマごとに変わる販促に有効に活かす 言葉ではなく配色だけで相手に伝わるか制作し相手に問う 調査を踏まえお互いにより良い配色を見つける
	9 フォント フォントデザインの基本と印象 様々なフォントを知り、使ってみる
	10 文字のジャンプ率 デザインの基本要素である対比を学ぶ 情報の優先順位を文字だけで伝えるデザインを作る ジャンプ率を用いて作ったデザインが適切に伝わるか相手に講評してもらい、お互いの改善点を見つける
	11 レイアウト（デザインの4原則） 商品解説やウェブページでも重要なレイアウトの4原則を学ぶ。 写真や文字など全ての情報を整理し、どのように配置すればいいかの法則を知る。

	12 13 14 15	4つの法則を使ったデザイン制作をし、伝わるデザインを制作する レイアウト（構図） 要素の配置をどうすれば、効果的なデザインができるかを知る 雑誌の表紙や写真などをメインにデザインの考察をし、雑誌やポスターからその法則を見つける 視線誘導 デザインを通してユーザー視線の流れをコントロールし、誘導するテクニックを学ぶ 文章の多い場合のデザインにおいての視線の流れを考えることで、見やすいを考察する 視線誘導を使ったデザインを制作し、伝えたい順番と伝わった順番が一致するかディスカッションし改善 適材適所のデザイン POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン 身近なデザインをピックアップし、そのデザインが場所を変えるとどんなデザインにしなければならないか制作する 時代と共に変わるべき企業とデザイン 世の中の変化でブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからを考察する
到達目標・基準 C評価になる基準		◎D：コンセプトに沿ったデザインを作ることができる。 ○E：身の周りにあるデザインがどんな法則で作られているか考えることができる。
事前・事後学習		事前学習：ファッショニストに限らず様々なデザインに目を向ける。様々なデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測し、メモしておく。（60分）。 事後学習：毎回ワークを実施するので、完成させ提出する（120分）
指導方法		パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。毎回のワークでは、各自自分で内容を設定し、学んだ事を活かしたデザインワークを行う。伝わるデザインになっているか、改善方法などディスカッションしアウトプットする力を養う。 授業内での課題提出が毎回ある。課題のフィードバックは全員に共有し口頭で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準		◎D：デザイン制作課題 ○E：授業内試験 課題70%・小テスト20%・授業態度及び貢献度10%
テキスト		なし 適宜プリント配布。
参考書		
履修上の注意		Adobeソフト使用 毎回PC持参 授業内で課題が終わらない場合は期限までに提出することで、課題点とする。
アクティブラーニング、PBL		ディスカッション・デザイン的自己表現

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
齊藤彰			
ナンバリング：F21A05	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> キャリアは働く人の数だけ存在する。自身のキャリアビジョンを描くためには、企業での働き方だけでなく、自身の生き方も大切な要素となる。さらに、人生100年と言われる時代では、長く活かせるキャリアを考えいく必要がある。働き方が多様化し、ビジネスシーンでは職場内の人間関係の構築、ゲストへの対応や取引先との折衝などでコミュニケーションスキルが求められるシーンが多い。この授業では、各自の業界でのキャリアをデザインし、企業から必要とされる人材になるために、仕事をする上で大切なビジネス基本知識とコミュニケーション、マナーなどのビジネススキルを学びます。 <b>(授業目標)</b> コミュニケーションを円滑に行うために、職場だけでなく生活の中での自己理解、他者理解の方法を学び、コミュニケーションスキルを高める。また、企業人として必要とされるビジネスの基本知識やビジネスマナー、仕事術を修得する。 <b>(学習成果)</b> ◎C：積極的に授業参加し、グループワーク、ワークにおいて主体的に重要な役割を担当できる。確認テストにおいて、講義内容を理解、修得している。
----------------------------------	--

授業計画	1 ビジネスキャリアとは ビジネスキャリアとは 業界ごとのキャリアについて考える 2 キャリアプランの作成 目標とするキャリア ワーク：キャリアプランを作成する 3 ワークライフバランス (PBL) キャリアとお金の話 キャリアと育児 PBL：ダイバーシティマネジメント 4 職場でのコミュニケーション 相手を知る 自分を知る ワーク：VKA分析 5 ビジネスコミュニケーション セールストーク 話し方 職場でのプレゼンテーション ワーク：コミュニケーション実践 6 ノンバーバルコミュニケーションとテキストコミュニケーション 第一印象と身嗜み、所作、メールと手紙 ワーク：挨拶文、お礼状の作成 7 ビジネス知識・マーケティング (PBL) 情報分析力、仕事に役立つ分析力、顧客分析力 PBL：SWOT分析 8 ビジネス知識・マネジメントとチームビルディング (グループワーク) 仕事の進め方、手順と優先順位、PDCAサイクルとは グループワーク : PDCA 9 トラブルシューティング (PBL) 問題解決力 PBL：企業の問題に取り組む 10 ビジネススキル・オフィスワーク (PBL) Excelの基本 仕事の進め方実践 ワーク：見積書作成 PBL：仕事効率化 11 ビジネススキル・プレゼンテーション パワーポイント ワーク：セールスキット作成 12 勤務管理と人事考課 総務、人事業務 PBL：コンプライアンス 13 ビジネス・マナー 社会人のビジネスマナー ワーク：大人のテーブルマナー 14 ビジネス・エチケット (PBL) プロトコール マナーとエチケット PBL：異文化理解 15 講義のまとめ、期末試験 前回までの授業内容を復習し、学習目標の達成度を確認・測定するための筆記試験を行う
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業での学びに参加し、授業内の課題やワークを自分の言葉で説明できる。ワーク時に個人のパソコンを操作し、課題を作成できる。

事前・事後学習	事前学習：事前学習：小テストに向けてプリント課題に取り組む。インターネット等で最新のビジネス情報を得ておく。次回授業計画の内容を確認しておく。（60分）。 事後学習：案内のあった授業課題に取り組む。授業で得た知識やスキルを身につけるため復習を行い、学びを深めるために図書館やインターネット等を活用する。（120分）。
指導方法	主にパワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内で、最新ニュース、一般常識などの課題に取り組む。 課題、提出物に関しては、必要に応じて次回授業内にてフィードバックを行う。小テストに関しては実施後、小テスト結果にコメント記載のうえ返却し、授業やテストに関してのコメントへの質疑対応を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：授業内の課題、小テスト、最終授業内での確認テストの結果、及び課題への取り組み、ワークの参画度にて評価する。 筆記試験40%、課題・レポート20%、小テスト20%、授業参加時の貢献度20%（合計100%）
テキスト	無し 講師作成の資料を配布する
参考書	授業内でその都度案内する。
履修上の注意	日頃から新聞、テレビ、インターネットなどで最新のビジネスニュースに关心を寄せること。 授業では各自のノートパソコンを使用する。Word、Excel、PowerPointまたは互換ソフトを事前にインストールして持参のこと。
アクティブラーニング、PBL	人数の多い授業であるため講義形式の授業を基本とし、PBL型にて講義を進める。また、状況に応じてグループワークなどのアクティブラーニング形式を取り入れる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
秋元未奈子			
ナンバリング：F11C05	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 色彩の基礎的な知識と技術を習得する。物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面を日常の中にある実例や実習を通して学ぶ。色彩検定、デジタル色彩士検定受験者に必要な基礎知識も含む。</p> <p>(授業目標) 色彩の基本を学び色に対する視点を広げ、自在に扱えるようになるためのベースを作る。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：色の基礎的知識を習得した上で、場面に応じた的確な色彩を選ぶことができる。  <input type="radio"/> E：色の基礎的知識を習得した上でカラーイメージを理解し、配色のバリエーションを広げることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 色彩概論 色の役割 色を使う目的 色の使われ方</p> <p>2 色彩の基礎 光と色 混色 照明 目のしくみ</p> <p>3 色彩生理（実習） 色と脳の関係 色が心身に与える影響</p> <p>4 色の歴史と色名（実習） 色の歴史 色の名前の分類</p> <p>5 色の表示と分類1 カラーシステムの種類 色の分類（有彩色と無彩色、純色と清色と中間色） 色の三属性（色相、明度、彩度） PCCSによる色の表示 トーンのカラーイメージ</p> <p>6 色の表示と分類2（実習） PCCSによる色の表示</p> <p>7 配色基礎1（実習） 色相の配色（同一・隣接・類似・中差・対照・補色色相配色）</p> <p>8 配色基礎2（実習） トーンの配色（同一・類似・対照トーン配色） 色相×トーンの配色</p> <p>9 色の見えの効果（実習） 色の心理効果 対比・同化現象 面積効果 錯視</p> <p>10 カラーイメージ1（実習） カラーイメージが作られる要因 イメージ戦略 カラーイメージチャートによるイメージ分類 カラーイメージチャートを使った配色手順</p> <p>11 カラーイメージ2（実習） カラーイメージチャートによるイメージの展開①</p> <p>12 カラーイメージ3（実習） カラーイメージチャートによるイメージの展開②</p> <p>13 配色応用1（実習）</p>
------	---

	カラーイメージを活用した配色 14 配色応用2（実習） セパレーション、ドミナント、グラデーション 15 配色応用3（実習） ベースカラー、アクセントカラー、ポイントカラー
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：色の基礎的知識を習得する。色のしくみを理解する。 ○E：色の基礎的知識を習得し、カラーイメージや配色の違いを知る。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容を復習する（60分） 事後学習：学んだ内容を日常生活の中で意識し積極的に取り入れる（120分）
指導方法	プロジェクトを使用して実例を多く提示し、机上のカラーコーディネート論ではなく、使えるカラーコーディネートを目指す。 カラーカードや色鉛筆による実習で講義内容を早く深く実感してもらう。 色彩検定、デジタル色彩士検定受験希望者が基礎的な知識を得られるような内容とする。 フィードバックの方法は、授業内にて課題提示→課題提出→指摘事項を口頭で講評または記入し返却（課題により異なる）
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：講義内容の理解度、授業態度、課題を合わせて評価する ○E：課題を評価する 課題80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「よくわかるカラーの本」（ファッショング教育社） 「デジタル色彩デザイン」（グラフィック社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社） 「カラーインデックス」（日本カラーイメージ協会）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「新版カラーイメージチャート」（グラフィック社）
履修上の注意	授業内容によりテキストと持ち物が異なるため、事前連絡に必ず目を通す。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心がける。 1年後期『カラーコーディネート演習』、2年前期『トータルコーディネート演習』は、本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブラーニング、PBL	制作実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
秋元未奈子			
ナンバリング：F21C06	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 「カラーコーディネート論」で学んだ知識を生かすための演習を中心とした授業。ファッショント、メイク、インテリア、フラワー等の色彩についてより実践的に学ぶ。演習で様々な手法に触れ、多角的に色彩を見つめられるようにする。カラーイメージを専門的に学び、配色で的確に表現できることを目指す。色彩検定、デジタル色彩士検定受験者に必要な知識も含む。 <b>(授業目標)</b> シチュエーションに合わせて色彩を魅力的に表現できるようにする。 <b>(学習成果)</b> <input type="checkbox"/> C：色の専門的な知識と技術を習得する。ジャンルによって異なる色の特性を知り、提案できる力を養う。 <input type="checkbox"/> E：色の専門的な知識と技術を習得する。演習を通じてセンスや感性を磨き、色彩表現の幅を広げる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ファッションとメイクの配色1（実習） 色相の配色 2 ファッションとメイクの配色2（実習） トーンの配色 3 インテリアの配色3（実習） メインカラー、サブカラー、ベースカラー、アクセントカラーの配色 4 流行色1 流行色のしくみ 流行色の歴史 流行色の提案方法 5 流行色2（実習） 流行色の提案 6 カラーイメージ1（実習） カラーイメージの分類と分析 7 カラーイメージ2（実習） ロマンチック、エレガント、ナチュラル、プリティ、クリアのイメージ 8 カラーイメージ3（実習） カジュアル、フレッシュ、スポーティ、ダイナミック、アバンギャルドのイメージ 9 カラーイメージ4（実習） ゴージャス、セクシー、エスニック、ワイルドのイメージ モダン、ノーブル、シック、クール、フォーマル、ダンディ、クラシックのイメージ 10 カラーイメージ5（実習） カラーイメージの応用と展開 11 色彩心理（実習） 色彩心理分析 12 花の配色1 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作① カラーイメージ選定 配色計画 花材選び 花材下準備 13 花の配色2 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作② 制作 14 花の配色3 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作③ 制作 リボン仕上げ
------	--

	15 花の配色4（実習） 生花による配色計画 生花を使った実習
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：色の専門的な知識と技術を習得する。ジャンルによって異なる色の特性を知る。 ○E：色の専門的な知識と技術を習得し、演習を通じてセンスや感性を磨く。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容を復習する（60分） 事後学習：学んだ内容を日常生活の中に取り入れ、他者に提案する場合はどのようにするか考える（120分）
指導方法	プロジェクトで実例や使用方法を提示し、演習を行う。 演習はカラーカードによる色の選択、色鉛筆での着彩、コラージュ、フラワーアレンジメントなど。 色を扱う職種で色彩を強みにできるような指導を行う。 フィードバックの方法は、授業内にて課題提示→課題提出→指摘事項を口頭で講評または記入し返却（課題により異なる）
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：講義内容の理解度、授業態度、課題を合わせて評価する ○E：課題を評価する 課題80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「よくわかるカラーの本」（ファッショング教育社） 「デジタル色彩デザイン」（グラフィック社） 「新版カラーイメージチャート」（グラフィック社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「カラーインデックス」（日本カラーイメージ協会） ※「新版カラーイメージチャート」以外は新たに購入の必要はなし（カラーコーディネート論で購入したものを使用するため）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会）
履修上の注意	授業内容によりテキストと持ち物が異なるため、事前連絡に必ず目を通す。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心がける。 1年前期『カラーコーディネート論』を単位修得済であることが履修の条件となる。 2年前期『トータルコーディネート演習』は、本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブラーニング、PBL	制作実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C08	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> その人らしい装いには、骨格のプロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど、多くの情報を同時にまとめるための知識と構成力が必要である。なりたい自分のイメージを明確にし、トータルコーディネートの実践的な力を身につける。多くの要素をまとめる力は、他人へのコーディネート提案に応用ができる。 <b>(授業目標)</b> ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、個性を生かしたトータルコーディネート提案ができる。 <b>(学習成果)</b> ◎C：トータルコーディネートに関わる多くの情報を理解し、なりたい自分のイメージを明確にし実践できる。 ○E：骨格プロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど多くの情報を同時にまとめる方法を理解できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ファッション用語（1） コーディネートを構成する多くの情報とは ファッション用語のカテゴリー10分類 カテゴリーごとの用語例 2 ファッション用語（2） コーディネート写真の説明文の用語を分析 3 ファッション用語（3） プレゼンテーション PPT「コーディネート用語」 1人2分間のプレゼンテーション 4 骨格スタイル分析（1） 体型の長さのプロポーション診断 5 骨格スタイル分析（2） 体型の幅と傾斜のプロポーション診断 6 骨格スタイル分析（3） 多くの情報を同時にとらえるための共通のものさし 理想のプロポーションに近づけるためのコーディネート方法 体型補正のコーディネート方法 7 パーソナルカラー（1） 色の3属性による6つの得意な要素 4つのタイプ分類 パーソナルカラー診断の準備 8 パーソナルカラー（2） カラーパーパーによるパーソナルカラー診断 9 パーソナルカラー（3） ドレープによるパーソナルカラー診断① 10 パーソナルカラー（4） ドレープによるパーソナルカラー診断② 11 パーソナルカラー（5） ドレープによるパーソナルカラー診断③ 12 パーソナルカラー（6） 診断結果まとめ 4つのタイプ、6つの得意な要素による自分の色素の特徴 13 パーソナルカラー（7） 自分らしさを生かす色、形、質感 パーソナルカラーの取り入れ方 14 なりたい自分のイメージ（1） アイデンティティによるイメージ分析
------	---

	15	PPT「自分らしいファッションとは」 なりたい自分のイメージ（2） プレゼンテーション PPT「自分らしいファッションとは」 1人2分間のプレゼンテーション
到達目標・基準 C評価になる基準		◎C：トータルコーディネートに関する情報を理解し、実践を試みることができる。 ○E：骨格プロポーション診断による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど多くの情報を理解できる。
事前・事後学習		事前学習：次の講義内容を確認し予習（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法		トータルコーディネートに必要な多様な診断方法を紹介し、学生自ら考え分析し実践し構成できる実践力が身につくように指導する。 提出課題ごとに、よかつた点、改善点について個別にフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		◎C：各課題ごとに採点し評価する。 ○E：各回の授業態度と、各課題ごとの成績で評価する。 課題70%、プレゼン10%、授業態度・貢献度20%
テキスト		「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級【改訂新版】」「新配色カード199a」（すでに購入したものを紛失したり、カードが少なくなった場合は購入すること。）
参考書		「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」
履修上の注意		「カラーコーディネート論」「カラーコーディネート演習」の単位を取得していることを条件とする。また、2年後期『服飾芸術科プロジェクト演習B（カラー診断）』は、本科目を履修していることが履修の条件となる。ふだんから、いろいろな人の身体（肌、目、髪）の色、顔型や体型、いろいろなファッショング商品のデザイン（色、形、素材）を見比べて、違いを見分けられるよう興味をもつ。
アクティブ・ラーニング、PBL		グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
ナンバリング：F11C08			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾との関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッショングーデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッショングーディの共通点・相違点を探る。更に、講義内容に合わせた映画やコレクション映像を使用し、過去の服飾が現代ファッショングーディや社会にどのように反映し融合しているかを視覚的に確認しながら理解を深める。</p> <p>(授業目標) 古代から現代まで各時代様式の特徴と服飾との関連性を理解し、過去の服飾から時代の変化を読み取る力を修得する。</p> <p>(学習成果) ◎D：各時代様式と服飾との関連性を把握し、過去の服飾が現代ファッショングーディや現代社会に反映、融合していく過程を理解する。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 授業ガイダンス 衣服の起源 授業内容の説明 衣服の起源と衣服の役割 2 古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服 3 古代の服飾（2） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾 4 中世の服飾 [小テスト① レポート課題① Google Classroomを活用] (PBL) キリスト教文化とビザンティンの服飾の関連性 ゴシック建築と服飾の関連性 5 近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性 6 近世の服飾（2） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード 7 近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード 8 近代の服飾（1） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾 9 近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生 10 近代の服飾（3） [小テスト② レポート課題② Google Classroomを活用] (PBL) 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾 11 20世紀初頭のファッショングーディ 女性のコルセットからの解放 12 1920年代のファッショングーディ アール・デコ様式の特徴と服飾 ガブリエル・シャネルの活躍 13 1930年代～1950年代のファッショングーディ クリスチャン・ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード 14 1960年代のファッショングーディ [小テスト③ レポート課題③ Google Classroomを活用] (PBL) ロンドンファッショングーディとミニスカートの流行 15 1970年代～2000年代のファッショングーディ まとめ オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッショングーディ
------	---

	講義の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容を確認し教科書で予習しながら、世界史、美術史の知識を得ておく。（20分程度） 事後学習：学んだデザイナーや芸術家について調べ、出題される課題に対するテーマ案を検討する。（20分程度） （課題のテーマを決定させ、レポートの作成に取り組む。（50分程度） 講義で紹介した映画やコレクション映像を、動画配信サービスなどで鑑賞し理解を深める。（90分程度） 講義で紹介した展覧会に出向き実際に実物を鑑賞し知識を増やす。
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を使用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。 Google Classroomを活用し、時代区分ごとに小テストの実施（3回）と、レポート提出の課題（3回）を提示する。 フィードバックの方法：小テスト及び課題の内容や提出に関する質疑応答は、対面または限定コメント欄を活用し個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：小テストの結果と提出レポートの内容から各時代様式と服飾の関連性が理解できているかを判断し評価する。 小テスト40%、レポート課題40%、授業態度・貢献度20%（合計100%）
テキスト	『文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑪「改訂版・西洋服装史」』文化服装学院編 文化出版局発行 2023年第5版 ISBN：978-4-579-11386-6
参考書	特になし
履修上の注意	ファッションの歴史、西洋美術、映画衣装に興味のある方に向いています。 課題の提出は必須です。授業中のスライド撮影は禁止です。 講義の進度により、授業計画や課題が一部変更される場合があります。
アクティブラーニング・PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
<b>担当教員</b>			
江頭誠			
ナンバリング：F12C09	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 <b>(授業目標)</b> 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> C：自身の漠然と想像したデザインのイメージを沢山アウトプットし、描く対象物やディテールに適した技法を判断し、表現できる。 <input type="radio"/> E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる
----------------------------------	--

授業計画	1 講師紹介、ガイダンス 講師の紹介（制作物、メディア情報等の紹介） ファッション イラストレーションAの授業の概要説明 2 基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて（正面、横） イラスト制作に便利なツールの紹介 3 アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用方法について 諸所の画材を用いて実験 4 スカートのスタイル画（1） スカートのスタイル画、コーディネート考案 5 スカートのスタイル画（2） スカートのスタイル画、線画の完成 6 スカートのスタイル画（3） スカートのスタイル画の着彩、仕上げ 7 イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写 8 写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写 9 パンツスタイルのスタイル画（1） パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案 10 パンツスタイルのスタイル画（2） パンツスタイルのスタイル画、線画の完成 11 パンツスタイルのスタイル画（3） パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ 12 オリジナルテーマのスタイル画（1） オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案 13 オリジナルテーマのスタイル画（2） オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成 14 オリジナルテーマのスタイル画（3） オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ 15 総評 本授業の総評。 今までの作品の振り返りをし、上達したところを再確認する。
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> C：自身の想像力の幅を増やす。それらをどのように具現化していくかを試行錯誤できる。失敗しても良い、楽な気持ちで挑むことが重要。 <input type="radio"/> E：技術、技法が身につけ、それらを適材適所に自身のイメージに当てはめていくができる。

事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。
指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆や、上達のためのアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：課題の内容、課題の中で挑戦しているか、様々な技法を取り入れているか。期限内に提出できているか。 ○E：授業態度。教授業内で学んだ技術を作品に活かしているか。積極的に授業に参加しているか。 課題提出70%、授業態度、貢献度30%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
<b>担当教員</b>			
飯田淳			
ナンバリング：F22C10	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッショニアラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。 <b>(授業目標)</b> 基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画、提案できる。 <input type="radio"/> E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につけることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッショントとの関係を解説 2 色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える 3 色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する 4 生活スタイルとファッショント（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える 5 生活スタイルとファッショント（2） 企画案からファッショントのアイディアスケッチを制作する 6 生活スタイルとファッショント（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 7 色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する 8 色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する 9 生活スタイルとファッショント（1） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする 10 生活スタイルとファッショント（2） 企画案からファッショントのアイディアスケッチを制作する 11 生活スタイルとファッショント（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 12 自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する 13 自由課題 好きな画材とサイズで制作する 14 自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 15 全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> C：生活スタイルとファッショントの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 <input type="radio"/> E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。
事前・事後学習	事前学習：ファストファッショントからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッショントのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。（30分） 事後学習：雑誌、web等の情報からファッショントの流れを予測して、画像等をファーリングして次の課題につな

	げる。(30分)
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。 表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクション的な指摘も行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 ○E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブラーニング・PBL	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C11	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業目標) モノ消費からコト消費へのニーズに合わせた価値創造が出来るようデザイン思考のプロセスを用い建設的なクリエイティブを目指す。人と物やサービスをどのように繋げるかをWebやアプリ制作を通したプログラミング的な要素で、課題発見を解決する構想力をつける。テーマを決めグループワークと個人ワークを繰り返す。共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイピング・テストを繰り返し、答えを導く。なぜその答えに至ったのかのプロセスに重きを置き、ビジネスで有効な伝えるデザインを目指す。</p> <p>(授業目標) 「adobe XD」を使用し、webなどを制作しながらリサーチすることで、現状のビジネスを知り、新しいビジネスに繋がるきっかけや発信方法を考察することができる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> A：主体性を持ってグループで企画を進める事ができる  <input type="radio"/> B：デジタルの制作技法を活用し、柔軟に意見を取り入れ、自己肯定感を持ってコンセプトに基づく制作ができる       </p>
----------------------------------	--

授業計画	1 本講座とAdobeソフトについて 今後の企画内容のガイダンスとAdobeソフトについて  2 UIとUXデザインについてとグループディスカッション ユーザー視点に立ってサービスや商品の本質的な課題（例：日頃のファッションに関する悩みやSDGsに関する内容）を挙げ、課題を解説するためのデザイン設計概要をディスカッション  3 ワイヤーフレーム制作 リサーチを繰り返し人と物やサービスをどのように繋げればいいかの枠組みを決め、グループでの共通認識を持ち、作業方針を決めていく  4 基本操作(色・形・文字) XDの基本操作を習得しワイヤーフレームを元に構造のベースを設定  5 トップページ制作 サービスやブランドの顔を作ることで全体のデザインの方向性を決めていく グループで決めたコンセプトや設計に基づき作業分担を決める  6 基本的なUIデザインのパターンとデザインの共通概念 企画に合う基本的なデザインパターンを制作しトップページを完成させる 相手の目線が誘導され、クリックしたくなるデザインを調査し制作に反映させる  7 基本操作(動き) ユーザーの意識が対象に向くよう動きを調査し 動きの付け方や試行方法を習得する  8 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる  9 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる  10 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる  11 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する  12 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する  13 作品全体を通しての試行 グループ内で作品を試行し、課題解決になっているか問題発見と解決を目指しディスカッションとプラッシュアップ  14 回遊の為のデザイン調整 作品内でユーザーを回遊させる方法を考察し魅了するビジネスに繋げる
------	---

	15	様々な切り口で関連する情報を完成させる 学修成果発表 講評 プラン完成後、全員で作品を試行し、評価し合う。これからのビジネスにどのように活かせるかなど考察する
到達目標・基準 C評価になる基準		○ A : 計画性を持ってグループで企画を進めることができる ○ B : デジタルの制作技法を活かし、伝えたいことを形にすることができます。
事前・事後学習		事前学習：普段何気なく使用しているアプリやサイトに対して、なぜ使いやすいのか、機能的な表現がどうなっていると伝わりやすいかをリサーチする。XDの使用に慣れる為基本操作動画を見て事前確認をする。(20分) 事後学習：作品で使用する画像や動画など教室ではできない撮影や素材集め(40分)
指導方法		プロジェクトにて制作の過程や操作方法を表示し、学生と同時に進行にて指導を行う。 各学生からの質問に対しては個別に対応し、表現したいデザインに合わせて応用技術の指導を行う。 各回で課題制作確認とフィードバックを口頭で行いながら進める
アセスメント・成績評価の方法・基準		○ A : 課題や授業への貢献度を評価 ○ B : 課題と成果物による評価 作品70%、授業態度及び貢献度30%
テキスト		適宜フォーマット配布
参考書		
履修上の注意		Adobeソフト使用 各自PC持参 「ファンデジタル演習B」のAdobeソフト使用の科目を履修する事で、よりデジタルスキルの向上を目指せ、就活やビジネスに活かせるポートフォリオ作りに繋がる。  制作課題に対するフィードバックは学生同士の作品鑑賞時に講評する。
アクティブラーニング・PBL		PBL型授業 (ディスカッション・グループワーク・制作実習)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業目標)</b> 一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。ポートフォリオにまとめながら、デジタルスキルを向上させる。本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・カタログ・グッズや服などのデザインを企画し、実際に製作する。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にすることで、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。 <b>(授業目標)</b> 「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、グラフィック系ソフトの使い方を習得する事ができる。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的デザインを身につけることができる。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> B：主体性を持ち、最後まで追求しながらデザイン制作を行う。 <input type="radio"/> C：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを明確にし検証改善を繰り返し制作ができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について 2 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 基本的なフォントや文字の配置方法 色や型による印象などをディスカッション 3 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 画像のレイアウト・コラージュ方法 自分表現する色や型を模索し自分を表現し、相手に講評してもらいブラッシュアップ 4 ブランド企画とロゴマーク ブランド企画をし、コンセプトに基づいたロゴマーク作成 前回課題を元に自分ブランドを作る 5 ブランド企画とロゴマーク コンセプトに基づいたロゴマーク作成 ブランドコンセプトシートを作り発表し合い、伝えたいコンセプトが伝わるデザインになっているかディスカッションし制作する 6 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ調査・考察 前回制作のロゴマークを元にブランドの視覚的な一貫性を図るために、ブランドらしさを伝えるデザインの広がり例を調査し、自分ブランドに繋げていく 7 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ制作 自分ブランドを視覚的に統一し伝えることができているかを制作、ディスカッションを繰り返す 8 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているかディスカッションを含め表現の追求をする 9 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているか制作を進める 10 その他販促品制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる（紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー）など 相手にブランドが理解浸透しているか制作を進める 11 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作 12 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作
------	--

	13	作品撮影 今までの作品を振り返り、ポートフォリオに入れる為の撮影とデータのまとめ
	14	企画書まとめ 今までのデザイン案をまとめ、製作物を撮影してポートフォリオとしてまとめる プランディングデザインが効果的におこなわれているか見える形にする
	15	学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> B : 好奇心や主体性を持ってプランを完成できる <input checked="" type="radio"/> C : 「Adobe Illustrator」の基本的な技術を用いて、オリジナルのグラフィック制作ができる	
事前・事後学習	事前学習: コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(20分) 事後学習: 授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、課題を完成させる(40分)	
指導方法	プロジェクトにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生の出ないよう、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題のフィードバックは適宜口頭で行う。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	<input type="radio"/> B : 授業態度及び授業への貢献度を評価する <input checked="" type="radio"/> C : 作品課題の提出物で評価する 課題提出物80% 授業態度及び貢献度20%	
テキスト	適宜フォーマットデータを配布	
参考書		
履修上の注意	事前学習にしっかりと取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や各自材料を購入し持参することが必要 ファッショントレーニングAを合わせて履修することにより、Adobeソフトの使用がよりスムーズに作業可能である。	
アクティブラーニング、PBL	PBL (ディスカッション・デザイン制作・発表)	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C18	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショッピングの形に活かす。より良いVMD計画を毎回の授業の学びを取り入れつつ、ディスカッションや調査を通じ徐々に完成させていく。 <b>(授業目標)</b> ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。 <b>(学習成果)</b> ◎D：VMDの学びを活かし商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：学びを理解しショッピングのコンセプトやターゲットに合わせたVMD計画を習得する。
----------------------------------	---

授業計画	1 ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方 2 購買行動とビジュアル オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える 実在するブランドコンセプトを分析し、ディスカッションしまとめる 3 デザインティストの規格化と店舗デザイン ブランドティストや商品を考慮したショッピングスタイリング 前回制作の資料を元に店舗内でコンセプトを表現するにはを調査しまとめる 4 店舗ツール ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る 前回制作の資料を元に、適するツールやマネキンを実在する企業を調べリストアップする 5 売り場作り ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える 前回制作の資料を元に、店内レイアウトを制作する 6 3つのゾーンの役割 VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る 前回制作の資料を元に、3つのゾーンに分ける 7 IP（陳列の基本） 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る 8 IP（陳列の基本） カラーテクニックやアイテム別の魅せ方 前回制作の資料を元に、IP内のプランを制作する 9 PP（ゾーンのポイント） 効果的な配置場所とディスプレイ構成 前回制作の資料を元に、PPディスプレイをシミュレーションし資料にまとめる 10 VP（店舗の顔） 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析 実際のショーウィンドウなどから構成を発見する 11 VP（店舗の顔） 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ 前回制作の資料を元に、どのようなVPがふさわしいかまとめる 12 MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法やライティングなどで商品に与える影響や印象を学ぶ 13 年間のお買い場づくり 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する 前回制作の資料を元に、年間の店舗ディスプレイや陳列における販促計画を制作 14 季節の装飾 旬なおもてなしでお客様の心を掴む 前回制作の資料を元に、年間販促計画から一つをピックアップし、具体的なVMD計画を表現する
------	---

	15	店内再編集とこれからの時代のVMD 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像 これまでの課題をまとめ、コンセプトが伝わるVMD計画ができているか、他グループと意見交換や講評をする
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる ○E：より良いお買い場づくりにつながるVMDとは何かを習得する	
事前・事後学習	事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする。課題やワークを完成させる（120分）。	
指導方法	講義内容に関連する写真や映像等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う 毎回授業内のワークで課題に取組む。ワークは課題として提出期限を設ける 課題は全員に共有し口頭でフィードバックしプラッシュアップできるようする	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：授業内でのワークや課題による評価 ○E：確認試験や課題による評価 課題提出物70%、小テスト20%、授業態度及び貢献度10%	
テキスト	なし 適宜プリント配布 参考文献に関してはその都度指示する。	
参考書		
履修上の注意	百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。 各自PC毎回持参	
アクティブ・ラーニング、PBL		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C19	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、実現可能な表現力を養う。 商品の魅力を接客なしで伝えることができるよう、商品の魅せ方や展示方法を工夫した、ディスプレイデザインの企画、制作を通して、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。 <b>(授業目標)</b> 「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザイン制作を身につけることができる。 <b>(学習成果)</b> ◎C：コンセプトやターゲット設定し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 店舗におけるビジュアル 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定 ディスプレイデザインの事例調査と各自課題設定 操作について IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク 2 操作について IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク 3 操作について 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク 4 コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作 5 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画 6 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画 7 ディスプレイ構成 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をコラージュ 8 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 9 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 10 ディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得 11 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる 12 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる 13 ディスプレイ立体製作・撮影 PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする 14 プランまとめ (PBL) 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする 学修成果発表 講評 (PBL) 課題のプレゼンテーションと意見交換
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：販促活動の一環として、企画し実施することができる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。
指導方法	プロジェクトにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題製作の際、適宜フィードバックを行う。最終授業時に講評発表
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：課題提出物、授業態度および貢献度を評価する 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 (Adobe登録料が必要である。デジタルゼミ・ブランドプロデュース演習を履修の場合は支払い済) 各自PC持参 製作物に合わせ事前準備や購入持参するものがある  ビジュアルアート論を履修する事が望ましい 事前学習にしっかりと取り組み、技術取得に努める
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL (ディスカッション・デザイン制作・発表)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F12C16	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 服飾の素材としての観点から纖維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。</p> <p>(授業目標) 服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを理解し、服飾造形構想のヒントを手に入れる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> C：素材に関する知識を修得し、服飾デザインや造形を行う際に適した選択ができるようになる。また実際の衣服生活に役立てることができる。  <input type="radio"/> D：纖維、糸、布地の基本的な種類、構造、性質を理解できる。快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）・ファッショントピック 「ファッショントピック」 2 繊維の分類と特徴（1） 「天然繊維」 3 繊維の分類と特徴（2） 「化学繊維」 4 繊維の分類と特徴（3） 「機能性繊維や新しい繊維」 5 繊維の分類と特徴（4） 「繊維のまとめ、理解度確認小テスト」 6 布地の構造（1） 「糸、織物、編物について」 7 布地の構造（2） 「三原組織」 8 布地の構造（3） 「染色、加工」 9 布地の構造（4） 「布地のまとめ、理解度確認小テスト」 10 ファッショントピックの管理（1） 「品質管理、取り扱い表示」 11 ファッショントピックの管理（2） 「洗浄、衛生」 12 服地の種類と特徴（1）（ゲスト講師） 「用途と歴史」 13 服地の種類と特徴（2） 「デザインとシルエット」 14 服地の種類と特徴（3） 「纖維産業の現状と展望」 15 まとめ 「授業の振り返りと理解度測定テスト」
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> C：実際の衣生活に役立てる纖維製品の扱い方を判断できる。 <input type="radio"/> D：纖維、糸、布地の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる。（30分） 日頃から身のまわりのファッショントピックに関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がけ

	る。(30分) 事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。(120分)
指導方法	パワーポイントや映像などで講義を行う。授業内でのリアクションペーパーやレポート、小テストなどの提出がある。 フィードバックの仕方：①確認問題実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：繊維製品に関する判断力をリアクションワークによって評価する。 ○D：繊維、糸、布地の基本的な種類、構造、性質に関する知識を修得しているかを小テストやまとめテストによって評価する。テスト（小テスト、まとめテスト）50%、提出物30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	・リサーチやリアクションなどに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・理解のために紙を使用した制作があるため、必要な道具を初回で説明する。 ※アパレル産業に関する専門的な内容となるため、課題提出物や小テストが多く、事前事後学習をしっかりと行う必要がある科目である。
アクティブラーニング、PBL	素材資料の制作

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F12C17	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ファッショングデザインの中でも主にアパレルデザインに重きを置き、着装されることを念頭に置いた具体的なデザインを探求する。その表現方法としての製品図（平絵）技術について理解する。</p> <p>(授業目標) 既製服のデザインを行う際には、生産工程へ伝えるための手立てが必要である。その方法の一つとしての製品図（平絵）は、イメージに即したものであると同時に正確な情報を持つことが重要である。のために既製服のディテールやスタイリングについての学修を深め、デザイン展開に役立てる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> C：既製服のスタイリングデザインの提案ができる、商品構成を考えることができる。  <input type="radio"/> E：デザインイメージと服として必要な情報をもつた製品図（平絵）を的確に作成できる。</p>
授業計画	1 アパレルデザインとは 授業の概要説明、アパレル業界の仕組み、既製服の企画、生産工程について 2 アパレルデザインの基礎知識（1） アイテムの分類、ディテール（構造・歴史）について 3 アパレルデザインの基礎知識（2） 提示したディテールに関する探究 4 アパレルデザインの基礎知識（3） 素材とデザインとの関連 5 アパレルデザインの基礎知識（4） 提示した素材に関するテーマについての探求 6 コンセプトのデザイン表現（1） コンセプトイmageの探求（既存のアパレルブランドにおけるデザイン分析） 7 コンセプトのデザイン表現（2） デザイン分析の発表 8 デザイン表現方法（1） スタイル画の役割と表現方法 9 デザイン表現方法（2） 製品図（平絵）の役割と表現方法 10 デザイン表現（3） バリエーション・カラー展開 11 スタイリング（1） 提示するテーマについてのスタイリングをスタイル画で表現する。 12 スタイリング（2） 提示するテーマについてのスタイリングを製品図（平絵）で表現する。 13 コンセプトの立案とデザイン展開（1） コンセプトを立案、スタイリングイメージ、デザインの展開 14 コンセプトの立案とデザイン展開（2） コンセプト、スタイリングイメージ、デザイン展開についてのポートフォリオ作成 15 コンセプトの立案とデザイン展開（3） コンセプト、スタイリングイメージ、デザイン展開についてのポートフォリオ発表
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> C：既製服のデザインができる。 <input type="radio"/> E：生産を行う既製服についての製品図（平絵）を作成できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッショングデザインに関する書籍や動画をみて、デザインに関する知識を深める。（90分） 事後学習：授業で得たヒントやアイディアをもとにデザイン分析を行い、アップデートする。（90分）

指導方法	講義内容に適した画像や動画などの視覚的媒体を多用し、パワーポイントにて説明を行う。課題の提出があり、テーマ毎に制作物の発表を行う。 フィードバックの仕方：課題は、評価を行い返却する。質問は授業時後に個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：各テーマごとの発表を評価する。 ○E：スタイル画、製品図（平絵）のデザイン表現力と技術の評価を行う。 課題・提出物70%、授業への貢献度30%
テキスト	「Fashion+ イラストで学ぶファッション」鄭貞子・小野順子著、IKOMA出版、2025年、ISBN978-4-9912511-2-2を使用する。
参考書	参考文献は、その都度指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチやデザインに使用するためパソコンを毎回持参すること。</li> <li>・手書きの製品図を描く際に使用する道具（定規、筆記具など）の準備が必要となる。</li> </ul> <p>※既製服に関する専門的な内容であり、課題と発表が多い授業であるため、事前事後学習をしっかり行う必要がある科目である。      ※履修者の状況や進捗に応じて授業内容に変更が生じることがある。</p>
アクティブラーニング、PBL	プレゼンテーション、描画

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12C19	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。 課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱い方などを学修する。</p> <p>(授業目標) 基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。 服飾雑貨製作では、機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。</p> <p>(学習成果) ◎E：基礎的な製作技能を理解、修得し、課題を製作することができる。基礎的な縫製技術を理解し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 基礎縫い（1）（実習） 玉どめ、なみ縫、ぐし縫の基礎技法 2 基礎縫い（2）（実習） 半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法 3 基礎縫い（3）（実習） ミシン、ロックミシンの使用方法について 4 基礎縫い（4）（実習） 置きじつけ、まつり縫、千鳥がけの基礎技法 5 基礎縫い（5）（実習） 置きじつけ、奥まつり縫の基礎技法 ボタン等の使用方法を実習 6 基礎縫い（6）（実習） スナップ、ホック等の使用方法を実習 7 服飾雑貨製作基礎（1）（実習） ポケットのデザイン考案 8 服飾雑貨製作基礎（2）（実習） 作図、裁断、印をつける 9 服飾雑貨製作基礎（3）（実習） 布端の処理、ポケット製作 10 服飾雑貨製作基礎（4）（実習） 持ち手を作成し胴に縫いつける 11 服飾雑貨製作基礎（5）（実習） 胴、まち、底を縫う 12 服飾雑貨製作応用（1）（実習） 作図、裁断、印をつける、布端の処理 13 服飾雑貨製作応用（2）（実習） ファスナーをつける 14 服飾雑貨製作応用（3）（実習） 胴、まち、底を縫う 15 衣服トラブルを解決する（実習）（PBL） 日常生活における衣服トラブルを解決する手段を学ぶ
到達目標・基準	◎E：基礎的な製作技能を説明できる。日常生活における衣服トラブルの解決方法を説明できる。

C評価になる基準	
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する（30分）。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく（30分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。
参考書	なし。
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。 「服飾造形応用」は、本科目の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F12C20	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>服飾造形基礎を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。          実習で修得した知識、技術を基に製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。          製作工程に沿った配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。</p> <p>(授業目標)</p> <p>衣服の組み立て方と製作手順を学修し、製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎E：服飾造形基礎で学修した技能、知識を活かし、課題を制作することができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ガイダンス          授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図          採寸、パターン作図</p> <p>3 作図、布地選択          パターン作図、素材決定</p> <p>4 裁断、印つけ          裁断、印をつける</p> <p>5 芯の裁断と接着、裁断          必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>6 本縫い①          身頃の縫い合わせ、布端のロックミシン始末</p> <p>7 本縫い②          ファスナー付けの練習（部分縫い）</p> <p>8 本縫い③          ファスナー付け</p> <p>9 本縫い④          衿ぐり</p> <p>10 本縫い⑤          ダーツ、脇線</p> <p>11 本縫い⑥          袖</p> <p>12 本縫い⑦          袖口、裾の始末</p> <p>13 本縫い⑧          まとめ</p> <p>14 付属品制作          共布ベルトなど付属品の制作</p> <p>15 作品発表（プレゼンテーション）（実習）          プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける          着装発表を行う</p>
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：課題の正しい縫い方を理解し、作り上げることができる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形基礎で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（30分）。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（30分）。

指導方法	パワー・ポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：課題の完成度を評価する。 課題70%、授業への貢献度20%、プレゼンテーション10%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形基礎」を単位取得済であることがこの科目を履修する条件である。 作業工程に遅れないよう積極的に課題に取り組むこと。 ※材料を各自で用意する必要がある。（詳細は授業時に説明）
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
ナンバリング：F12C21	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めについて、技法や素材との関係、工程を学ぶ。</p> <p>基本の染め方による試作により技法と表現、工程についての理解度を高める。</p> <p>それぞれの染め方の技法と工程に適したデザインを考え染色作品を完成させる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。</p> <p>(授業成果)</p> <p>○D:既存の染色作品やテキスタイル製品に関心を持って知識を深め、技法と工程を理解した上で作品に活かすことができる。</p> <p>○E:技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 ガイダンス・ロウケツ染めのハンカチ制作（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作課題についての説明</li> <li>・ロウケツ染めの素材、技法、表現についての説明</li> <li>・ロウケツ染めの試作を染める</li> </ul> <p>2 ロウケツ染めのハンカチ制作（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロウケツ染めの試作を染める</li> <li>・試作提出</li> <li>・デザイン画を描く</li> </ul> <p>3 ロウケツ染めのハンカチ制作（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン画を実物大に描く</li> <li>・布にロウを置く</li> </ul> <p>4 ロウケツ染めのハンカチ制作（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応染料による彩色</li> </ul> <p>5 ロウケツ染めのハンカチ制作（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロウを取る</li> <li>・仕上げ</li> <li>・作品提出</li> </ul> <p>6 型染めのエコバッグ制作（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型染めの素材、技法、表現についての説明</li> <li>・型紙の作り方考え方をプリントで演習</li> <li>・演習プリント提出</li> </ul> <p>7 型染めのエコバッグ制作（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン画を描く→Google Classroomに提出</li> </ul> <p>8 型染めのエコバッグ制作（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを実物大で描く</li> <li>・型紙を切り抜く</li> </ul> <p>9 型染めのエコバッグ制作（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔料で試作を染める</li> <li>・顔料でエコバッグに染める</li> <li>・仕上げ</li> <li>・作品提出</li> </ul> <p>10 絞り染めのハンカチ制作（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絞り染めの素材、技法、表現についての説明</li> <li>・絞り染めの試作を染める</li> <li>・試作提出</li> </ul> <p>11 絞り染めのハンカチ制作（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを描く</li> <li>・デザイン画を実物大にする</li> <li>・布を縫う</li> </ul> <p>12 絞り染めのハンカチ制作（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布を縫う</li> </ul>
------	--

	13	絞り染めのハンカチ制作（4） ・縫った糸を絞る
	14	絞り染めのハンカチ制作（5） ・藍による浸染 ・乾燥
	15	絞り染めのハンカチ制作（6） ・絞った糸をとる ・仕上げ ・作品提出
到達目標・基準 C評価になる基準	○D:既存の作品や製品から興味のあるデザインを選択して模倣することができる。 ○E:基本的な技法により染色作品を制作することができる。	
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな製品、作品を見て見識を深めること。技法や工程などを資料や動画で予習しておくこと（60分） 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などを資料や動画で復習しておくこと。（30分）	
指導方法	実習作品の全体像を把握できるよう、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルの試作または、演習をして理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの方法：デザインアイデアのスケッチに対してGoogle Classroomも活用して、技法に適したアドバイスをする。 Google Classroomにデザイン画の提出（学生）→アドバイスを記入し返却、または授業中にアドバイスをする →再提出	
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D:提出課題により、工程や技法についての理解度（工程や技法に適したデザインを考えることができるのか等）を評価する。 ○E:提出課題の完成度（工程や技法に適したデザインを考えられた上で、仕上がりの美しさを意識した丁寧な作業ができるか等）を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%	
テキスト	資料を配布、またはGoogleClassroomにアップする	
参考書	なし	
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。 危険な薬剤を使用する工程もあるので、注意事項を聞き逃すことなく作業を進めること。	
アクティブラーニング・PBL	実習	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F22C24	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 現代の「ファンシオン」を取り巻く様々な問題に目を向け探求し、リメイクの視点から解決に向けたプロセスを考察する。基本的なリメイク技法を学び、応用作品の制作を行う。
	(授業目標) 前半では、小作品を制作し基本的なリメイク技法を習得する。後半のグループワークでは、コンセプトに基づいた作品の制作と発表を通じて、創作物の実践的な発信力を身に付ける。
	(学習成果) ◎E：諸問題の探求を通して新たな発見・発案を行い、コンセプトに基づいた作品を制作できる。

授業計画	1	ガイダンス（授業概要の説明） 「授業の流れ、生産と消費が抱える問題と背景」
	2	リメイク技法の探求 「リメイク技法及び事例のリサーチと考察」
	3	リメイク技法を用いたデザイン立案 「リメイクデザイン案の作成」
	4	リメイク技法を用いた小作品制作1 「リメイク作品の実制作」
	5	リメイク技法を用いた小作品制作2 「リメイク作品の仕上げ」
	6	リメイク小作品のプレゼンテーション 「制作した小作品の発表」
	7	リメイク作品企画1（グループワーク）（PBL） 「コンセプトの構築」
	8	リメイク作品企画2（グループワーク）（PBL） 「イメージとデザイン案の作成」
	9	中間プレゼンテーション（グループワーク） 「コンセプト、デザインについての中間発表」
	10	リメイク作品制作（グループワーク） 「作品と発表資料の実制作①」
	11	リメイクプロダクト制作（グループワーク） 「作品と発表資料の実制作②」
	12	リメイクプロダクト制作（グループワーク） 「作品と発表資料の実制作③」
	13	リメイクプロダクト制作（グループワーク） 「作品と発表資料の実制作④（仕上げ、撮影）」
	14	プレゼンテーション資料の制作 「作品と発表資料の完成、発表準備」
	15	最終プレゼンテーション（グループワーク）

	「完成した作品と資料の最終発表と相互評価」
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：問題の探求に基づいたデザイン、コンセプトを発案し、実際に使用出来得る作品制作ができる。
事前・事後学習	事前学習：制作や探求に必要な基礎知識の調査、及び準備。（20分） 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。（25分）
指導方法	テーマに対する探求や制作は、講義も交えて指導していく。授業の流れは、前半は個人で取り組み、後半はグループワークで行う。毎時の進行状況や成果物は隨時レポートする。 フィードバックの方法：①課題を提示、②制作物、プレゼンテーションを評価し、返却、③評価に関する質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：グループワーク内での貢献度、プレゼンテーション内容および制作物のクオリティを評価。 プレゼンテーション40%、制作物40%、授業態度と貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント等を配布
参考書	授業内で提示
履修上の注意	・リサーチやアーカイブ、制作などに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。 ※服飾造形基礎を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、制作、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F22C25	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 立体造形の基本制作（原型制作、型取り、複製）を通して装飾技術を経験する。</p> <p>(授業目標) 立体的な技法を学び、様々な素材による造形表現方法を身につけ、商品開発などにおける基礎的な知識や、立体制作の実践に応用できる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：それぞれの技法を学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。  <input type="radio"/> E：基礎技術をもとに、一貫したテーマを持ち独創的な制作と言語化ができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明） 「立体造形の歴史とデザイン」 2 立体造形1 「石粉粘土による骨格制作①」 3 立体造形1 「石粉粘土による骨格制作②」 4 立体造形1 「石粉粘土による骨格制作③」 5 立体造形2 「石粉粘土による筋肉・皮膚制作①」 6 立体造形2 「石粉粘土による筋肉・皮膚制作②」 7 立体造形2 「石粉粘土による筋肉・皮膚制作③」 8 立体造形2 「石粉粘土による筋肉・皮膚制作④」 9 立体造形3 「石粉粘土による部位制作（目・鼻・口など）①」 10 立体造形3 「石粉粘土による部位制作（目・鼻・口など）②」 11 立体造形3 「石粉粘土による部位制作（髪・耳など）①」 12 立体造形3 「石粉粘土による部位制作（髪・耳など）②」 13 立体造形4 「修正着色①」 14 立体造形4 「修正着色①」 15 展示・プレゼンテーション 「展示・プレゼンによる発表」
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> D：それぞれのデザインの基礎力を身に付け、発案に活かせる。 <input type="radio"/> E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。 (20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。 (25分)
指導方法	パワーポイントや映像など基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は隨時確認し、フィードバックする。。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 ○E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F22C26			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ハンドクラフトニットでは、手編み技法の学修を行うことで編み方の技術や構造を理解することができる。編み地はニットとも言われ、かぎ針を用いて毛糸などを使い、ループを作りそのループに次のループを引っかけて1本の糸を編み上げていくことで編み地を製作していく。製作に使用する、かぎ針の素材はプラスチック、木、金属などがあり、編み針の太さは号数で表している。</p> <p>(授業目標)</p> <p>基本である技術を学修することで、かぎ針と糸の適合性、糸の特性、編み図記号などを理解することができる。数種類の基礎編みを習得した後に、各自で形状を決め材料を調達し応用作品の完成を目指す。課題は基礎編み、モチーフ基礎編み、応用作品とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎ E：基礎編みの技術を組み合わせ課題作品に応用することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 かぎ針編み基礎技法（実習：基礎技法） 授業内容ガイダンス、編み図説明、かぎ針の持ち方、糸の扱い方、作り目、くさり編み技法 2 かぎ針編み基礎技法（実習：細(コマ) 編み） 細(コマ) 編みの技法 3 かぎ針編み基礎技法（実習：長編み） 長編みの技法 4 かぎ針編み基礎技法（実習：透かし編み） 透かし編み技法（1） 5 かぎ針編み基礎技法（実習：透かし編み） 透かし編み技法（2）、仕上げ方法、糸始末 6 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 円形モチーフ編み技法 7 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 四角形モチーフ編み技法 8 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 六角形モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法 9 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） グラニースクエア編み技法、糸変え方法、仕上げ方法、糸始末方法 10 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 花モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法 11 応用作品製作（1）（実習：同左） 応用作品のデザイン決定、作品製作について相談 12 応用作品製作（2）（実習：同左） 応用作品の編地決定、作品製作について相談、作品製作（1） 13 応用作品製作（3）（実習：同左） 作品製作（2） 14 応用作品製作（4）（実習：同左） 作品製作（3） 15 応用作品製作（5）（実習：同左） 作品製作（4）、仕上げ、完成
到達目標・基準 C評価になる基準	◎ E：基礎編みで学修した基礎技術を組み合わせて編地の表現方法を理解する。
事前・事後学習	基礎技術を理解するために事前事後学習をすること。

	事前：動画とプリントに目を通しておくこと（20分）。 事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し課題を仕上げておくこと（25分）。
指導方法	・製作工程に関するプリントを配布し、PowerPointと動画を交えて基礎技術の説明を行う。 ・講義と個別指導を交えながら基礎技術を理解し、応用作品完成までの工程について指導を行う。 フィードバックの仕方：課題を評価し返却し、質問は個別対応を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：説明に対する理解力と応用作品の完成度 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布
参考書	
履修上の注意	授業進度に遅れている場合は空き時間などをを利用して進めるように注意すること。 課題提出日は厳守すること。
アクティブラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
永田貴恵子			
ナンバリング：F22C27			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 刺繡は針と糸から生まれる美しい手芸 (Hand craft) です。技法はたくさんありますが、基本となるフランス刺繡から始めます。</p> <p>(授業目標) 刺繡の材料（布・糸・針）や用具の扱い方を学び、実際に作品を制作しながら技術を習得します。布の目数を数えて刺すクロスステッチも学習します。</p> <p>(学習成果) ◎E：基礎刺しの名称と刺し方を理解し正しく刺繡ができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容や授業の進め方の説明 刺繡の材料や用具の取り扱い方の説明 実際に刺繡された作品を見て刺繡を知る (世界各国の様々な刺繡を知り見識を深めるためにパソコンやスマートフォンを活用する)</p> <p>2 フランス刺繡 実習① フランス刺繡のサンプラー（基礎刺し見本）を制作する 刺繡布の準備、裁断・三つ折り縫い実習</p> <p>3 フランス刺繡 実習② 図案の写し方説明 布に図案を写す ランニングステッチ バックステッチの刺し方実習</p> <p>4 フランス刺繡 実習③ アウトライnstitch チェーンステッチ レイジーディジーステッチの刺し方実習</p> <p>5 フランス刺繡 実習④ フライステッチ フレンチノットステッチ バリオンステッチの刺し方実習</p> <p>6 フランス刺繡 実習⑤ サテンステッチ ロングアンドショートステッチの刺し方実習</p> <p>7 フランス刺繡 実習⑥ スペイダーウエブローズステッチの刺し方実習</p> <p>8 ビーズ刺繡 実習⑦ ビーズスパンコールの用具の取り扱い方の説明 ビーズ・スパンコールの刺し方説明 スパンコールをビーズで留める ビーズ平刺しの刺し方実習</p> <p>9 オリジナルの図案を刺繡する 実習⑧ フランス刺繡の基礎刺しの応用としてオリジナルの図案を考える（図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する）</p> <p>10 オリジナルの図案を刺繡する 実習⑨ オリジナルの図案を刺繡する</p> <p>11 オリジナルの図案を刺繡する 実習⑩ 刺繡作品の仕上げ方説明 サンプラーを完成させる</p> <p>12 クロスステッチ 実習1 クロスステッチの布や針の説明 図案の読み方 刺し方実技の説明 基本的な刺し方の実習</p> <p>13 クロスステッチ 実習2 クロスステッチをめ込むポーチを制作する オリジナルの図案・配色を考える（図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する） クロスステッチ実習</p> <p>14 クロスステッチ 実習3</p>
------	--

	クロスステッチ実習 15 クロスステッチ 実習4 クロスステッチの仕上げ方説明 クロスステッチをはめ込むポーチを完成させる
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：基礎刺しを正しく理解した上で図案を構成し刺繡で表現できる。
事前・事後学習	事前学習：刺繡の技法や作品について調べる。配布されたプリントを読む。(20分) 事後学習：授業終了後には学習した刺繡の技法を確認し課題の完成に努める。(25分)
指導方法	サンプラーを標準として示し、基本的な刺し方・用具の取り扱い方・図案の写し方を指導する。刺繡技法は小グループに分かれ実習指導をする。 フィードバックの仕方：①実習 ②作品提出 ③採点（評価）返却 ④質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：作品の完成度を評価する。 作品80% 授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布。
参考書	
履修上の注意	授業時間内での完成を目指すが、期日までに提出できない場合は各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F22C28	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 日本の和装や装身具の歴史に触れながら装飾に関わる日本工芸技術である、つまみ細工を中心に技法を体得する。</p> <p>(授業目標) 日常生活や式典など、実際に自身が装着することを想定とした課題の中で、身につけた技法を取り入れたデザインを構築し、実制作まで行う。</p> <p>(学習成果) ◎E：基礎技術をもとに、独創的な作品の制作ができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）・和小物について 「日本の装身具の歴史の理解・制作準備」
	2 つまみ細工技法を用いた制作① 「つまみ細工の基本技法（剣つまみと丸つまみ）」
	3 つまみ細工技法を用いた制作② 「つまみ細工の応用技法の理解」
	4 つまみ細工技法を用いた制作③ 「つまみ細工の応用技法を用いた制作」
	5 水引を用いた制作① 「水引の歴史・基本技法の理解」
	6 水引きを用いた制作② 「水引を用いた制作」
	7 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作①」
	8 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作②」
	9 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作③」
	10 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作④」
	11 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑤」
	12 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑥」
	13 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑦」
	14 髪飾りのデザインと制作、プレゼンテーション準備 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑧・展示準備」
	15 展示・プレゼンテーション

	「制作作品の発表とフィードバック」
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。 (20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補習と確認。 (25分)
指導方法	パワーポイントや映像などで基本的知識の講義を取り入れながら、制作実習を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。 フィードバックの方法：①課題を提示、②課題提出、③評価及び改善点を記入し返却、④評価内容に関する質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題70%、授業態度と貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント等配布
参考書	授業内で提示
履修上の注意	・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリントが配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブラーニング、PBL	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
梶原史嗣			
ナンバリング：F22C29	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)  シルバーと真鍮で基本的なリングやブレスレット等の制作を行う。  アクセサリーと金属の基礎的講義と実材加工の実演を見て学んだ後に、道具と素材の正しい扱い方を各自実践し制作する。  後半ではオリジナリティある表現を目指し総合制作に取り組む。</p> <p>(授業目標)  アクセサリー制作の基本技術と金属素材の知見を深め、独創性ある作品を完成させる。</p> <p>(学習成果)  ◎E：金属アクセサリーの基礎を理解できる。作品として自己表現でき他者に伝えられる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 授業概要と課題の説明、(毎回制作前に解説) 真鍮リング制作デモ 2 真鍮リング制作 真鍮の棒材をろう付けして指輪に成形、材料取りとろう付け (各自制作開始～13回まで) 3 真鍮リング制作 鑓がけから仕上げ 4 シルバー平打リング制作 銀の角線材をろう付けして指輪に成形、材料取りとろう付け 5 シルバー平打リング制作 鑓がけから仕上げ 6 ロストワックス技法のアクセサリー制作 ワックスと鋳造の解説、ネックレスパーツ等のアイデアスケッチ、ワックス原型制作 7 ロストワックス技法のアクセサリー制作 ワックス原型制作、仕上げ 8 真鍮バンブル制作 材料取り、鎚目入れ、ろう付け 9 真鍮バンブル制作 仕上げ 10 総合課題アクセサリーの制作「自由で独創的な表現」 セットアクセサリーのアイデアスケッチと主題を決定、素材集め 11 総合課題アクセサリーの制作 セットアクセサリーの制作 12 総合課題アクセサリーの制作 セットアクセサリーの制作 13 総仕上げ プrezen準備 作品全ての仕上げ、PCでプレゼンページを作る 14 講評会 前半 1人づつ総合課題作品をタイトル、デザインコンセプト、構成ポイントなどをプレゼンする 15 講評会 後半 1人づつ総合課題作品をタイトル、デザインコンセプト、構成ポイントなどをプレゼンする (終了後は作品提出)
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：素材と道具を正しく扱い、基礎的な作品を完成できる。
事前・事後学習	事前学習：様々なメディアから多くのデザインを調べ、作りたいアイデアスケッチをしておく。(30分) アクセサリー実店舗や作家の展示などに行き実物に触れておく。(30分) 事後学習：毎回、要点をまとめておく。進捗内容と写真を記録する。(45分)
指導方法	画像紹介を含んだ講義と技法デモをしながらの解説をする。制作中は適宜質問を受け付け、作業アドバイス等

	のフィードバックを行う。課題講評会と提出作品による評価をする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：作品と授業への取り組みを評価する。 課題作品30%、プレゼンテーション20%、授業態度・授業への取り組み50%、
テキスト	無し
参考書	服飾系書籍雑誌やウェブサイトなど
履修上の注意	火や薬品、鋭利な道具を使うので安全に配慮し集中して取り組むこと。金属加工を行うので、動きやすく汚れても良い難燃性(綿)の服が良い。怪我や事故につながらない服装に留意して出席すること。
アクティブラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F12C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>2020年代以降、働き方は多様化しています。そんな時代を生きる学生のみなさんが、起業や経営についての知識を学ぶことは、未来の選択肢を広げる第一歩となります。一見難しそうに思える起業や経営のテーマも、学生のみなさんの視点に立ち、楽しく学べる講義です。さらに、企業についての基礎知識を得られるため、就職活動にも役立ちます。15回の授業の中では、4つのアワードを受賞する機会も用意されています。</p> <p>(授業目標)</p> <p>身近なファッショニ、ビューティ、ウェディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を身に付ける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：起業と経営に必要なマーケットデータを元に顧客のインサイトを理解し、それをもとに新たな価値を持つビジネスプランを作る事ができる      ○C：興した会社の継続維持のために、目標と計画を立て、起こりえる課題を想定し、それに対する対応策の準備ができる</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1           【The Endless Potential of Work Styles】働き方の無限の可能性～ 多様な働き方から起業経営という視点を学び自分の働き方の可能性を知り自己のライフデザインに選択肢を増やす      employeeとemployerという、ee, erたった一文字の違いが正反対の働き方を表現している、という気づき</p> <p>2           【Two Crucial Documents for Launching a Business】起業経営に必要な二つの重要なビジネスドキュメント～ 2つのドキュメントから起業と経営の関連性と違いについて区別した上で起業経営の基本的な思想に触れる      アントレプレナーとイントラプレナー      managing director(CEO)      Startup business plan      Business plan</p> <p>3           【Business Idea Development】ビジネスアイディアを考えてみよう～ 起業するにあたり、最初の作業であるビジネスアイディアディベロップメントの手法を学ぶ      5つの答え合わせ      ブレーンストーミング      経営学ミニテスト①</p> <p>4           【Business Asset】起業に必要な資産とは～ アントレプレナーに必要な資産の種類と資産形成の手法を学ぶ      コーリレーションチャート      5つの資産</p> <p>5           【Market Research &amp; Industry analysis】ビジネスの可能性を確かめよう～ ビジネスの可能性を知るための市場調査と業界分析の手法を学ぶ</p> <p>6           【Business Model Development】ビジネスモデルを考えてみよう～ 「どんな会社を立ち上げるのか？」を具体化していく      経営学ミニテスト②      アワード①ビジネスモデル募集</p> <p>7           【Business Model Development】決定！このビジネスモデルで起業します～ 「こんな会社を立ち上げる」が形になり、履修者全員が起業家の意識を持つ      アワード②社名募集      アワード①ビジネスモデル発表</p> <p>8           【Business Plan Creation】起業に必要なドキュメントを書いてみよう～スタートアップビジネスプランの構成と書き方を学ぶ      アワード②社名発表</p> <p>9           【Product Development】商品ラインナップを考えてみよう～ 商品企画の基本とラインナップ、ブライニングの作成手法を学ぶ      経営学ミニテスト③</p> <p>10          【Product Development】商品ラインナップを完成させよう～ 商品ラインナップのまとめ方とブライニング</p>
------	--

	<p>アワード③ロゴマークデザイン募集 【Funding】起業に必要なお金を集めよう～ 資金調達の種類と制度について学ぶ アワード③ロゴマークデザイン発表 アワード④チラシデザイン募集</p> <p>12 【Business Launch &amp; Operations】起業家が経営者になるには～ 経営の3つの役割と組織作りの手法を学ぶ 経営学ミニテスト④</p> <p>13 【Business Launch &amp; Operations】経営に必要なドキュメントを書いてみよう～ ビジネスプランの種類と作成の仕方を学ぶ</p> <p>14 【Summative Assessment】講義のまとめと確認総テスト アワード④チラシデザイン発表</p> <p>15 【Celebrating the Birth of Entrepreneurs】テストのフィードバックとホームページの共有 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ビジネスプランを作る手法を知り、ビジネスのインサイトを探る視点を理解できる ○C：企業の存続維持が経営の原点である事と、組織の仕組みを理解できる
事前・事後学習	事前学習：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句について調べておく（90分） 事後学習：前回の授業で出た課題を行う（90分）
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がない事が多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答（オンラインでも実施）
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：授業内コミットメント度・レポート課題の提出率と内容、総合確認テストによる評価 ○C：授業内コミットメント度・レポート課題の提出率と内容、総合確認テストによる評価 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト1回（14回目） 25%
テキスト	ベーシックマネジメントスタディーズ 一般社団法人 日本ホスピタリエ協会 アントレプレナーとイントラプレナーのためのスタートアップマニュアル 一般社団法人 日本ホスピタリエ協会
参考書	無し
履修上の注意	対面授業が基本だが、月1回オンデマンドで授業を行う。詳細は授業計画に記載、及び初回授業で説明をする。 資料作成やグループディスカッションなど主体的な姿勢で授業に臨む学生を歓迎します。 自分の価値を最大限發揮できる仕事を目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F12C28	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ファッション業界には、素材メーカーであるアパレル素材産業から、服を企画・生産・卸販売するアパレル産業、販売を行うアパレル小売産業まで、さまざまな職種が存在するが、どのような職種に就くにしても、社会のしくみ、社会・経済的な環境状況の変化、それに伴う消費者の意識や購買意欲の変化などを理解し、把握しておくことが必要である。本科目では、ファッション業界で必要とされるマーケティング（売るためのしくみづくり）やマーチャンダイジング（商品計画の流れ）を中心に解説する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ファッション業界で活躍できる人材として「ファッションビジネス能力検定3級」程度の知識を修得する。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：ファッションビジネスに関する情報収集・分析を行い、課題解決策を提案できる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ファッションビジネスの変遷 2 ファッション産業の歴史や仕組みについて、小テスト 3 ファッション業界の職種 4 ファッション業界の組織形態、小テスト 5 トレンド情報の収集 6 インターカラー、展示会、コレクションの特徴について、小テスト 7 ファッション商品の知識（1） 8 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて、小テスト 9 アパレル製造工程について、既製服の量産についての基礎知識、小テスト 10 ファッション商品の知識（2） 11 アパレル製造工程について、既製服の量産についての基礎知識、小テスト 12 ファッション商品の知識（3） 13 素材、サイズ、品質表示について、小テスト 14 売場構成、商品陳列の基本知識 15 業界動向 16 営業計画の策定 17 シーズンコンセプト、販売促進計画の策定について、小テスト 18 売場構成、商品陳列の基本知識 19 VMD、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について、小テスト 20 消費者心理と購買動向 21 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて、小テスト 22 ファッション業界における計数管理（1） 23 予算比、前年比、客単価について、小テスト 24 ファッション業界における計数管理（2） 25 値入高と粗利益、商品回転率と交差比率について、小テスト 26 店舗調査の項目と方法 27 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客像、接客サービスについて、小テスト 28 売れる店舗、販売員とは（PBL） 29 店舗調査を通して、売れる店舗、販売員の特徴を考察する 30 講義の振り返り、理解度確認試験 31 前回までの授業内容を復習し、学習目標の達成度を確認するための筆記試験を行う
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ファッションビジネスにおける課題を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースや店舗調査などからファッション業界の現状に触れる。分からぬ専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。

	事後学習：ファッション業界における興味がある記事やニュース内容をまとめる（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト課題実施、②小テスト課題実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：理解を確認するため実施する小テスト課題、授業への貢献度を評価する。 小テストと課題40%、理解度確認試験40%、授業貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ファッションビジネス能力検定3級 公式テキスト」一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行
履修上の注意	日頃から店舗調査を行い、ファッション業界の現状に触れることで、授業で学んだ知識を感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F33C34	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> ブランドを商品デザインだけで捉えるのではなく、お客様との接点である店舗空間を軸に計画していく。店舗がなくともブランドが成り立つ今、ブランドの世界観を体感するための場として、トップアップを含め、店舗はブランドの魅力を体現する場として重要視されている。世界観だけでなく、VMDの観点からお客様が選びやすく買やすい陳列計画をすることにより、顧客ロイヤリティを深める方法を検討し制作する。 <b>(授業目標)</b> 商品・陳列・店舗空間が合わさることでストーリー性の感じる、心地よいお買い場空間を創出し、明確なルール化で店舗展開可能な計画となっている <b>(学習成果)</b> ◎D：行動心理やVMDにおいて学びを活かし、オリジナリティをもって応用し制作することができる ○C：デジタル技術向上させ、最後まで追求しながらVMDに関するデザイン制作ができる
----------------------------------	---

授業計画	1 本講座とAdobeソフトについて 制作についての概要説明とIllustratorやPhotoshopの基本操作確認 2 ブランドのアイデンティティとコンセプト調査 事例からブランドのアイデンティティやコンセプトを言語化し店舗空間とコンセプトがどう結びついているか考察する 3 ブランドのアイデンティティとコンセプト設定 前回の考察から作品につながるコンセプトと空間を設定しプランする 4 平面図の見方と動線計画 平面から空間を捉えることができるよう、什器の基本的なサイズや縮尺を学びお客様の動きを想定し動線を計画する。 5 平面図作成 前回の計画から平面図を作成する。動線からゾーニングやグルーピングに繋げる 6 VP/PP/IPと店舗内IPの重要性 図面上でゾーニングをし、VP/PP/IPの場所を設定する 7 IP計画（ハンガーアイテム壁面陳列） IPの役割を知り、壁面の陳列商品リスト制作 8 IP計画（ハンガーアイテム壁面陳列） 壁面の陳列計画をまとめる 9 IP計画（小物アイテム壁面陳列） 小物や雑貨等の陳列商品リスト制作 10 ツールやライザーの使い方 ツールの種類を把握し計画に取り入れることで、小物の陳列バリエーションを広げる 11 IP計画（小物アイテム壁面陳列） ツールを利用し、構成を利用したより良い陳列計画にする 12 PPリサーチと計画 どのようなPPがあるのか事例を調査し参考事例をリサーチする IP計画を元に販売促進とも絡め、季節や商品に合うPPを計画する 13 PP計画 IP計画を元に販売促進とも絡め、季節や商品に合うPPを計画する 14 ブランドアイデンティティの確認 IPやPPとともにブランドらしさや計画に一貫性があるかを確認し調整する 15 学修成果発表 講評 作品をまとめ、それぞれの作品をお客様の立場で鑑賞し評価し合う
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：ブランドコンセプトに基づいたVMD計画ができる ○C：デザインソフトを使用し最後まで作品を完成することができる
事前・事後学習	事前学習：様々な店舗を体感することでより良い店舗を自分なりに言語化しておく（30分） 事後学習：作品で使用する写真の素材集めやデジタルスキル向上の為に操作方法の確認（30分）

指導方法	プロジェクトにて制作の過程や操作方法を表示し、学生との同時進行にて指導を行う。各学生からの質問に対しては個別に対応し、表現したいデザインに合わせて応用技術の指導等のフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題と成果物による評価 ○C：授業態度及び貢献度 作品60%、授業態度・貢献度30%、その他課題10%
テキスト	適宜フォーマットを配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 (Adobe登録料が必要である。デジタルゼミ・ビジュアルアート演習でも併用可能) 各自PC持参 製作物に合わせ事前準備や購入持参するものがある ビジュアルアート論での学びを制作に活かせる内容であり、後期のビジュアルアート演習にもつながる
アクティブラーニング・PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F33C35	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	ディプロマ・ポリシー <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) マーケットの分析やターゲットの情報を収集し、ファッショングランドの商品企画の手法を理解する。アパレル商品企画に関する資料の作成を行う。  (授業目標) ファッショングランドの実際のデザインワークをケーススタディー的に実践する。アパレル商品の企画資料の作成を行い、方法論を修得する。  (学習成果) <input type="radio"/> D：情報を収集し、ブランド展開のための課題解決案を提示できる。 <input type="radio"/> E：求められる商品についての分析を行い、魅力的な商品企画と展開計画をたてることができる。
授業計画	1 本講義の概要説明 授業概要説明、アパレル業界における企画職の業務内容 2 既存ブランドの分析 ハイブランド、SPA型ブランド、個人起業ブランドなどのビジネス形式について 3 既存ブランドの分析発表 分析を行ったブランドについての発表 4 コレクションブランドの分析 トレンド分析、イメージマップの作成 5 ブランドコンセプトの設定 設定のためのリサーチ方法について 6 ターゲットの設定 アパレルブランドのセグメンテーションとターゲティングについて 7 春夏用生地スワッチからのデザイン展開 スタイル画と製品図（平絵）によるデザイン展開 8 秋冬用生地スワッチからのデザイン展開 スタイル画と製品図（平絵）によるデザイン展開 9 アパレルブランド研究（1） 就職を希望するアパレルメーカーに対して企画の提案をするためのブランド分析 10 アパレルブランドへの商品企画提案（1）（PBL） 就職を希望するアパレルメーカーについてS/Sの商品企画提案書を作成 11 アパレルブランドへの商品企画提案（2）（PBL） 就職を希望するアパレルメーカーについてS/Sの商品企画提案書の完成 12 アパレルブランドへの商品企画提案（3）（PBL） 就職を希望するアパレルメーカーについてF/Wの商品企画提案書を作成 13 アパレルブランドへの商品企画提案（4）（PBL） 就職を希望するアパレルメーカーについてF/Wの商品企画提案書の完成 14 課題資料のまとめ（1） 全ての課題資料をまとめた就活用ポートフォリオの作成 15 課題資料のまとめ（2） 就活用ポートフォリオの提出
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> D：アパレル商品についての情報収集と分析から課題を理解できる。 <input type="radio"/> E：アパレル商品の企画マップを作成できる。
事前・事後学習	事前学習：授業内課題作成に向けての事前準備や頭の中でのイメージトレーニングをしておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを検証し修正しておくこと。（90分）
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら演習形式で行う。毎

	回テーマごとに進めていき、課題の制作と発表を行う。 フィードバックの方法：課題は評価を行い、返却を行う。質問は授業後に直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：情報の分析結果資料と提案内容を評価する。 ○E：商品のデザイン展開について新規性と表現技術を評価する。 課題70%、授業への貢献度30%
テキスト	授業内で隨時指示する。
参考書	なし
履修上の注意	・パソコンを毎回持参すること。手書きの描画作業の際は、道具の準備が必要となる。（授業内で道具内容を説明） ※1年後期「ファッションデザイン論」の単位取得済みであることが本科目の履修の条件となる。 ※履修者の状況や進捗により、授業内容に変更が生じることがある。
アクティブラーニング・PBL	描画、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大方和則			
ナンバリング：F12C29			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>社会問題解決をコンセプトに掲げる店舗の増加や、デジタルと実店舗を融合したOMO（オンラインとオフラインの統合による新たな購買体験の提供）型店舗の増加などは、消費者の実店舗回帰を促し、訪日外国人の顧客化を狙う上で有効なビジネスモデルとされている。本講義ではこの新たな潮流を意識した店舗を企画・運営するシミュレーションを行い、店舗運営の知識を身に着けていく。</p> <p>(授業目標)</p> <p>グループで社会問題解決型店舗を企画し、プレゼンテーションできるようになる。</p> <p>(学習成果・S評価になる基)</p> <p>◎D：社会問題解決型ショップの企画（現状分析、価値の創出、ターゲティング、商品戦略）ができ、実現可能性の高い商品企画、販売促進、予算作成等ができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ファッション業界の現状 2 ファッション業界の現状について 3 小売業の分類について 4 専門店、百貨店、EC、量販店のそれぞれの特徴と、SPA、セレクトショップ等の専門店の分類について 5 市場動向 価値の創出 6 現状分析、社会問題とその解決につながる価値の創出について 7 理念・コンセプト・ショップアイデンティ・ターゲティング 8 コンセプトの策定からターゲット選定について 9 立地戦略 10 店舗運営における商圈、不動産費、ECプラットフォームについて 11 商品戦略① 12 店舗運営における春夏商品の品揃え計画。バイイングの流れについて 13 商品戦略② 14 店舗運営における秋冬商品の品揃え計画・バイイングの流れについて 15 商品戦略③ 16 店舗運営における商品化計画（SPA）・価格戦略について 17 インストアマーチャンダイジング① 18 店舗運営における接客技法について 19 インストアマーチャンダイジング② 20 店舗運営におけるVMDについて 21 ECについて 22 店舗運営におけるECショップの出店戦略について 23 ショッププロモーション 24 店舗運営における販売促進戦略について 25 ショップマネジメントについて 26 店舗運営における、ヒト・モノ・カネの管理方法、人材育成、クレーム対応について 27 予算策定 28 初年度、3か年予算計画、初年度月割り予算、仕入れ予算について 29 プrezenteーション 30 各グループのプレゼンテーション（確認試験）
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：小売業の分類と店舗運営において基礎的な知識を述べることができる。
事前・事後学習	事前学習：毎回の講義で出題する、次回の講義の予習課題をWEBで提出すること。（90分）

	事後学習：当日の講義で述べた店舗運営にまつわる講義内容の課題をWEBで提出すること。（90分）
指導方法	指導方法：あらかじめ用意されたクラウド上のフォーマットに、グループで選んだ画像データやテキストを入力していく。 フィードバックの方法：クラウドのデータに対しその都度フィードバックし、併せて毎回の講義で出題する予習・復習課題の解答・解説も行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業内フォーマットの完成度、プレゼンテーション、予習・復習課題提出率で評価する。 授業内フォーマットの完成度（40%）　　プレゼンテーション（30%）　　予習・復習課題提出率（30%）
テキスト	テキスト無し。必要に応じて資料を配信。
参考書	日本ファッショング教育振興協会 「ファッショングビジネス能力検定テキスト」 「ファッショング販売能力検定テキスト」
履修上の注意	ノートパソコンの持参。 持っていない場合はパッド端末、スマートフォン持参すること。 (クラウド上の共有ファイルを編集していく為)
アクティブラーニング、PBL	Problem-Based Learning（問題解決学習）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
宮木健二			
ナンバリング：F23C39			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) マーケティングとは市場に対して事業や製品・サービスの需要を見出し顧客との良好な関係を構築維持することであり、持続的な企業マネジメントにおいては、こうした活動の最適化が重要である。デザインによる高付加価値化が知的財産戦略として近年益々注目されるなか、本講義では企業経営におけるマーケティングの役割と要点について理解を深める。</p> <p>(授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。</p> <p>(学習成果) ◎C：企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例を挙げ、理論に基づいた現状分析を行い、課題に対する解決方法を提案できる。</p>
授業計画	1 市場ビジネスとデザイン VUCA時代のマネジメント 2 マーケティングとは マーケティングの意義と役割、4P4C、戦略と戦術 3 企業環境の分析方法① PEST分析、SWOT分析など 4 企業環境の分析方法② ファイブフォースなど 5 製品・イノベーション戦略① 事業ドメインと模倣困難性 6 製品・イノベーション戦略② STPマーケティング ブルーオーシャン 7 製品ライフサイクルと成長ベクトル 持続的なビジネスモデルとは 8 ブランドの意義 10の機能と形成プロセス 9 ブランドの価値 ブランドロイヤルティ、クレームは宝の山？ 10 ジャパンブランドの諸相 「独自性」「ストーリー」「強み」を活かすとは 11 プロモーション戦略 ヒット商品のための仕掛け 12 消費者行動とリレーションシップマーケティング AIDMAから AISASへ SNSの活用 13 経験価値マーケティング リピーターとファンの獲得方法 14 SDGsと共にマーケティング 地域発廃棄資材からのコスメ開発とデザインプロデュース 15 まとめ：VUCA時代のマーケティングとデザインの可能性 授業内容を復習し、学習目標達成度を確認するため最終レポート課題を課す
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例を挙げ、理論に基づいた現状分析を行い、課題を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：関心のあるマーケティング関連のネット記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）
指導方法	学説やフレームワーク、Apple、dyson、資生堂、サントリー、星野リゾート、東京ガールズコレクション等のケーススタディ、教員のデザイン製品とプランディングプロセスの解説、著名デザイナー・企業の多数の映像

	資料等を通じ包括的に指導。常に自分ごととして過去・現在・未来を自問しながら、消費と創造的観点の両面からマーケティングの意義と今後の可能性を考察できるよう、理解促進を図る。授業内容に即したQ&A方式の「コメントシート」を配布・回収する。「コメントシート」へフィードバックコメントを記入して返却。随時フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：最終レポート課題、理解を確認するため実施するコメントシート、授業への貢献度を評価する。 最終レポート課題40%、コメントシート40%、授業貢献度20%
テキスト	なし。 適宜プリント等を配布する。注目すべき製品・サービス、有益な展示会も適宜紹介。
参考書	水野学(2014)『センスは知識から始まる』(朝日新聞出版) 玉樹真一郎(2012)『コンセプトのつくりかた』(ダイヤモンド社)
履修上の注意	普段から、気になる商品やサービスに対してWhy?から考える癖をつけましょう。 デザインや作り手としての一方的な発信だけでなく、届け方や受け手の視点を積極的に学び、気づきを獲得して将来や今後の活動に活かしたい学生を歓迎します。
アクティブラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
廣瀬純子			
ナンバリング：F23C40	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ファッションと社会とのコミュニケーションをマネジメントする「広報 / パブリックリレーションズ」の役割や機能について理解を深める。キャリアにつながる知識として、スタイル、デザイン、ファッションインダストリー、ファッションメディアの変遷と現状について学ぶ。アウトプットとして、ストーリーボードを使ったスタイリング提案を行う。</p> <p>(授業目標) ファッションインダストリーにおける広報の役割を理解し、キャリアにつながるファッションの知識とスキルを身につける。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識を深め、スタイリング提案に応用できる。  <input type="radio"/> E：『学んで理解する力』ファッションインダストリーにおける広報の役割を正しく理解し説明できる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 自己紹介。本講義の概要 2 ファッションスタディ① 20世紀ファッションのパイオニア 3 ファッションスタディ② オートクチュールからプレタポルテへ 4 ファッションスタディ③ 日本のファッション文化 5 ファッションスタディ④ 都市とファッション 6 ファッションスタディ⑤ ファッションのグローバリゼーション 7 ファッションとメディア① ファッションと映画 8 ファッションとメディア② ファッション撮影－カタログ制作、タイアップ企画について 9 ファッションとメディア③ ストーリーボードの企画立案 10 ファッションとメディア④ ストーリーボードの制作 11 広報 / パブリックリレーションズ① 広報とは何か 12 広報 / パブリックリレーションズ② インターネットと広報 13 広報 / パブリックリレーションズ③ メディアリレーションズ 14 広報 / パブリックリレーションズ④ マーケティングコミュニケーション 15 全体のまとめ 総評、質疑応答、レポート作成
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識を深め、スタイリング提案に応用できる。 <input type="radio"/> E：『学んで理解する力』ファッションインダストリーにおける広報の役割を正しく理解し説明できる。

事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたファッショントレンドや企業について、日頃からWEBや雑誌等で広く知識を得ておく（90分）。 事後学習：授業内容を振り返り、ポイントを整理する。授業時に取り組んだ課題を見直し、必要に応じて改善を行う（90分）。
指導方法	パワーポイント、及び授業内容に則した画像、映像などの視聴覚資料を用いて講義形式で行う。ストーリーボードの制作演習を行う。 授業内での課題及びアンケート提出がある。 フィードバックの仕方：授業での課題をGoogle Classroom を使って提出(学生) → 指摘を記入し返却 → 再提出(学生)
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：課題を評価する。 ○E：課題、レポートを評価する。 課題 70% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし。 資料を適宜配布。参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回、PC、スマートフォンを持参すること。
アクティブラーニング、PBL	ディスカッション、演習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C31	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ウエディング業界について、その歴史や業界構造、また多くの職業についてトータルに学べる授業です。講師の業界の幅広いネットワークを駆使して集めた情報も随時ご紹介するので、一般的なメディアでは収集できない知識を学ぶ事ができます。</p> <p>ウエディングのみならず、ホスピタリティ産業に関わりたいと思っている学生には、就職活動の参考にもなります。</p> <p>「生きた学び」を目指して、15回の講義中3名の現役のゲスト講師をお迎えして、仕事の価値や魅力について学ぶ事ができます。</p> <p>(授業目標)</p> <p>リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。</p> <p>○D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ウエディングナビ ウエディングの意味価値編 結婚式とパーティの必要性を儀式文化の本質を通じて理解し、自分の言葉でその価値を表現する手法を会得する。 2 ウエディングナビ 歴史編 ウエディングビジネスの歴史を日本の第二次世界大戦後以降に絞って学ぶ。日本の近代史とウエディングビジネスの関連性を知る。 3 ウエディングナビ ウエディングのスタイル編 ウエディングセレモニーとレセプションの代表的なスタイルを学びそれぞれの特徴を知る。 4 ウエディングナビ ハード編 ホテル、専門式場、ゲストハウス、レストランなど業態別のハード(建物)の特徴や魅力について学ぶ。 5 ウエディングナビ マーケティングと集客ビジネス編 特殊な構造を持つウエディングマーケットについて学び、同時にSNS等を駆使した集客手法を知る。 6 ウエディングお仕事ナビ ウエディングプランナーとドレススタイリスト ウエディングの二大職業と言われるウエディングプランナーとドレススタイリストの仕事内容とその魅力を完全ナビ。 7 ウエディングお仕事ナビ バンケットキャプテンと料飲サービス カップルが長い時間をかけて準備したウエディングの当日を完璧に創り上げるバンケットキャプテンや料飲サービスの仕事内容とその魅力を完全ナビ。 8 ゲストによるナビゲーション ウエディングプランナーを知る 現在もフリーウエディングプランナーとして活躍中の恵実樹氏にウエディングプランナーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする 9 ウエディングお仕事ナビ プライダルビューティ ブライダルヘアメイク、エステティシャン、ネイリスト、ジュエリーアドバイザー、フローリストなどブライダルビューティに関わる仕事の内容と特徴を完全ナビ。 10 ゲストによるナビゲーション ドレススタイリストを知る 現在も現役のドレススタイリストとして活躍中の白井みさと氏にドレススタイリストになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。 11 ウエディングお仕事ナビ フォトグラファーとビデオグラファー 女性の人気が高まりつつある人気職業ウエディングフォトグラファーとビデオグラファーの仕事の内容と魅力を完全ナビ。 12 ウエディングお仕事ナビ ウエディングのさまざまな仕事 サウンド&ライトニングプランナー、司会者、WEBデザイナー、ウエディングパフォーマーなどウエディングを創り上げるさまざまな特殊な職業の仕事の内容と魅力を完全ナビ。 13 ゲストによるナビゲーション フォトグラファーを知る 国内外で大活躍中の人気ウエディングフォトグラファー加藤ゆき氏にフォトグラファーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。
------	---

	14	講義のまとめ、総合確認テスト 半期の振り返りと授業内容の総合的な確認テストを行う。
	15	テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 総合確認テストの内容の解説と今後ウエディング業界でしなやかにキャリアをアップしていくためのキャリアデザインの事例を提示し、自分自身のキャリアデザインの説明を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準		○C:ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ○D:ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習		事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。（90分） 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。（90分）
指導方法		基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設ける。授業への質問や課題には隨時フィードバックを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		○C:レポート内容や発言が授業で知り得た知識に基づいたものであるか評価する。 ○D:授業毎のレポートにて評価する。 授業内のコミットメント度（受講態度やグループディスカッションの参加意識）40% 授業毎のレポート提出 35% 授業内確認ミニテスト3回・総合確認テスト→1回(14回目) 25%
テキスト		・日本ホスピタリエ協会 ウエディング業界のベーシックナレッジ ・ブライダルのお仕事2024ウエディングジョブ
参考書		
履修上の注意		ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブラーニング、PBL		特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
<b>担当教員</b>			
齊藤彰、齊藤彰（契約講師：河田淳鼓）、吉川尚志			
ナンバリング：F23C32	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 日本における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について学ぶ。 <b>(授業目標)</b> 模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チームでのコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しみと責任を体感し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 <b>(学習成果)</b> ◎ A：グループワークにおいてリーダーシップを発揮し、主体性と協調性と責任感を持って最後までグループでのワークをチームでやり遂げができる。 ◎ E：結婚式の基礎を学び、自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢
	2	結婚式の意味と意義 なぜ結婚式が必要なのか？結婚式の大切さを人生儀礼の視点から学ぶ
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式スタイルの変遷 結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える
	8	コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る (スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し)
	9	進行の決定/BGMの演出 グループワーク 2 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ) (スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し)
	10	進行の決定／進行表の作成 グループワーク 3 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) コンセプトに基づいた進行を創る (スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し)
	11	進行の決定／ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し)
	12	進行の確認 グループワーク 5 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) 進行を再確認し、本番会場での動線確認、『場当たり』を行う (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証)
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) 進行表に基づいてリハーサルを行う (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証)
	14	進行の確認と最終リハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習) 最終進行表に基づいてリハーサルを行う (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証)
	15	模擬結婚式（夏期休暇中に実施） (ゲスト講師：2名) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) 結婚式当日の流れを模擬挙式の実施から学ぶ 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げ を実施

	(スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証、記録動画の作成)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイディアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。（30分） 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。（60分）
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式で行う。 毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、各自のノートが一つの教材になるように進める。 画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、具体的な事例も挙げながら進めることで興味を持って授業に臨める環境を作る。 第8回目から第12回目までは、グループワークになるため、毎回の授業のテーマや目標などが明確になるよう に、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートにより行う。これにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。 また、授業の最後に目標とした作業が完了しているか否かも確認可能となり、毎回の授業までの課題が明確になる。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎ A：模擬結婚式を主体性・協調性・責任感を持って実施しているかの観点、模擬結婚式準備貢献度 ○ E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点、第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式の完成度：20%、模擬結婚式準備貢献度：20%、模擬結婚式実施貢献度：20%、振り返りシート：20%、ミニテスト：20%（合計100%）
テキスト	ブライダルコーディネーター テキスト（スタンダード） BIA 公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ
履修上の注意	夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F13C33	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 <b>(授業目標)</b> 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> D：ウェディングドレス、ヘアメイク、ブライダルエステ、ジュエリーなどの企業研究を通じてウェディングビューティビジネスに関わる基本的知識を習得する。 <input type="radio"/> E：ブライダル業界のマーケットに合致したコンセプトつくりから花嫁に対しウェディングビューティの視点で具体的な企画提案を習得する。
----------------------------------	--

授業計画	1 ウエディングビューティについての考え方を学ぶ（意識調査） ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢 および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。 2 婚礼衣装の基礎知識（意識調査） 国内外の婚礼衣裳の歴史と衣裳の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。 3 招待客の装い（意識調査） ウエディングゲストの衣裳の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。 4 ブライダルスタイルリストという仕事（意識調査） ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。 5 ブライズビューティプログラム①インナービューティ（意識調査） インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。 6 ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー（意識調査） ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。 7 ブライズビューティプログラム③ブライダルビューティスケジュール（意識調査） 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネイトにも触れる。 8 ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ（意識調査） ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。 9 ブライズビューティプログラム⑤ビューティセルフケア（意識調査） 花嫁のセルフケアについての基礎知識を得る。自分で実践することで花嫁にアドバイス出来るようになる。 10 ブライズビューティカンパニー①(グループワーク、プレゼンテーション)（意識調査） ドレス企業研究をする上での視点を考察する。グループでの役割分担をし、ドレス企業の研究を進めプレゼンテーションでの資料の制作を行う。 11 ブライズビューティカンパニー②(グループワーク、プレゼンテーション)（意識調査）  ドレス企業の研究を進める中でより良いプレゼンテーションの手法について考察し、資料の完成度を高める。プレゼンテーションの評価をするための視点を考察する。 12 ブライズビューティカンパニー③(グループワーク、プレゼンテーション)（意識調査） ドレス企業研究した内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。 13 ブライズビューティカンパニー④(グループワーク、プレゼンテーション)（意識調査） ドレス企業研究した内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。
------	--

	14	見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する プライズビューティカンパニー⑤（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究した内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。 見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
	15	プライズビューティカンパニー⑥（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究した内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。 見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
到達目標・基準C評価になる基準	○D：ウェディングにおける洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティックなどに関するトータルビューティについて説明できる。 ○E：花嫁の希望に沿ったウェディングビューティのトータルコーディネイトを企画提案できる。	
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)	
指導方法	第1回から第11回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第12回から第15回は実習形式。グループに分かれトータルビューティの提案のためのプレゼンテーションを実施し評価を行う。フィードバックの方法：課題提示⇒レポート提出(学生)⇒指示、指摘を記入し返却⇒再提出(繰り返す)、小テスト実施⇒小テスト結果にコメント記載のうえ返却⇒授業後におけるコメントへの質疑応答対応	
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：新郎新婦の衣装および、ウェディングコスチューム企業についての知識を習得できているか。 ○E：コンセプトに沿ったウェディングビューティをトータルコーディネイトし、提案することができるか。 授業の貢献度：30%、課題提出：30%、プレゼンテーション：30%、ミニテスト：10%	
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーター教科書（スタンダード） BIA公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（前期に購入した方は不要） ・プリント配布 プライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プrezentationのプロセス	
参考書		
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングナビゲーション」「ウェディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウェディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。	
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F23C34	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>本科目は、ドレススタイリストに必要なスキルの修得を目指す授業である。服飾芸術科ならではの視点から「ドレス」を多角的に学修する。さらに、ブーケやヘアメイク、フィッティングなど、ドレススタイリストに欠かせない実践的な知識を、ゲスト講師による指導を通じて学ぶ。また、ドレスのセールスポイントやスタイリング技法についても理解を深め、ドレススタイリストとして活躍するための幅広い知識を習得する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>婚礼衣装の歴史から始まり、ドレスの着装方法、小物の合わせ方などスタイリングに必要な知識を修得し、新郎、新婦のトータルコーディネートを企画立案できるようにする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を企画、提案できる。</p>
授業計画	1 ドレスの歴史（1） 服飾芸術の視点からみた西洋のドレスの歴史 2 ドレスの歴史（2） 近代のウェディングドレスの歴史と知識 3 ドレス選択（1） 体型別ドレス選びの基本 4 ドレス選択（2）（ゲスト講師） コーディネートテクニック 5 ドレス選択（3）（ゲスト講師） ウェディングドレス装飾品（ブーケ）の選択 6 ドレス選択（4）（ゲスト講師） ウェディングドレスとヘアメイクの関係性 7 トータルコーディネート提案（PBL） ウェディングドレス装飾品（アクセサリー）の選択 新郎、新婦のトータルコーディネート案を企画立案する 8 ドレスフィッティング（1）（ゲスト講師） フィッティングの基本知識 9 ドレスフィッティング（2）（ゲスト講師） 美しく着こなすためのフィッティングテクニック 10 ドレスセールス（1）（グループワーク）（ゲスト講師） ドレスセールスの基本知識 11 ドレスセールス（2）（グループワーク） ドレスセールスのテクニックポイント 12 ドレスショープロデュース（1）（ゲスト講師） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（1） 13 ドレスショープロデュース（2）（ゲスト講師） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（2） 14 ドレスショープロデュース（3）（ゲスト講師） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（3） 15 ドレスビュー（ゲスト講師） ドレスに直接触れ、デザインの要素やデザイナーの思いを考察する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。（30分） 事後学習：授業内での未知のワードについて、まとめのノートを作成する。（60分）

指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、ウェディング衣装に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業内小テスト、課題、授業への貢献度を評価する。 小テスト40%、課題提出30%、授業への貢献度30%
テキスト	ドレススタイリストのためのトクスクリプト 日本ホスピタリエ協会 必要に応じてプリント
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウェディングナビゲーション」「ウェディングセレモニー」「ウェディングビューティデザイン」を履修することが望ましい。なお、ウェディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
齊藤彰			
ナンバリング：F24C45	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 成約後のプランニングを行ううえで必要な23段階の理論（23-Step）を学ぶ。 コンセプトに合わせたウエディングを実施するため、①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）を基本にし、あらゆるカップルに対し、最適なプランニングを行うための手法を学び、アイディアの創出方法を身につける。 プランニングの手法は、ウエディングに限らず色々な仕事にも役に立つ内容であるため、様々なケースに対してプランニングやアイディアの提案を行う。 <b>(授業目標)</b> コンセプトメイクの手法を修得する。ケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ウエディング業界の問題点に気づき、改善のための提案を行うことができる。 コンセプトに基づいたアイディアをストーリーとして形にし、効果的なプレゼンテーションとして完成させる工夫を身につける。 <b>(学習成果)</b> ○C：①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）の順序に沿って、コンセプトに沿ったプランを創り上げることができる。 ○D：プランニングのプロセスである23段階の理論（23-Step）を正しく理解し、説明できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 プランニングに必要な婚礼業界の変化を掴む 若者、カップルの価値観、結婚観の変化を知る 最終到達目標等の説明  2 プランニングとは プランニングの手法 成約後のプランニングプロセス、コンセプトメイクについて学ぶ。23段階の理論（23-Step）のメソッドの復習  3 新規接客業務とプランニング（PBL） 新規接客業務の中で得たカップルのウエディングコンセプトをストーリー化し、イメージを形にする  4 打ち合わせ担当業務とプランニング（PBL） 打ち合わせで得たカップルのウエディングコンセプトをストーリー化し、イメージを形にする  5 アイディアの作り方（グループワーク） コンセプト、演出を考える上で発想力を鍛える。ブレインストーミングの手法を学び、アイデアの出し方を身につけます。（デザインワーク）  6 プランニング実務（PBL） プランニングの練習 テーマに沿った結婚式をプランニングする。  7 プランニング内容の発表（プレゼンテーション） 企画したパーティの発表、他グループ評価と自グループ評価  8 マーケットリサーチ（ブライダルのキーワード把握）（グループワーク） 時代に合っていない事柄や結婚式に関する問題点や課題、業界の抱えるサンプル課題を参考に、グループワークにてディスカッションを行います。ブライダル業界のキーワードを掴み、今後の商品企画に活かします。  9 商品化計画／イメージの具現化（グループワーク） コンセプトメイク、テーマ作成の手順を学び、グループワークを通して、婚礼市場の動向から新しい婚礼商品やシステムを創造します。  10 商品化計画／ストーリーメイク（グループワーク） 商品やシステムのイメージをより具体的なものにしていきます。講師が各グループのアイディアを整理しながら、計画中のプランをより効果的に見せるアドバイスを行います。  11 商品化計画／アイディアの添加（グループワーク） 不足しているデータの収集、類似商品の検索などを行います。また、講師がアイディアの広げ方を指導しながら、計画中のプランにより新鮮なアイディアを加え、企画内容をより豊かなものにするためにアドバイスを行います。  12 ブライダルセールス 販売促進（グループワーク） PDCAサイクルを通して発表の内容、手順、表現方法の改善点を見直し、より効果のある商品広報に関して学びます。また、セールストークの技法を復習することでより印象の深いプレゼンテーションへと導きます。
------	---

	13	パブリックリレーションズ（グループワーク） マーケティングミックスを理解し、新商品の特徴と価値の伝達方法を実践します。また、企画した内容をより効果的に伝達するために、商品説明だけでなく、プレゼンテーションの導入からまとめまでの流れを見直しブライダルセールスを体感します。
	14	イベントマネジメント（グループワーク） MICEとは何かを簡単に理解し、イベントマネジメントで大切な当日までの準備、導線、使用機器の動作と本番の進行を確認しながら、最終発表に向けイベントの運営方法を学びます。またリハーサルの重要性を体感します。
	15	ウエディング商品発表（プレゼンテーション） 企画したプランの発表 他グループ評価と自グループ評価 授業の進捗状況により発表の規模を調整します。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：提示された課題にそって、コンセプトのあるプランニングができる。 ◎D：プランニングのプロセスである23段階の理論（23-Step）を正しく理解している。	
事前・事後学習	事前学習：前回の授業を復習し、次回の授業に向けてポイントなどをまとめておく。（90分程度） プレゼンテーションの前には、チームで協力し、まとめた内容を発表するための資料を作成する。 事後学習：学んだ内容から出題されるテーマに対し、プランニングを行う。（90分程度） プランニングのプロセスに沿って、グループで行ったワークに対し自分の言葉や事例を用いてまとめを行う。	
指導方法	毎回、パワーポイントのスライドや動画などの資格物を使用して指導を行う。 グループワークやプレゼンテーションでは毎回フィードバックを行うことで、常にPDCAを意識した授業とする。 グループワークで進めることの楽しさを実感できる内容とし、プランニングの本質に触れるような授業にする。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：確認試験で、記述解答を評価。適切なコンセプトが選んでいるか、自分のプランニングが出来ているかを評価。 ◎D：グループワーク及びプレゼンテーションの積極性、課題の意図にふさわしいレポートかを評価。 プレゼンテーション及び課題への取り組み50%、確認試験20%、グループワーク、講義への参画度と積極性を含めた貢献度30%（合計100%）	
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方、著者：安東徳子、出版社：コスモ21 ブライダルコーディネーター テキスト スタンダード 発行：BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 (上記2冊ともに、1年次科目や他科目で既に購入している方は不要)	
参考書	ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。	
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：越智亮二）			
ナンバリング：F24C46	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ウエディングビジネスにおいて営業や集客のためのビジュアルデザイン技術や広報する技術は大変重要である。企業のHP、SNS、口コミ等のメディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じて広報の重要性とウエディングビジュアルデザインの基本を学ぶ。</p> <p>(授業目標)</p> <p>実務の専門家による映像、写真、ペーパーアイテム、アーキテクチャー（建築）、コラージュ、Webメディア、グラフィックデザインなどの授業構成からウエディングに係るビジュアルデザインの理論と技術を修得することを目標とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：現代のウエディングビジネスにおける営業活動や集客のためのビジュアルデザイン技術の種類とその効果を理解する。      ○E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ウエディングのビジュアルデザインについて＜ガイダンス＞      現代のウエディング現場においてビジュアルデザインの必要性を理解し、活用事例で理解を深める。</p> <p>2 ウエディングビジュアルデザイン（結婚式場）      ウエディングにおける建築デザインの手法とプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>3 ウエディングビジュアルデザイン（結婚式場のマーケティング）      ウエディングビジュアルデザインの結婚式場マーケティング手法を学ぶ。</p> <p>4 ウエディングビジュアルデザイン（ウエディングフォト①）      ウエディングフォトの基本を学ぶ。</p> <p>5 ウエディングビジュアルデザイン（ウエディングフォト②）      データの活用手法を学ぶ（web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等）。</p> <p>6 ウエディングビジュアルデザイン（webメディアデザインの基本①）【ミニテスト実施】      集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法を学ぶ。</p> <p>7 ウエディングビジュアルデザイン（webメディアデザインの基本②）      最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的活用法と今後の流れ（色・フォント・デザイン）を学ぶ。</p> <p>8 ウエディングビジュアルデザイン（ウエディングムービー①）      ウエディングムービーの基本を学ぶ。</p> <p>9 ウエディングビジュアルデザイン（ウエディングムービー②）      データの活用手法を学ぶ（web、披露宴映像演出、PV等）。</p> <p>10 ウエディングビジュアルデザイン（コラージュ）【ミニテスト実施】      ウエディングコラージュで表現する手法とその活用方法を学びその価値を理解する。</p> <p>11 ウエディングビジュアルデザイン（ペーパーアイテム①）（ゲスト講師）      ウエディングのペーパーアイテムの種類とそのデザイン手法を学ぶ。</p> <p>12 ウエディングビジュアルデザイン（ペーパーアイテム②）（ゲスト講師）      ウエディングのペーパーアイテムの紙の加工と種類、課題発表</p> <p>13 ウエディングビジュアルデザイン（多様化する顧客とデザイン）【ミニテスト実施】（ゲスト講師）      多様化する顧客に向けユニバーサルデザインの意味とその価値について学ぶ。</p> <p>14 総まとめと総合確認テスト      全授業のポイントのまとめ。総合確認テストを行う。</p> <p>15 総合確認テストのフィードバックと今後の授業の活かし方      総合確認テストの内容の解説と今後の授業の活かし方</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：修得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用いて、自らが学んだ内容を論理的に説明することができる。      ○E：習得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用い、状況にふさわしい手段で相手に伝わるプ</p>

	プレゼンテーション資料を作成できる。
事前・事後学習	事前学習：Classroom実習ノート（事前学習）に沿って課題に取り組む（90分） 事後学習：Classroom実習ノート（事後学習）のワークページを必ず完成させておく。（90分）
指導方法	高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。 Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 フィードバックの方法① 事前課題を提示 ②レポート提出（学生） ③指摘事項を記入し返却 ④再提出
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：修得したウェディングのビジュアルデザイン専門知識を用いて、自らが学んだ内容を論理的に説明することができる。 ○E：修得したウェディングのビジュアルデザイン専門知識を用い、状況にふさわしい手段で相手に伝わるプレゼンテーション資料を作成できる。 授業毎のレポート提出 30% 授業内確認ミニテスト3回 30% 総合確認テスト1回(14回目)40%
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	履修者は、パワーポイントの基本操作が出来ることが望ましい。
アクティブラーニング、PBL	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
<b>担当教員</b>			
齊藤彰（契約講師：河田淳鼓）、吉川尚志			
ナンバリング：F34C47	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 前期の模擬挙式企画に続き、これまでに修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬披露宴を企画し、実施する。</p> <p>(授業目標) ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのチームを通じて、模擬披露宴を企画し、実施することができる。 模擬披露宴の企画と実施を学生チームで行うことから、コミュニケーション能力と主体性、協調性を磨き、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。</p> <p>(学習成果) ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどの職業人の視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し、実施することができる。 ○E：プランニングの基本プロセスを理解し、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。
	2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。
	3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。
	4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考え方かたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ
	5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習
	6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシミュレーションを行う
	7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する
	8 23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。
	9 レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータ（ペルソナ）に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・プライズメイズなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。
	10 レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う
	11 レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作
	12 レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューーやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う
	13 レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える
	14 レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシミュレーション（リハーサルを行う）

	15 模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：テキストのブライダルコーディネーター テキスト（スタンダード）を読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回から第8回までの座学で得た知識をフル活用し、チームで行う模擬披露宴の計画立案から実施までを指導する。また、第9回から第14回までの講義にて、レセプションの準備をしながら模擬披露宴を実際に運営することを通じて、目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する。 なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。 フィードバックの方法：グーグルクラスルームに授業の課題としてレセプションの企画書のレポートを提出 レポート提出（学生）⇒ 指摘事項を記入し返却 ⇒ 再提出を繰り返して本番を迎える
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：主体性をもって参加できているか、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかが評価の観点 ○E：発表内容がコンセプトに基づいた表現や行動になっているかが評価の観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%（合計100%）
テキスト	ブライダルコーディネーター テキスト（スタンダード） BIA 公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（1年次に購入した方は不要） 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスマ21（1年次に購入した方は不要） プリント配布（ウェディング演出の23段階（23-Step）、セレモニー実習ノート）
参考書	ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ 世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
履修上の注意	冬のオープンキャンパスにて模擬披露宴の実施を予定 ウェディングの知識をさらに高めるため、2年次に「ウェディングプランニング」、「ウェディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウェディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブラーニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F14C48	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) きもの的基本となる浴衣の着方、着付け方の技術と半幅帯の結び方を基礎から創作まで学ぶ。
	(授業目標) きものの主な名称、小物について理解を深める。 浴衣の技術を学ぶことで、きものの基礎を学ぶことができる。 (学習成果) ◎ E：きものの主な名称を理解する。 創作帯で楽しめる技術を身に付け自分で浴衣が、正確に美しく着られる。 浴衣の着付けができる。

授業計画	1	きものの基礎知識① 授業概要 授業に必要な浴衣・帯・小物などについて説明
	2	きものの基礎知識② きもの名称などについて説明 各自の小物の確認、浴衣のたたみ方
	3	きものの基礎知識③ 浴衣・小物アイロン掛け 浴衣のたたみ方
	4	浴衣の着方① 着方の練習、浴衣のたたみ方
	5	浴衣の着方② 着方の練習、浴衣のたたみ方
	6	浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方
	7	浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方
	8	浴衣の着方・半幅帯結び③ 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方
	9	レベルチェック 着方の技術レベルと浴衣のたたみ方を確認 小テスト①：きものと小物の主な名称について
	10	浴衣の着付け① 相モデルで浴衣の着付けを練習
	11	浴衣の着付け② 相モデルで浴衣の着付けと帯結び『蝶々結び応用編』の練習
	12	浴衣の着付け③ 相モデルで浴衣の着付けと帯結び『つのだし風結び』の練習
	13	レベルチェック 着付けの技術レベルと帯結びの技術を確認 小テスト②：きものと小物の主な名称について
	14	創作帯 これまで習得した技術を活かし、グループでオリジナルの帯結びを考える
	15	創作帯の発表 創作帯の発表と講評
到達目標・基準 C評価になる基準	◎ E：きものの主な名称、小物について知る。 基本の帯結びをしめ、自分で浴衣を着ることができる。 浴衣の着付け方を理解する。	

事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に興味を持ち、雑誌やWeb等で多くの情報を得る。（20分程度） 事後学習：ClassroomにアップしているPDFや動画資料を参考に技術の復習をする。（40分程度）
指導方法	マネキンや動画、パワーポイントを使用し、きものに関する基礎知識と浴衣の着方、着付けについての手順を説明する。一斉に演習に入るが、個々の技術に合わせて指導する。 フィードバックの仕方：課題について、技術指導時に上達のためのアドバイスを個々に行う。小テスト等はコメントをつけて返却、授業後に個別の質問に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：レベルチェック、作品発表、小テストで評価する。 レベルチェック60% 小テスト10% 作品発表10% 授業貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリント配布
参考書	なし
履修上の注意	第1回目で浴衣、帯、小物について、各自用意する物を説明する。 <b>注意事項</b> 半幅帯を使用する：作り帯は使用不可。 浴衣のサイズについて：自分に合ったサイズを用意すること。
アクティブラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F14C39	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識を学び、自分自身に必要なケアについて考えます。</p> <p>(授業目標) かけがえのない自分を日々慈しみ、心を満たす美容の力を理解し、幅広いビューティ分野での活躍を目指します。「日本化粧品検定準2級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(学習成果) ◎D：日常的な美容法に関する一般的な知識を身につけ、自分自身にあった美容法を選び実践することができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 セルフビューティとは(1) 本講義の概要</p> <p>2 セルフビューティとは(2) 人の美しさと美容 自分の考える「美」を理解する</p> <p>3 身近な美容一般知識(1) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ</p> <p>4 身近な美容一般知識(2) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ 化粧品検定3級試験</p> <p>5 皮膚・肌の基礎知識 皮膚の構造や機能</p> <p>6 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(1) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的</p> <p>7 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(2) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的 皮膚の構造や機能 小テスト</p> <p>8 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(3) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的</p> <p>9 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(4) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的</p> <p>10 スキンケア・メイクアップの基本テクニック(5) 一般的なスキンケア・メイクアップ手順と化粧品の目的</p> <p>11 ボディケア・ハンドケア・ネイルケアの基礎 一般的なボディケア・ハンドケア・ネイルケアの手順と化粧品の目的</p> <p>12 ヘアケアの基礎知識 一般的なヘアケアの手順と髪の構造</p> <p>13 女性の身体 (ゲスト講師) 身体の特徴と変化</p> <p>14 化粧品の基礎知識 化粧品とは 成分やルール</p> <p>15 自分自身の美しさ 自分の考える美しさと美容法</p>
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識身につけ、自分にあった美容法を考えることができる
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキスト参考に課題に取り組む。 (90分) 事後学習：講義中に紹介のあった内容を参考に、自分に合った美容法について調べる。 (90分)

指導方法	美容に関する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D : 小テスト・課題70%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。 課題について調べたり、美容法を実践しレポートをまとめる。
テキスト	「日本化粧品検定 準2級・3級対策テキスト コスメの教科書 A5版 発売日：2024年12月13日 出版社：主婦の友社
参考書	日本化粧品検定 2級対策テキスト コスメの教科書 日本化粧品検定 1級対策テキスト コスメの教科書
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F14C40	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようとする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようとする。 <b>(授業目標)</b> 客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようとする。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> D：イメージと現状の違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。 <input type="radio"/> E：メイクアップに必要な基礎知識を理解し、説明できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（実習：2～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具について メイクアップの効果と目的を考える 2 スキンケアと美しい肌とは（実習） 皮膚の基礎知識とスキンタイプ・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる） 3 ベースメイクのテクニック（実習） 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する 4 チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック（実習） 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する 5 アイブロウのテクニック（実習） 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する 6 アイメイクのテクニック（実習） 目元の観察と形・バランスを理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する 7 リップのテクニック（実習） リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する 8 トータルバランスメイク（実習） メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する。 制限時間内にセルフでメイクを完成させ、顔写真をGoogle Classroomに提出することで実技評価を行う。 9 顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する。 これまでの学習内容の理解度を確認する「基礎知識テスト」を実施し、課題評価を行う。 10 印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック（実習） キュートメイクの理論を学び実習する 11 印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック（実習） フレッシュメイクの理論を学び実習する 12 印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック（実習） エレガントメイクの理論を学び実習する 13 印象表現メイク「クール」の理論とテクニック（実習） クールメイクの理論を学び実習する 14 印象分析によるチェンジメイク① 自身の顔分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する Google Classroomにデザイン画を提出することで課題評価を行う。 15 印象分析によるチェンジメイク②（実習）
------	---

	デザイン画を元に、自身の顔でチェンジメイクを表現する 制限時間内にセルフでメイクを完成させ、顔写真をGoogle Classroomに提出することで実技評価を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D:メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。 ○E:メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習：授業内で実習したこと次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの質疑対応</li> <li>・知識テストと実技テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒実技テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応</li> </ul> <p>【フィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応</li> </ul>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D:トータルメイク、チェンジメイクの実技試験を行い評価する。 ○E:メイクに必要な基礎知識テストを行い評価する。チェンジメイクの内容を評価する。  実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「JMAセルフメイク検定公式テキスト」 「日本化粧品検定 準2級・3級対策テキスト」コスメの教科書 A5版/発売日：2024年12月13日/出版社：主婦の友社
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。</li> <li>・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクの状態からモデルをすることがある。</li> <li>・ノーメイク、もしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがある。</li> <li>・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。</li> <li>・メイクアップ実習で必要な道具類を必ず各自で用意すること。</li> <li>・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。</li> <li>・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
峯脇真弓			
ナンバリング：F14C41	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	ディプロマ・ポリシー <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 皮膚の基礎知識を理解し、カウンセリング実習を通して他者の肌状態を分析する。カウンセリングを通して様々な価値観や考え方を理解し受入れ、他者の肌悩み等を課題として捉え解決へと導く方法を学ぶ。化粧品知識・生活習慣が及ぼす肌への影響を理解し、課題解決する為に必要なコンサルティングを行う。  (授業目標) 皮膚の基礎知識、化粧品知識に関する理解を深め、肌分析力を身に付ける。カウンセリングを通して他者受容や傾聴力を身に付け、他者へ課題解決に導くコンサルティングができるようになる。  (学習成果) ◎E：カウンセリングを通して他者の肌を正しく分析し、様々な視点から肌をとらえ肌トラブル解決へ導く手段を提示し述べることができる。
授業計画	1 ガイダンス・皮膚基礎知識（1） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。皮膚の構造と働き 2 皮膚基礎知識（2）・肌タイプと特徴 皮膚の構造と肌細胞や各組織の働き。肌の特徴と肌分析方法 3 肌トラブルと原因 肌トラブル毎の原因を肌組織の働きを結び付ける 4 スキンケア基礎知識（1） 様々なスキンケアアイテムの目的効果・使用方法 5 スキンケア基礎知識（2） 肌トラブル毎に効果的な化粧品成分を分類する 6 スキンケア基礎知識（3） 肌タイプや肌トラブル毎に必要な化粧品成分が配合されているアイテムを考察する 7 肌トラブルと体調の関係 体調から肌トラブルの原因を考察する 8 肌トラブルと栄養の関係 栄養から肌トラブルの原因を考察する 9 美容カウンセリング（1） カウンセリング概論（受容・傾聴・共感）。美容カウンセリング方法を理解する 10 美容カウンセリング（2） 美容カウンセリングを実施し、他者を受容・傾聴し共感する 11 美容カウンセリング（3） 美容カウンセリングを通じ、他者の肌タイプと課題を分析する 12 美容アドバイス 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示する 13 美容カウンセリング・アドバイス（1） 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し根拠を述べる 14 美容カウンセリング・アドバイス（2） 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し根拠を述べる 15 美容カウンセリング・コンサルティング 美容カウンセリングで分析した結果から課題解決に必要なアドバイスを提示し、継続的に必要なスキンケア方法と化粧品を提案する
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：皮膚の基礎知識や化粧品知識の理解を深め、肌状態や肌トラブルに適応するスキンケアを提案でき、その根拠を述べることができる
事前・事後学習	事前学習：様々なスキンケア化粧品の特徴や成分や効果をチェックし調べる（25分） 事後学習：受講した内容を要約しノートにまとめる（20分）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義だけでなく、グループワーク等を取り入れ

	<p>る。 カウンセリング実習では、デモンストレーションを行い、実際に相モデルでカウンセリング実習を行う。</p> <p><b>【フィードバックの方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識テストと実習テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却→授業後におけるコメントへの質疑応答 ⇒実習テスト結果を返却→授業後におけるコメントへの質疑応答</li> <li>・課題やテストは、Google classroomでの提出や返却。</li> </ul>
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：筆記試験、実技、課題・小テストを評価する。 筆記試験20%、実技30%、課題・小テスト20%、授業の参加状況30%
テキスト	一般社団法人日本化粧品検定協会 日本化粧品検定 準2級・3級 対策テキスト コスメの教科書
参考書	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素肌（ノーメイク）になることがあります。</li> <li>・授業時にメイクを落とす可能性があるため、簡易的なメイク落としやメイク直しの道具を準備すること。</li> <li>・自身の肌だけでなく他者の素肌に触れ観察します。</li> <li>・実習で必要な道具類を各自で用意する。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
福島裕司			
ナンバリング：F14C42	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 前半はタッチアップするためのポイントメイクオフとポイントメイクをマスターすることを重点的に行う。後半はカウンセリングの手順を学び、スキンケアアドバイスとメイクアップの提案&メイクアップができる技術を身につける。 <b>(授業目標)</b> 美容やコスメの情報を学びながらメイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップができる。 <b>(学習成果)</b> ○B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ○A 接客マナーを身に着け相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ○C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス 授業目標、授業の進め方の説明、評価の仕方、使用する道具の説明 美容業界、ファッショングランド～アーチストブランドを学ぶ 2 ポイントクレンジング～スキンケア クレンジング～スキンケアの種類や手順を学ぶ 相モデルで実習 3 ベースメイクアップ 皮膚の知識やベースメイクアの種類を学ぶ スキンケア～ベースメイクまで相モデルで実習 4 タッチアップ演習① ポイントメイクオフとポイントメイク リップテクニックを学ぶ リップの違いを学び実習する アイメイクの上からのタッチアップ方法 5 タッチアップ演習② ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク（アイシャドー・アイライン） アイシャドーとアイラインのメイク方法を学び実習する 6 タッチアップ演習③ ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク（アイライン・ビューラー・マスカラ） アイブロウテクニック ビューラーとマスカラのメイク方法を学び実習する 7 タッチアップ演習④ ポイントメイクオフとポイントメイク アイブロウテクニックを学ぶ アイブロウの色と形を理解してモデルに合わせて実習する 8 ビューティカウンセリング① 接客の心得とは何かを学ぶ 笑顔～姿勢～挨拶まで学び、繰り返し練習する 9 ビューティカウンセリング② ホスピタルティマインドを学ぶ 接客に必要な知識を学び、演習する 10 ビューティカウンセリング③ 聴く力 販売ロールプレイングを学び接客力を上げる ビューティカウンセリング④ 販売ロールプレイングを行い接客力を学ぶ 分析力 ゴールに向けて言語化 ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案 11 ビューティカウンセリング&メイクアップ① 実技チェック前半 ビューティーカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ ビューティカウンセリング&メイクアップ② 実技チェック後半 ビューティーカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ
------	---

	14	これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて① ビューティーカウンセリングを行いメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ
	15	これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて② 今までのフィードバックを行う。 授業の振り返りとこれからの美容について考え、レポートにまとめる
到達目標・基準 C評価になる基準		◎ B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ◎ A 接客マナーを身に着け相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ◎ C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
事前・事後学習		事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。 (20分) 事後学習：課題となったテーマについて、授業内容を振り返りながら技術を復習しておくこと。 (25分)
指導方法		講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。 アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（相モデルメイク）を行う。 フィードバックの方法…実習の場合はその場での技術の指摘、リタッチなど行う。課題提出の場合はGoogleClassroomを活用。課題提出（学生）→確認したのち、指摘事項を記入し、返却→再提出 繰り返し
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		B：接客を想定したコミュニケーションを実施し、カウンセリングシート、イラストも含めて仕上がっているかどうかを評価する。 A：カウンセリングシート通りに、メイクアップが仕上がっているかを評価する。 C：肌の悩みに対して種類別にアドバイスができる。 カウンセリングシート30%、実技20% 課題30%、授業への貢献度20%
テキスト		なし
参考書		なし
履修上の注意		セルフメイク演習、セルフビューティ論を履修していることが望ましい。 実習は学生同士がお互いにモデルとなって行う形式である。（相モデル） メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL		実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F25C52	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。 <b>(授業目標)</b> 多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べることができる。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> C：現状から課題を抽出し、適切な方法で解決策を提示できる。 <input type="radio"/> D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多様な活用方法を説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1	ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。 メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。
	2	「顔」「化粧」とは 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのか考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)
	3	ファッショニエ界とメイクアップ ファッショニエ界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く)
	4	表現とメイクアップ 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く)
	5	女性の顔、男性の顔（実習） 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)
	6	子どもの顔、老人の顔（実習） 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。
	7	世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。
	8	顔と心 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)
	9	自分の顔、他者の顔 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)
	10	人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。
	11	時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。
	12	似合うメイクアップ（1）（PBL） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル（セ

	13 ルフメイク) 実習。 似合うメイクアップ (2) (PBL) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル（セルフメイク）実習。
	14 メイクアップの可能性について (1) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各自に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
	15 メイクアップの可能性について (2) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各自に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C : 課題を見出し、目指す方向性を把握している。 ○D : メイクアップの多様な活用方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。 (30分) 事後学習：課題となつたテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。 (30分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（セルフメイク）を行う。 授業内でスマートフォンやパソコンを使用し、課題制作や提出がある。  フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については隨時授業内にてレビューする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C : 課題を評価する。 ○D : 課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	「顔の百科事典」日本顔学会 「メイクセラピー入門3級対策」「メイクケアセラピー公式テキスト」一般社団法人メイクセラピストジャパン 「<よそおい>の心理学」サバイブ技法としての身体装飾 荒川歩 鈴木公啓 木戸彩恵 「化粧の力の未来」資生堂みらい開発研究所 「「粧う」ことで健康寿命を伸ばす化粧療法」 池山和幸 「化粧にみる日本文化」
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習（セルフメイク）を行うため、授業終了時にメイクを落とす場合があり、授業に必要なメイク道具のほか、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア（質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） ブレイン・ダンプ（与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F14C44	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○B：ペアワーク、グループワークを通して指示通りキレイに形にすることができる。      ○E：基礎ヘアアレンジ技術の組み合わせを自身で考え作ることができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5. 7. 9. 11. 15回）          ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ基礎          一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー</p> <p>3 ヘアアレンジ基礎          シニヨン・すき毛の使い方          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ基礎          逆毛          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ基礎          三つ編み・編み込み          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク）          アイロン          •ヘアデモンストレーション</p> <p>7 流行ヘアアレンジ・メイク（1）          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>8 流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク）          •ヘアデモンストレーション</p> <p>9 カジュアルヘアとモードヘアの違い（1）          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク）          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>11 ブライダルヘア（1）          •ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 ブライダルヘア（2）（ペアワーク）          •ヘアデモンストレーション</p> <p>13 トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク）          •ヘアデモンストレーション          ※スマートフォン</p> <p>14 トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク）</p>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※スマートフォン</li> <li>スタイル作成</li> <li>・技術確認</li> </ul>
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：ヘアアレンジ基礎知識の理解・基礎技術を習得することができる。 ○E：美容基礎道具・器具の扱い方を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。 (45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。 (45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答、フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○B：授業の取り組む姿勢を評価する。 ○E：ヘアアレンジ基礎技術を組み合わせて形にすることができる。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C54	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通じトータルバランスを解説しながら創造力を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングデスカッション能力、ヘアメイクを通して、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○D：美容道具・美容器具を使用した『TP0ヘアアレンジスタイル』を作ることができる。  ○E：トータルバランスを考えてヘアアレンジをキレイに作ることができます。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回）          ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ確認と応用（1）          ポイントスタイルアレンジ          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>3 ヘアアレンジ確認と応用（2）          すき毛を使った応用テクニック          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ応用（1）          ポリュームスタイル          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ応用（2）          ルーズスタイル          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ応用（3）          飾りの付け方バランス          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>7 ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク）          浴衣スタイル          ・ヘアデモンストレーション</p> <p>8 ヘアアレンジ応用（5）          パーティースタイル          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>9 カジュアルヘアとショーヘアの違い（1）          ・ヘアデモンストレーション          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク）          ・ヘアデモンストレーション</p> <p>11 ブライダルヘア          ・ヘアデモンストレーション          実習          ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク）          ・トータルプランニング説明          ※スマートフォン</p>
------	--

	13	トータルで提案するヘアメイク（2）（ペアワーク） ※スマートフォン
	14	トータルで提案するヘアメイク（3）（ペアワーク） ※スマートフォン
	15	スタイル作成 ・技術確認
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：ヘアアレンジ応用知識の理解、応用技術を習得することができる。 ○E：美容応用道具・器具の扱い方の習得。	
事前・事後学習	事前学習：ファッショントレーニング誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）	
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答、フィードバックを行う。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：美容道具、器具知識を活かし作業組み立てができる。 ○E：イメージとバランスを考えヘアアレンジを形にすることができる。 課題 70%、授業態度、貢献度 30%	
テキスト	なし	
参考書		
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り	
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F14C46	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/>A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。自分の爪やネイルチップを使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。正しい筆の使い方、ジェルの操作性、アートのバランスなどの演習を行う。個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>爪の名称や用具用材の特徴を知り、正しい知識のもとにセルフケアを学び、サロンクオリティーに近づけるシンプルなデザインを学ぶ。</p> <p>(学習成果)</p> <p><input type="radio"/>D：ネイルに関する基礎用語、デザインの知識を学び、理解する。  <input type="radio"/>E：色々な技法を習得し、課題に応じたネイルアートを作成する。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ネイルアート演習1について          授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明          学科：爪の形、構造、ハンドケア</p> <p>2 実技：マニキュア ワンカラー          学科：マニキュアで使用する材料の成分を学習し適切な扱い方を学ぶ。          実技：ポリッシュの塗り方 カラー別4パターン。</p> <p>3 実技：マニキュア ラメグラ          ポリッシュで出来る事をさらに深める。正しい落とし方を学ぶ。</p> <p>4 実技：マニキュア フレンチ          ポリッシュでフレンチは難しいけど、それなりに魅せる方法を学ぶ。</p> <p>5 実技：マニキュア 学科：ジェル理論          次回から始まるジェルに向けて、事前に学習。ジェルネイルは化学薬品である事から接触性皮膚炎を起こす事もあります。          この授業で正しい知識を得て、正しい使い方を学ぶ。</p> <p>6 実技：ジェルネイル ワンカラー・ジェルネイルオフ          教材の確認。実際にジェルネイルを塗つてみて、ポリッシュとの違いを学ぶ。          ジェルネイルの正しいオフの仕方。</p> <p>7 実技：ジェルネイル プレパレーション 学科：モチが良くなる方法          自分の手を使って角質を除去します。ポリッシュもジェルも爪に何か塗る時に大事なのは、下処理。          それが出来なければどんな綺麗に塗れてもすぐ剥がれてしまうことを学ぶ。</p> <p>8 実技：ジェルネイル グラデーション          ラメといつても100種類以上あります。”派手になる”概念は捨てて、オフィスにもOKなさりげないラメから、華やかなラメを使用。          指先の煌めきにテンションが上がる感覚と共にセルフのクオリティーを上げる。ジェルでしかできないアート。グラデーションは、どんな職業についても出来るネイル。指の太さや爪の形によってグラデーションの似合う幅は変わる事。皮膚の色により似合う色が違う事を感覚で学ぶ。</p> <p>9 実技：ジェルネイル フレンチネイル          ポリッシュでは難しかったフレンチが、ジェルではそれなりに魅せる事ができる。          その為の筆の使い分けなどを取得。</p> <p>10 実技：ジェルネイル 課題授業の練習          5枚の作品を制作。課題授業の練習をする。</p> <p>11 実技：ジェルネイル マーブル・天然石・べっ甲          ジェルの特性を活かして行う授業。正解のない、自分の感性で作り出すアートを学ぶ。          極細の筆や太い筆を使用し練習。柄の配置など、バランスとアートのコツを学び魅せ方を身につける。</p> <p>12 実技：ジェルネイル フラワーアート          作品制作のクオリティーを上げる技術を学ぶ。花のアートは、季節や流行を問わず1年中人気。          絵を描く事が苦手でもバランスの取り方を学べば、それなりに魅せる事ができる事を学ぶ。</p> <p>13 作品のデザイン画制作・練習          作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。          仲間と共有しながら自分なりの個性を表現する事を学ぶ。</p>
------	---

	14	個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為のウェディングネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
	15	個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：ネイルに関する基礎用語、ネイル技術の知識を身に付け説明できる。 ○E：課題に応じたネイルアートの作成、個人制作では自ら考えたデザインの表現ができる。	
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ事を練習し定着させる。ファッショングや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。（30分） 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。（30分）	
指導方法	ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。 講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。 ネイルチップを使用して練習するが、自分の爪を使用する場合もある。 基礎アート、応用アートを修得。最後に作品のデザイン画を作成、授業内で作品制作。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：ネイルに関する基礎用語、知識の理解度と表現力を評価する。 ○E：課題に応じた、事前準備と完成度を評価する。 課題50%、授業貢献度50%	
テキスト	必要に応じて、プリントを配布	
参考書	ファッショング雑誌など	
履修上の注意	自身の爪を使用する授業の時は、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておこうこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 課題授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。	
アクティブ・ラーニング、PBL	実習	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F25C56	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>本科目「ネイルアート演習2」は、将来ネイリストは志望しないが、ネイル演習の履修を希望する学生を対象としたクラスである。ネイリストを志望する場合は、「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」のシラバスを参照すること（「ネイルアート演習2」と「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」の開講时限は異なるため、時間割を確認すること）。</p> <p><b>【SLセルフレベルアップコース】</b> (授業目標) アート筆を使用して細かいアートにチャレンジする。 SNSで目にするアニマル柄・氷ネイル・立体アート等を制作し、プロに近いアートの知識と技能を修得する。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：基礎からステップアップし、プロに近い知識を身につける。  <input type="radio"/> E：演習1よりもクオリティーを上げる為の技術を学び修得する。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 ネイルアート演習2について ~SLセルフレベルアップコース~  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。</p> <p>2 実技：ジェルネイル 春のアート①  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          ジェルをミックスしたり、多様な筆を使用して季節や流行のアートを制作。</p> <p>3 実技：ジェルネイル 春のアート②  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          季節や流行のアートを制作。</p> <p>4 実技：ジェルネイル 推しネイル①  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          推しのカラーを使って、ハートいっぱいのネイルを制作。</p> <p>5 実技：ジェルネイル 推しネイル②  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          推しのイニシャルを手書きしたり、アート筆で字を描く方法を学ぶ。</p> <p>6 教材の説明・ブッシャー・ニッパーの使用法  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          教材の使い方・ブッシャーとニッパーの正しい使い方を学び、ケアレベルを上げていく。</p> <p>7 実技：ジェルネイル アニマル柄  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          いろんな形と色使いで、アニマル柄を表現する。</p> <p>8 実技：ジェルネイル 梅雨ネイル  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          しずく・水滴・たらし込み。ジェルの特性を活かしたアートを学ぶ。</p> <p>9 実技：ジェルネイル 夏のアート①  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          オーロラ・氷ネイル。フィルムを使用してキラキラの世界観を作る。</p> <p>10 実技：ジェルネイル 夏のアート②  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          立体的に作る夏のアートを学ぶ。</p> <p>11 実技：ジェルネイル 秋のハロウィンアート  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          これまでに学んだ事を活かし、さらにレベルを上げていく。</p> <p>12 実技：ジェルネイル 冬のクリスマスアート  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          プロが学びたいようなアート技法を学べる授業。</p> <p>13 作品のデザイン画制作・練習  <b>【SLセルフレベルアップコース】</b>          作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。</p>
------	---

	14 15	仲間と共有しながら、演習1よりもクオリティーの高いアート作品を考える。 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「○○に似合うネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「推しに捧げるネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
到達目標・基準 C評価になる基準		【SLセルフレベルアップコース】 ◎D：季節やテーマに沿って、色合い、技法、学んだ事を活かしたデザイン知識を修得 ◎E：サロンクオリティーに近い仕上がりになる技術を修得
事前・事後学習		【SLセルフレベルアップコース】 事前学習：完成度を上げる為には、より良いものを沢山見る事。リサーチ（20分） 事後学習：自宅で自分の爪やネイルチップに練習する。（30分）
指導方法		【SLセルフレベルアップコース】 授業前に、アートの説明を行いデモンストレーション。 その後ネイルチップに練習。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準		【SLセルフレベルアップコース】 ◎D：毎回の授業で指示する配置や気をつけるポイントをよく聞いて取り組めているかを評価する。 ◎E：レクチャーした工程、丁寧度など技術面で評価する。 作品制作50%、授業貢献度50%
テキスト		必要に応じて、プリントを配布
参考書		
履修上の注意		【SLセルフレベルアップコース】 実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。
アクティブラーニング、PBL		実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
齊藤彰（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F25C56	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>本科目「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」は、将来ネイリストを志望する学生に対応したクラスである。ネイリストは志望しないが、ネイル演習の履修を希望する場合は、「ネイルアート演習2」のシラバスを参照すること（「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」と「ネイルアート演習2」の開講时限は異なるため、時間割を確認すること）。</p> <p><b>【PK検定取得コース】</b> (授業目標) 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラー」の演習を行ない、爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどの知識を身に付け、ネイルケア、カラーリング、ネイルアート技能を修得する事を目標とする。 ※学生同士互いにモデル・プラクティスハンド・自分の手を使用。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJ N E C ネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。  <input type="radio"/> E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJ N E C ネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ネイルアート演習2について ~PK検定取得コース~  <b>【PK：検定取得コース】</b>          授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。          ネイル検定3級・ジェル検定の内容、モデルについて。</p> <p>2 PK：ジェルネイル検定初級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          ジェル検定初級課題のアート”ピーコック”を学ぶ。</p> <p>3 PK：ジェルネイル検定初級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          赤いポリッシュと赤いジェルを塗る。</p> <p>4 PK：ジェルネイル検定初級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          ジェル検定試験同様の仮試験を実施。</p> <p>5 PK：ジェルネイル検定初級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。</p> <p>6 PK：ネイル検定3級 教材の説明・ブッシャー・ニッパーの使用法  <b>【PK：検定取得コース】</b>          教材の使い方・ブッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。</p> <p>7 PK：ネイル検定3級 教材配布  <b>【PK：検定取得コース】</b>          自分の手、または相モデルにてブッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。</p> <p>8 PK：ネイル検定3級 テーブルセッティング  <b>【PK：検定取得コース】</b>          演習1で学んだ、ファイリングを再度確認。          ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。</p> <p>9 PK：ネイル検定3級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          ブッシャー・ニッパーの使用方法の復習。          手指消毒～ネイルケアまでをプレクティスハンド、または相モデルにて練習。</p> <p>10 PK：ネイル検定3級  <b>【PK：検定取得コース】</b>          学科：過去問を使用し学科対策          筆記試験合格に向けて必須項目の指導。          検定アートの説明</p> <p>11 PK：ネイル検定3級</p>
------	--

	<p><b>【PK：検定取得コース】</b> 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>12 PK：ネイル検定 3 級 <b>【PK：検定取得コース】</b> これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>13 PK：ネイル検定 3 級 <b>【PK：検定取得コース】</b> 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>14 PK：実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) <b>【PK：検定取得コース】</b> 実技の通し練習と筆記テスト。</p> <p>15 PK：演習 2 検定試験の実技テスト <b>【PK：検定取得コース】</b> 検定を受験する為に必要な知識・理解度の実技テスト。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p><b>【PK検定取得コース】</b> ○D：J N E C ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ○E：J N E C ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。</p>
事前・事後学習	<p><b>【PK検定取得コース】</b> 事前学習：前回授業で学んだ事を忘れないよう復習する。3 級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。ネイル検定に必要な物の確認・用意をしておく。(30分)</p> <p>事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。過去問題を繰り返し行い覚える。(60分)</p>
指導方法	<p><b>【PK検定取得コース】</b> J N E C ネイリスト技能検定試験 3 級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 講師によるデモンストレーションの後、理解度・疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。 後半授業では、検定試験同様のタイム入れをプラクティスハンドや相モデルで行う。 <b>【フィードバックの方法】</b>レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p><b>【PK検定取得コース】</b> ○D：J N E C ネイリスト技能検定試験 3 級の知識を提出課題で評価する。 ○E：J N E C ネイリスト技能検定試験 3 級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り 50 %、授業態度・貢献度 50 %</p>
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	<b>【PK検定取得コース】</b> JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	<p><b>【PK検定取得コース】</b> 実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
廣瀬純子			
ナンバリング：F14C48	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<b>(授業内容)</b> 文章を書く上での基本的なルールを知り、基礎的なライティング技術を身につける。ファッショングを取り巻く各メディアの特徴を知り、その働きを理解した上で、SNSでの投稿やプレスリリースの配信を想定したライティング演習を行う。シンプルなセンテンスでわかりやすく情報を伝え、共感を呼ぶテキストを書くための手法を学ぶ。 <b>(授業目標)</b> 伝えるためのライティングについて理解し、伝わる文章を書くことができる。 <b>(学習成果)</b> <input type="radio"/> D：ファッショング、ビューティに関する情報を収集、取捨選択することができる。 <input type="radio"/> E：ファッショング、ビューティ業界への理解を深め、実践につながるライティングスキルを修得する。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 自己紹介。本講義の概要。 2 文章の基本について① 正しく伝わる文章を書くための、文章の基本的ルールを学ぶ。 3 文章の基本について② 読みやすい文章を書くための、文章の構成を学ぶ。 4 メディアコミュニケーション① メディアリテラシーについて理解する。 5 メディアコミュニケーション② パブリックリレーションズについて理解する。 6 プレスリリース① プレスリリースの目的、構成について学ぶ。 7 プレスリリース② プレスリリースを実際に書き、その手法を学ぶ。 8 プレスリリース③ プレスリリースを実際に書き、その手法を学ぶ。 9 ファッショング① ファッショングとメディアについて理解する。 10 ファッショング② ファッショングをテーマとしたライティング演習を行う。 11 ファッショング③ ファッショングをテーマとしたライティング演習を行う。 12 ビューティ① ビューティとメディアについて理解する。 13 ビューティ② ビューティをテーマとしたライティング演習を行う。 14 ビューティ③ ビューティをテーマとしたライティング演習を行う。 15 全体のまとめ 全体の振り返りと総評。質疑応答。レポート作成。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> D：ファッショング、ビューティに関する情報を収集、現状と課題を明確にできる。 <input type="radio"/> E：ファッショング、ビューティ業界への理解を深め、課題に応じたテキストを作成できる。
事前・事後学習	事前学習：日々、ファッショングメディアや配信されるプレスリリースに目を通す（30分）。 事後学習：授業内容を振り返り、ポイントを整理する。授業時に取り組んだ課題を見直し、必要に応じて改善を行う（30分）。

指導方法	授業は、パワーポイント、及び授業内容に則した画像、映像などの視聴覚資料を用いて、講義形式で行う。毎回授業内でライティング演習を行う。課題及びアンケート提出がある。 フィードバックの仕方：授業での課題をGoogle Classroom を使用して提出（学生）→指摘事項を記入し返却→リライトし再提出（学生）
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：提出課題を評価する。 ○E：提出課題、レポートを評価する 課題 70% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし。 資料を適宜配布。参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回、スマホ、PCを持参すること。
アクティブラーニング、PBL	演習、ディスカッション、プレゼンテーション。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F35C57	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 視覚的な自己表現が必要不可欠な時代となり、客観的に自己の見え方、印象について管理する能力が重要です。自分自身の目指す姿をイメージし、「どう見せたいのか」を考えてプロフィールシートを作成します。</p> <p>(授業目標) マイクアップ効果による容貌の変化と自己表現の重要性を理解し、客観的な視点で対外的に表現したい自己について考える。多彩な表現方法、ツールを知り、表現力を身につけることで人間力を磨き、創造的に社会と関わることができる。</p> <p>(学習成果) ◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピアランス（見た目）を表現できる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 セルフプロデュースとは 本講義の概要、評価方法、課題について 2 セルフプロデュースの必要性について（グループワーク） 個人の生涯における容貌の変化と美容、化粧行為による自己表現について。自己客観視について。 3 セルフイメージ・セルフビューティの重要性について（グループワーク） 自分に対する自己イメージや美容法について省みながら、自己理解を深める。 4 セルフプランディングについて（グループワーク） 現在のファッショニ、ヘアスタイル、マイクアップによる自己表現が与える印象について理解し、オリジナリティや強み、特技、経験などから、自分ならではのポジショニングと相応しいアピアランスについて考える。 5 印象管理 人の印象を構成する要素とは何かを学び、客観的に自分の印象について理解する。 場面やライフステージにおいて、どのように見せることが望ましいか考える。 6 印象表現 パーツのサイズや配置など、顔の印象に変化を与える要素を理解し、PCを用いシミュレーションを行う。 7 顔の印象分析理論（ゲスト講師） 顔の造形、パーツなどのもつ特徴が、人それぞれの印象を形成していることを学び、自己理解を深める。 8 セルフプロデュース（1）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 コンセプト（キャラクター、業種、肩書き、経歴、キャッコイーなど）を決め、相応しい見た目について考える。 9 セルフプロデュース（2）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 デザイン（色、フォントなど）を決める。 10 セルフプロデュース（3）（PBL） 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 プロフィール写真を決める。 11 セルフプロデュース事例紹介（ゲスト講師） 実社会で活躍しているゲスト講師の事例を学び、リアリティを持って手法や重要性を理解する。 12 プロフィール発表（プレゼンテーション） 作成したプロフィールを少人数グループで発表する。 13 多様な表現方法とツール マイクアップによる自己表現と社会への発信方法について学ぶ。 14 プロフィール発表（プレゼンテーション） 選抜者によるプロフィール発表。 15 10年後の自分をプロデュースする
------	--

	自分の未来に広がる可能性を最大限に感じるために、今の自分ができることは何か。 10年後の自分を明確にイメージし、日常的に必要なセルフケアやメイクアップ方法を考える。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピアランス（見た目）を計画できる
事前・事後学習	事前学習：次回の授業中に提示されたキーワードについて調べ、課題に取り組む。（90分） 事後学習：プロフィールシート作成にむけ、講義内容を振り返り、プリントなどのワークは一人の時間で再度じっくり読み返したり、深掘りする。図書館の書籍を参考に、マーケティングやデザインに関する知識を広げておく。（90分）
指導方法	関連する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：課題70%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。
テキスト	なし 必要に応じ、プリントを配布
参考書	「パーソナル・マーケティング」本田直之 「『売れる個人』の作り方」安藤美冬 「現実は厳しい でも幸せになれる」アルバート・エリス
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。 セルフビューティ論を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F14C50			授業方法：対面（み）
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) Kビューティメイクの人気の秘訣、主な特徴、関連情報などを体系的にまとめ、Kビューティメイクの革新的な技術、高品質でトレンドディなメイク技術を学ぶことができる</p> <p>Kビューティメイクアップ授業は、単にメイク方法を学ぶだけでなく、自分自身の個性と美しさを見つけて表現するプロセス。最新のKビューティメイクアップトレンドを把握し、自分の顔のかたち、肌トーン、普段のスタイルなどを考慮して、自分に一番似合うKビューティメイクアップスタイルを見つける。</p> <p>(授業目標) メイクの基礎を身につけ、自分に合ったKビューティメイクスタイルを見つけ、演出することができる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：個人の顔のかたちや肌のトーンに合ったKビューティメイクを演出することができる。Kビューティメイクのトレンドを把握し、自分に合ったスタイルを適用することができる。  <input type="radio"/> E：Kビューティメイクの基本原理を理解し、様々なメイク技術を習得する。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（西村） 本科目の内容、成績評価、実施方法について 2 Kビューティメイクの理解（オンライン1） Kビューティメイクの特徴と歴史・Kビューティメイクのトレンド分析 3 Kビューティメイクの基礎（オンライン2） 顔のかたちと肌トーン分析・メイク道具及び製品紹介 4 Kビューティメイクアップトレンド分析（オンライン3） 最新Kビューティメイクアップトレンド紹介 5 Kビューティメイクの演出1<デモンストレーション含む>（オンライン4） K-POPアイドルメイク演出 6 Kビューティメイク演出2<デモンストレーション含む>（オンライン5） K-POPアイドルメイク演出 7 肌表現(Base Makeup)（集中講義1） 健康的な肌表現の重要性 基礎ケア（スキン、ローション、エッセンスなど）、メイクアップベース（プライマー、トーンアップクリームなど）、ファンデーション（種類、選び方、使い方）、コンシーラー（使い方、カバー技術）、パウダー（種類、使い方） 8 眉毛（Eyebrow）（集中講義2） 眉の重要性と役割 眉のデザイン（平行型、アーチ型など）、眉の描き方（ペンシル、シャドウ、マスカラ）、眉の整え方 9 アイメイク(Eye Makeup)（集中講義3） アイシャドウ（種類、色の選び方、ブレンド技術）、アイライナー、マスカラの使用方法 10 チーク＆リップメイク(Blusher & Lip Makeup)（集中講義4） チーク（種類、色の選び方、使い方）、リップメイク（口紅、ティント、リップグロス） グラデーションリップ、ツートーンリップなど様々なリップ表現 11 まつげ＆様々なオプジェ演出（集中講義5） まつげ（ビューラーの使い方、つけまつげ）・グリッター表現とスキンアート表現 12 Kビューティメイク実習（集中講義6） 個人別Kビューティメイクのデモンストレーションおよび実習 13 様々なメイクアップルック演出（集中講義7） デイリーメイク、スマーキーメイク、童顔メイクなど 14 Kビューティメイクの仕上げと評価（集中講義8） 授業内容の復習及び質疑応答 個人別Kビューティメイクの結果発表及び評価
------	---

	15 振り返り（西村） この科目を通じて得られた知識や技術振り返り、自己分析を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：個人の顔のかたちや肌のトーンに合ったKビューティメイクのトレンドを把握し、自分に合ったスタイルを考えることができる。 ○E：Kビューティメイクの基本原理や様々なメイク技術を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回のテーマに合わせた情報収集を行う。（90分） 事後学習：学んだ内容について振り返り、自分の身近なこととの関連性を調べたり、実践する。（90分）
指導方法	主に対面授業にて技術的な指導を行う。 主にオンライン授業にて知識や情報を伝える。 質疑応答に関して、随時フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：課題にて評価する。 ○E：課題にて評価する。 貢献度 40% 課題 60%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	誠信女子大学（韓国）への短期留学や編入学の案内が講義に含まれる場合がある。 授業は誠信女子大学との連携で行い、韓国からのオンライン講義と本学での集中授業（8月に実施予定）で構成されている。 セルフメイクアップ演習を履修していること。
アクティブ・ラーニング、PBL	アクティブラーニング

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F16C51	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 平面的な描画法や歴史を実際に描きながら習得する。画力に関わるあらゆる技能を、画法として分解し、理解する。</p> <p>(授業目標) 人体や空間的な理解を深め、授業を通して個々の進路との関連性を見つけ、探求・検索活動をすることができる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> C：写実力を高め、独自の発案や課題解決に向けたアウトプットできる知識を身につける。  <input type="radio"/> E：基礎技術への理解をもとに発案ができ、自分なりに言語化できる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）スケッチについて 「描画の種類や歴史」 2 スケッチ画法1 「陰影を理解する①」「美術史1」 3 スケッチ画法1 「陰影を理解する②」「美術史2」 4 スケッチ画法1 「陰影を理解する③」「美術史3」 5 スケッチ画法1 「陰影を理解する④」「美術史4」 6 スケッチ画法2 「形を正確に合わせる①」「美術史5」 7 スケッチ画法2 「形を正確に合わせる②」「美術史6」 8 スケッチ画法2 「形を正確に合わせる③」「美術史7」 9 スケッチ画法3 「形を正確に合わせる④」「美術史8」 10 スケッチ画法3 「人物の比率①」「美術史9」 11 デッサン画法1 「人物の比率②」「美術史10」 12 デッサン画法2 「人物の比率③」「美術史11」 13 デッサン画法3 「リアクションワークによる探究①」「美術史12」 14 デッサン画法3 「リアクションワークによる探究②」「美術史13」 15 デッサン画法3・まとめ 「リアクションワークによる探究③」「美術史14」
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> C：それぞれの技法の基礎を身に着け、想像をヴィジュアル的に具体化できる。 <input type="radio"/> E：学んだことを応用することで描き表現し、他人に伝えることができる。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、画法について調べる（30分）。 日頃から身のまわりのモチーフに 관심を寄せ、描くよう心がける（30分）。 事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。（120分）。
---------	---

指導方法	パワーポイントや実技映像などで基本的知識の講義や書き写すという行為を取り入れながら進行する。毎時の進行状況や成果物は随時確認し、フィードバックする。
------	--

アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：基礎力の定着度、発案の内容を評価。 ○E：基礎知識による表現力を評価。 課題60%、提出物20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリントが配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	リアクションワークなど

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F16C52	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) デッサンなどの平面的な描画を通して、ファッショングやビューティーにおけるデザイン性や、クリエイティブの根幹である写実の能力を高める。</p> <p>(授業目標) 課題によって人体への理解を深めたり、空間的理解を深めたりするなど、授業を通して個々の進路との関連性を見つけ、探求・探索活動を行うことができる。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/> D：それぞれの画法を学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。  <input type="radio"/> E：基礎技術をもとに、独創的な制作ができ、かつ言語化できる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）スケッチ・デッサンについて 「描画の種類や歴史の紹介、制作準備」  2 スケッチ・デッサン演習1 「人物デッサン・顔①」  3 スケッチ・デッサン演習1 「人物デッサン・顔②」  4 スケッチ・デッサン演習1 「人物デッサン・顔③」「講評会①」  5 スケッチ・デッサン演習2 「静物デッサン・モチーフ①」  6 スケッチ・デッサン演習2 「静物デッサン・モチーフ②」  7 スケッチ・デッサン演習2 「静物デッサン・モチーフ③」「講評会②」  8 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー①」  9 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー②」  10 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー③」「講評会③」  11 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・体①」  12 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・体②」  13 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・体③」  14 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・体④」  15 スケッチ・デッサン演習4・まとめ 「人物デッサン・体⑤」「講評会④」
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="radio"/> D：それぞれの技法の基礎を身に着けられる。 <input type="radio"/> E：モチーフを理解しスケッチ・デッサンとして形にすることができる。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。（20分） 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。（25分）
---------	--

指導方法	パワーポイントや映像などで基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は隨時確認し、フィードバックする。
------	---

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 ○E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	・デッサンに使用する画材で、自身の愛用品があれば持参しても構わない。 ・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブラーニング、PBL	制作、講評

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C56	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>J-POPの課題曲を中心に、歌唱力の向上を目的とした実践的な授業を行う。個性を魅せる歌唱がより重視されるようになっている現代に合わせて、基礎的な呼吸法、発声法から、個性を活かした表現力を高める技術までを段階的に学習し、実際に課題曲を歌うことで実践的なスキルを習得する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>歌唱に必要な基本的技術を身につけ、自己表現力や表現技法を高める。    ジャンルを問わない柔軟な歌唱力を養成し、パフォーマンスにおける自信を育てる。</p> <p>(学習成果)</p> <p><input type="radio"/> C：目標曲の完成に向けた練習計画を立て、着実に成果を上げることができる  <input type="radio"/> E：歌唱技術を実践的に学び、曲や表現に合わせた歌唱の工夫をすることができる</p>
授業計画	<p>1 イントロダクション    授業概要の説明、目標設定</p> <p>2 身体の使い方    腹式呼吸・胸式呼吸</p> <p>3 発声・のどの状態    健康的な発声を学ぶ</p> <p>4 歌い方のクセを徹底的に抜く    基礎の見直し</p> <p>5 音程    曲調に合ったピッチとハーモニー</p> <p>6 低音と高音を拡張する    声域のトレーニング</p> <p>7 裏声と地声を接続する    スムーズな切り替え</p> <p>8 抑揚・強弱    空間に合わせた音量と響き</p> <p>9 ロングトーン    ノンビブラート・息継ぎ・ロングブレス</p> <p>10 ウィスパー・ハスキーア    特殊な声の出し方</p> <p>11 スキル    こぶし・しゃくり・フォール・ビブラート</p> <p>12 ジャズボーカル    フェイク・アドリブ・スキヤット</p> <p>13 声の表情    感情やニュアンスの伝え方</p> <p>14 歌詞や言葉を伝える    母音と子音の明瞭化</p> <p>15 感情をのせる    発表会・まとめ</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p><input type="radio"/> C：発表を通して、歌唱の技術と自己表現力を発展させることができる  <input type="radio"/> E：課題曲を通じて計画的に練習し、歌唱力を高めることができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：課題曲の歌詞やメロディを事前に確認し、予習する。(20分)</p> <p>事後学習：授業で学んだ技術を自宅で復習し、次回に備える。(25分)</p>

指導方法	実技指導を中心に、映像や音源を活用した解説を加える。 個別指導とグループ活動を組み合わせ、学生が主体的に学べる環境を整える。 質疑応答の時間や発表後には、隨時フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：練習計画の実践度と課題への取り組みを評価 ○E：歌唱力の向上と発表での成果を評価 (課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%)
テキスト	なし 授業内で必要に応じて資料を配布。
参考書	なし 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	・動きやすい服装で参加すること。 ・録音・録画が可能なデバイス（スマートフォン等）を持参すること。
アクティブラーニング・PBL	実技練習、発表、グループでの相互評価。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C57	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>映像表現における「編集力」に特化した授業を実施する。SNSの視聴回数の高い投稿や映画に致るまで、すべての映像の根底には「人に伝えたい」という気持ちがある。観賞者の感情を動かし、惹き込み、わかりやすく伝える力を編集を通じて学ぶ。編集の基礎としてプロットやコンテの重要性を読み解き、映像制作の計画、撮影、編集を一連のプロセスとして学ぶ。</p> <p>(授業目標)</p> <p>映像編集の基礎を身に付け、観賞者の感情を動かす表現力を高める。 専門知識に偏りすぎることなく、自分の意図をわかりやすく伝える能力を養う。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○ A：他者との共同作業を通じて、計画力を身に着け、目標を達成できる ○ E：映像編集技術やストーリー構成を学び、観賞者の感情を動かす表現を追求できる</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 イントロダクション 授業概要の説明、目標設定かつAdobe Premiere Proのインストール 2 映像制作の基礎 プロットとストーリーの計画 3 映像制作の基礎 カット割りとシーン分析 4 縦型動画の解析 SNSで視聴回数の高い動画の仕組み 5 縦型動画の解析 縦型を活かした構図、アイキャッチ 6 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画① 撮影計画、プロット、コンテ 7 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画② 撮影～編集 8 自分の推しの場所や人、ものを紹介する動画③ 発表、プレゼンテーション 9 映画のトレーラーを解析 構成、ポイント、ハイライト 10 映画の見せ場の分析と紹介 編集で印象を変える 11 自分の解釈に基づくトレーラー制作 伝えたいこと、見せ場を明確にする 12 トレーラーの調整 サウンドと組み合わせ 13 見せ方を考えた編集実践 秒数の調整、視認性のチェック、タイミング 14 制作動画の発表会準備 共有方法の検討、意見交換 15 プrezenteーション 振り返りとまとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	○ A：他生徒と意見を交換することができ、協働することができる ○ E：映像制作を通じて編集技術や表現力を体系的に学び、理解を深めることができる
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分)

	事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。(25分)
指導方法	実技指導を中心に、映像や資料を用いた講義を組み合わせる。 グループ活動や個人作業を交えながら、学生同士で学びあう環境を作る。全体発表を通じて、作品の相互評価を行う。また、講師からも必ずフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：チームでの協働やプレゼンテーション力を評価 ○E：映像編集の技術力や表現力を評価 (課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%)
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する
参考書	なし 授業内で適宜紹介する
履修上の注意	・全員PCを持参し、初回の授業に参加できなかった生徒はAdobe Premiere Proをインストールしておくこと。 ・スマートフォンの空き容量を確保しておくこと。 ・録画や編集作業に必要なアプリのダウンロードを指示する場合がある。
アクティブラーニング、PBL	制作、プレゼンテーションを通じた実践的学習を重視する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
田島由深			
ナンバリング：F16C58	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 現代社会における演技とは、映像作品や舞台にとどまらず、多様な表現活動に必要不可欠な要素となってい る。本授業では、演技表現を身体全体で捉え、身体のコントロールや演技における「嘘のない表現」を徹底的 に追求する。また、現代美術やパフォーミングアーツ、インスタレーションの考え方を取り入れ、「場所性」 と「一回性」をキーワードに演技と演劇の自由と挑戦を学ぶ。</p> <p>(授業目標) 感情表現や身体表現の基礎を学び、リアリティのある演技を実現できるようになる。自己表現を深め、感情や 動きのコントロール能力を向上させる。現代的な視点と社会とつながる意識を持ちながら、演技表現の幅を広 げる挑戦を行う。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/> B：自己の感情や身体表現を備え、最後まで主体的に表現を追求できる  <input type="radio"/> C：授業内容を自分のものにし、技術を積み上げていくことができる       </p>
----------------------------------	---

授業計画	1 イントロダクション 演技の基礎概念と授業概要の説明 2 身体のニュートラル ストレッチ、リラクゼーション、ニュートラルな状態の理解 3 感情のニュートラル 感情の振り幅。演技に引きずられないマインドコントロール 4 演技をしない演技 嘘のない状態。普段と演技をシームレスにつなぐ 5 身体接触 身体が触れることでおこる自分と相手の反応 6 言葉を使わない表現 身体だけで感情や状況を伝える練習 7 いまここを生きる その場で感じた状況や相手に反応する即興演技 8 想像と共有 想像を活かした即興演技の実践 9 テキスト演技① 短い文章を自分の言葉として表現する練習 10 テキスト演技② 古典や既存の文章を現代的な感覚で解釈し演じる 11 「場所性」と「一回性」 空間や状況を意識したパフォーマンスの創作 12 グループワーク① 物語の創作と「見立て」の要素を学ぶ 13 グループワーク② 創作した物語を基にした演劇制作 14 グループワーク③ 演劇制作の仕上げと発表準備 15 発表と振り返り グループまたは個別での演技発表と授業の総括
到達目標・基準 C評価になる基準	<input checked="" type="radio"/> B：身体と感情を統合した表現力を深め、積極的に参加することができる <input type="radio"/> C：他者と協力し、共感的に演技活動を行うことができる

事前・事後学習	事前学習：参考映像やテキストを事前に確認し、授業に備える（20分） 事後学習：授業で学んだ内容を復習し、次回の演技課題に備える（30分）
指導方法	基本的な知識や技術をレクチャーし、実際の演技実践を中心に進行する。 授業内での演技発表やグループディスカッションを通じてフィードバックを提供する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：演技実践（短い独白演技、即興演技など）を評価 ○C：発表の内容と質（自由演技やグループ発表）を評価 (課題40%、授業への貢献度40%、成果発表20%)
テキスト	なし 授業内で必要に応じて資料を配布。
参考書	なし 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	・動きやすい服装で参加すること。 ・他者の表現を尊重し、積極的に授業に取り組むこと。
アクティブラーニング、PBL	創作・発表を中心とした演技実践。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F37A61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>「ファッショントザインゼミ」</p> <p>(授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標) 前半は、ファッショントザイン業界の職種を知り、自分の世界観を表現するスキルを身につけることを目標とする。後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(学習成果) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。 ○E：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（平光） 授業内容、授業の進め方、課題について説明  2 職種研究（平光） 現役デザイナーからファッショントザイン業界の現状を聞く カラーリサーチを行う  3 ファッショントザイン（1）（ゲスト講師） カラーリサーチのまとめ  4 ファッショントザイン（2）（PBL）（ゲスト講師） ムードボード製作  5 ファッショントザイン（3）（PBL）（ゲスト講師） コラージュ製作  6 ファッショントザイン（4）（ゲスト講師） デザインアプローチを学ぶ  7 ファッショントザイン（5）（ゲスト講師） 人体の理解と表現 プロポーションの描き方を学ぶ  8 卒業生とディスカッション（1）（平光） 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る  9 卒業生とディスカッション（2）（平光） 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る 就職活動の準備について  10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みについて  11 履歴書の書き方（1）前回の復習、志望動機の作り方（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて  12 履歴書の書き方（2）履歴書作成ワーク（キャリアセンター） ポイントを押さえた履歴書を完成させる  13 面接のポイント（1）人事が見ている面接のポイント（キャリアセンター） 人事担当者が面接で重要視する点について  14 面接のポイント（2）面接の基本を体験（キャリアセンター） 面接の流れを学ぶ  15 振り返り（平光） キャリアゼミの振り返り
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ○E：ファッション業界の職種ごとの役割や必要なスキルを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッショントレーニングについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（15分）。 事後学習：各回の課題を完成させる（30分）。 指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	（前半）パワーポイントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 （後半）パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答 パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 ○E：課題を評価する。 作品40%、課題30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	適宜プリント資料を配布する。
履修上の注意	（前半）ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 （後半）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	（前半）PBL型授業 （後半）履歴書実作、模擬面接などの実践

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F37A61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>「ブランドプロデュースゼミ」 (授業内容)</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 課題設定、制作、ディスカッション、ブラッシュアップ形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>前半は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。デジタルリテラシーを養い、クリエイティブな発想を表現する。デザインの背景を考え、企画したものを実際に形にする。デザインを点で考えるのではなく、線で考えてストーリーを考える事で、伝達力を強める。就活で使える企画やデザイン制作を行い、就活で使えるポートフォリオを作成する。</p> <p>後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎C: 目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる ◎D: デジタルクリエイション技能を向上させ、コンセプトに基づくデザイン説明ができる</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 本講座について（中村） 概要説明と業界研究 伝わるポートフォリオとは 2 Adobeについてとワイヤーフレーム（中村） Adobeソフトの説明とポートフォリオ制作に向け、ワイヤーフレームを作成 何を伝えたいか課題を設定する 3 自己紹介ページ作成（中村） エントリーシートの自由記入欄を想定しデジタルスキルを使い制作する 4 自己紹介ページ作成（中村） エントリーシートの自由記入欄を想定しデジタルスキルを使い制作する 5 ポートフォリオ制作（中村） 進みたい業界に合わせ、伝えたい人柄や伝えたい表現ができているかディスカッション 課題の設定から解決につながっているか相ディスカッションしブラッシュアップ 6 ポートフォリオ制作（中村） 写真合成を多様し企画を膨らませ、ブラッシュアップを重ねる 7 ポートフォリオ制作（中村） 全体を通して企画をまとめ、自分らしさが表現できているか最終調整 8 SPI試験実施（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 作品発表（中村） 制作まとめ・発表・講評 10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みについて 11 履歴書の書き方（1）前回の復習、志望動機の作り方（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて 12 履歴書の書き方（2）履歴書作成ワーク（キャリアセンター） ポイントを押さえた履歴書を完成させる 13 面接のポイント（1）人事が見ている面接のポイント（キャリアセンター） 人事担当者が面接で重要視する点について 14 面接のポイント（2）面接の基本を体験（キャリアセンター） 面接の流れを学ぶ 15 振り返り（中村） キャリアゼミの振り返り
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C:就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ○D:就活業界に合うポートフォリオを制作することができる
事前・事後学習	事前学習：次回授業時に必要な素材や写真を集め表現を具体的にする。また、指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習（15分） 事後学習：デザインパーツなど各回の課題を完成させる。また、毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく（30分）
指導方法	（前半）学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。何を伝えるのか、ポートフォリオにすると良いのかなどを話し合い、表現方法を全員で事例や手法などをディスカッションし制作に反映させる。 Adobe操作に関しては遅れる学生が出ないよう、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 （後半）パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックは、制作の過程で適宜個人的に行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C:授業態度（参加度、積極性）を評価する。 ○D:作品の完成度を評価 作品50%、履歴書や模擬面談20%、授業態度（参加度、積極性）30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	（前半）Adobeソフト使用 各自PC持参 就職活動でのアピールにつながる取り組みにするため、柔軟な対応が必要となる。 （後半）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブラーニング、PBL	（前半）ポートフォリオに関する企画や自分ページ制作 （後半）履歴書実作、模擬面接などの実践

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F37A61			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>「ファッションセールスゼミ」 (授業内容)</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、ワーク、プレゼンテーション形式で行い、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>前半は、ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。 ○D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッション業界の基礎、ファッション販売員の役割（小松） 本ゼミナールの概要、業態別におけるファッション販売員の役割について</p> <p>2 ファッション販売員の研究（1）（小松） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは</p> <p>3 ファッション販売員の研究（2）（小松） 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>4 2年生内定者体験講話（小松） 就職活動の注意点とアドバイス</p> <p>5 就職サイトの活用方法（小松） キャリアNaviおよびWebの活用方法、キャリアセンターの使用方法</p> <p>6 店舗運営の研究（1）（小松） 販売員から見た店舗運営のあり方</p> <p>7 店舗運営の研究（2）（小松） 客数および売上を上げる方策とは</p> <p>8 店舗運営の研究（3）プレゼンテーション（小松） 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>9 就職活動の進め方（小松） 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について</p> <p>10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法（キャリアセンター） 自己分析を通した自分の強みについて</p> <p>11 履歴書の書き方（1）前回の復習、志望動機の作り方（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>12 履歴書の書き方（2）履歴書作成ワーク（キャリアセンター） ポイントを押さえた履歴書を完成させる</p> <p>13 面接のポイント（1）人事が見ている面接のポイント（キャリアセンター） 人事担当者が面接で重要視する点について</p> <p>14 面接のポイント（2）面接の基本を体験（キャリアセンター） 面接の流れを学ぶ</p> <p>15 振り返り（小松） キャリアゼミの振り返り</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法を考えることができる。 ○D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している。

事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく。 指定した資料を用いて自己分析を行い、興味のある業界を調べておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。
指導方法	（前半）パワーポイントを使用した講義とワーク形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。プレゼンテーションでは、学生同士による他己評価の他、教員から総評を行う。 （後半）パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの方法：提出課題に添削を行いコメントを記載して返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーション、課題を評価する。 ○D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	（前半）日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 （後半）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	（前半）PBL型授業（ワーク、プレゼンテーション） （後半）履歴書実作、模擬面接などの実践

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
齊藤彰			
ナンバリング：F37A61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>「ウェディングゼミ」 (授業内容)</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。</p> <p>授業は講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンタースタッフが指導を行う。 (授業目標)</p> <p>前半は、専門業界からゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げてグループワーク形式で討議を行い、発表することでプレゼンテーション力を養う。</p> <p>後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を得る。 (学習成果)</p> <p>◎C：身近な社会現象に対して興味を持ち、思考力を働かせ課題解決のために考察できる。 ◎D：ウェディングにおけるホスピタリティを理解し、業界就職のための知識を主体的に身につけることができる。目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ウエディングゼミガイダンス（安東） ウエディング業界に特化した就職活動の概要を知る  2 就活に必要な2つの準備（安東） 自己分析と企業研究の手法を学ぶ  3 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師①専門式場） 専門式場の採用活動を知る  4 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師②ゲストハウス） ゲストハウスの採用活動を知る  5 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師③ウェディングコスチューム企業） ドレスショップの採用活動を知る  6 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師④ホテルウェディング） ホテルウェディングの採用活動を知る  7 自分の就活スタイル（安東） 就職活動の方向性を決める指針を学ぶ  8 オリエンテーション（齊藤） 本格的にスタートする就職活動に向けての心構えと必要な準備について  9 就職活動の準備について（齊藤） 求人の探し方や企業研究の方法  10 履歴書の書き方を知る（1）（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みを考える  11 就職活動、面接でのマナー講座（キャリアセンター） 就職活動で必要なマナー（立居振舞、言葉遣い）などの基本を学ぶ  12 履歴書の書き方を知る（2）（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて  13 就職活動で必要な面接のポイント（1）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ  14 就職活動で必要な面接のポイント（2）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ  15 キャリアゼミの振り返り（安東） キャリアゼミの振り返りとまとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ◎D：ウェディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。

事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。（30分） 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。（30分）
指導方法	前半は、通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出を求める。 後半は、パワーポイントを使用した講義を中心に、履歴書の実作や面接のロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの方法：提出課題に添削を行いコメントを記載して返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：グループワークでの自己提案力と貢献度 ○D：ウエディング業界の理解度 課題60%、授業への貢献度40%（合計100%）特に授業態度（参加度、積極性）を評価する。
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスマ21（1年前期に購入済み） ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ プリント配布（式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表）
参考書	
履修上の注意	前半：ウエディング関連企業に興味を持っていること。ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。 後半：業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブラーニング・PBL	前半：グループワーク 後半：履歴書実作、模擬面接などの実技

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
西村リサ、小松千佳、峯脇真弓			
ナンバリング：F37A61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	「ビューティゼミ」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。 (授業目標) 前半は、ビューティ業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (学習成果) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる 自己理解を深め、企業や業種の特性と自分と相性について考えられる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス（西村） 本ゼミナールの概要、ビューティ業界について 2 就職活動準備（1）（西村） ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて 3 職種研究（1）（西村） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 4 職種研究（2）（峯脇） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 5 職種研究（3）（ゲスト講師） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 化粧品・ネイル・エステ業界 6 職種研究（4）（ゲスト講師） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 化粧品・ネイル・エステ業界 7 職種研究（4）（ゲスト講師） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 化粧品・ネイル・エステ業界 8 職種研究（5）（峯脇） ビューティ業界のキャリア、仕事内容について 9 化粧品業界について（西村） 化粧品業界の仕組みやルールを学ぶ 10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みについて 11 履歴書の書き方（1） 前回の復習、志望動機の作り方（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて 12 履歴書の書き方（2） 履歴書作成ワーク（キャリアセンター） ポイントを押さえた履歴書を完成させる 13 面接のポイント（1） 人事が見ている面接のポイント（キャリアセンター） 人事担当者が面接で重要視する点について 14 面接のポイント（2） 面接の基本を体験（キャリアセンター） 面接の流れを学ぶ 15 振り返り（西村） キャリアゼミの振り返り
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している 志望企業や職種の実務について述べる事ができる

	志望企業や職種の採用時期や就労形態を理解している
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。  指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	(前半) 美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 課題を評価する。 課題70%、授業態度・授業への貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	図解即戦力 化粧品業界のしくみと仕事がこれ1冊でしっかりとわかる教科書
履修上の注意	(前半) 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。 (後半) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブラーニング、PBL	(前半) グループワーク、プレゼンテーションなど (後半) 履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：パフォーマンス＆アートゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修 主要科目：○
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F37A61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>「パフォーマンス＆アートゼミ」 (授業内容)</p> <p>急速なメディア発展の中においても、自己の表現性は不変的なものである。一方でテクノロジーの発達の陰で人間としての尊厳が特定の分野においては危ぶまれてゐるのも事実である。このゼミでは、より多視点に自己表現を構想できる活動を、自ら構築し、ゼミの垣根を越え協力し合い、実現することを目指す。</p> <p>前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。 (授業目標)</p> <p>戸板フェスでの成果発表のための企画作成を行う。ゼミ内で企画を練り、企画実現のためのプランを考案しプレゼンテーションを行う。またそれに付随し、自主制作を並行して行い表現力を身につける。 (学習成果)</p> <p>◎ B：表現、制作を通して自己分析を行い、それを自分の表現として他社にアウトプットできる。 ○ D：表現、制作に必要なノウハウを実践を通して学び、発揮できる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ゼミガイダンス（佐藤） 表現分野についてのガイダンスと自己分析 2 グループワークによる企画1（佐藤） 表現分野毎の発表企画作成、並びに表現研究① 3 グループワークによる企画1（佐藤） 表現分野毎の発表企画作成、並びに表現研究② 4 グループワークによる企画1（佐藤） 表現分野毎の発表企画作成、並びに表現研究③ 5 グループワークによる企画1（佐藤） 表現分野毎の発表企画作成、並びに表現研究④ 6 グループワークによる企画2（佐藤） 表現分野毎の発表企画、並びに表現研究のプレゼン① 7 グループワークによる企画2（佐藤） 表現分野毎の発表企画、並びに表現研究のプレゼン② 8 グループワークによる企画3（佐藤） 成果発表企画のブラッシュアップと運営① 9 グループワークによる企画3（佐藤） 成果発表企画のブラッシュアップと運営② 10 就職活動の基本 自己分析と企業研究（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みを考える 11 履歴書の書き方を知る（1） 志望動機の作り方（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて 12 履歴書の書き方を知る（2） 履歴書作成ワーク（キャリアセンター） 志望する企業のポイントを押された履歴書を完成させる 13 面接のポイント（1） 人事目線の面接（キャリアセンター） 人事担当者が面接で重要視する点について 14 面接のポイント（2） 面接の基本を体験（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接の流れを学ぶ 15 振り返り（佐藤） キャリアゼミの振り返り
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎ B：表現、制作を通して自己分析を行うことができる。 ○ D：表現、制作に必要なノウハウを実践を通して学ぶことができる。
事前・事後学習	事前：次回授業までに必要な進行を行うこと。（60分） 事後：学修した内容を自身のアートワークに反映させること。（60分）

指導方法	(前半) 通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性、協調性を重視する。 実践形式で授業を展開し、授業終盤に作品や企画の発表を行う。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの方法：提出課題に添削を行いコメントを記載して返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：グループワークでの自己提案力と貢献度などのリーダーシップ、作品の企画力と表現性。 ○D：企画、制作に対する実現性と向上心 企画、制作80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	・表現領域に興味関心を持っていること。 ・経験の中から主体的に自己実現、進路設計ができること。 ・課題実現のための協調性や能動性に責任が持てること。
アクティブラーニング、PBL	グループワーク、制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F36C59	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（デザインクリエーションファッショ）で学んだファッショングデザインを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を作成する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為の計画を組み立てる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>作品製作を通して自身の知識・技術を向上させ、自分が思い描いたイメージを服飾造形作品として表現する力を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○ A：他者の作品やプレゼンテーションを通じて新たな視点やアイデアを得ることができる。また、それらを自身の作品制作に活かし、より創造性豊かな表現ができる。      ○ E：クリエイション技能を理解し、立体研究により自身が思い描く作品を表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (PBL) (平光)      概要説明      自分の好きな世界観を言語化し、そのテーマやコンセプトに沿ったムードボードを制作するワークを行う</p> <p>2 副資材とデザインの基礎アプローチ (1) (ゲスト講師)      立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>3 副資材とデザインの基礎アプローチ (2) (ゲスト講師)      副資材の機能性や美的要素に着目し、デザインへの効果的な活用方法を思考する</p> <p>4 副資材とデザインの基礎アプローチ (3) (ゲスト講師)      立体造形デザインへ展開する</p> <p>5 業界研究 (平光)      副資材を扱う企業について学修し、業界研究を行う</p> <p>6 造形表現と制作 (1) (ゲスト講師)      ディテールの研究 (1)</p> <p>7 造形表現と制作 (2) (平光)      ディテールの研究 (2)</p> <p>8 トワル試作発表会 (プレゼンテーション) (ゲスト講師)      副資材を扱う企業について学修したことをプレゼンテーションする</p> <p>9 作品製作 (1) (ゲスト講師)      カットソー作品を製作し、立体研究について学ぶ</p> <p>10 作品製作 (2) (平光)      ディテールの再現</p> <p>11 作品製作 (3) (ゲスト講師)      デザインや装飾の細かな部分を正確に再現する</p> <p>12 作品製作 (4) (ゲスト講師)      デザインやイメージの細部を具体的な形に表す</p> <p>13 プrezenteーション資料の作成 (1) (平光)      デザイン画の修正、ポートフォリオ作成</p> <p>14 プrezenteーション資料の作成 (2) (ゲスト講師)      デザイン画の修正、ポートフォリオ作成</p> <p>15 発表 (プレゼンテーション) (ゲスト講師)</p>

	企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：他者の作品やプレゼンテーションを参考にしながら、新たな視点を取り入れ、自身の作品制作に活かすことができる。 ○E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッショングデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評、④質問に対してが個別指導を行う
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A、○E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F36C60	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>ブランドや企画や販売促進などに関係した就職を希望する学生を対象にしたゼミである。          どの様にサービスや商品を発信していくかのブランドストーリーを作り作品制作する。コンセプトの表現をビジュアルデザインを通して行うことで効果的なブランディングの表現力を養い、今後のビジネスに活かすことを目的とする。制作課題を設定し、完成までのフローを組み立て実施する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>AdobeのIllustratorやPhotoshopなどのクリエイティブソフトを使い、デジタルの複合スキルを身につける</p> <p>(学習成果)</p> <p>○ B：積極的に作業を進め、責任感を持って最後までやり抜くことができる          ○ C：デジタル技術を向上させ、コンセプトに基づく表現ができる</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス・Adobeについて          本ゼミナールの概要          Adobeの基本操作とできることについて学ぶ</p> <p>2 業界研究と目標課題設定          業界研究をし課題を見つけ、企画書概要を作る          就活の際に使えるポートフォリオや職種や業界に合わせた企画書を含むポートフォリオを活かしたマネジメントについて知る</p> <p>3 コンセプト設定          商品やサービスに対してコンセプト設定をし、レイアウトする</p> <p>4 ブランディングデザイン研究          様々なブランディングにまつわるデザインを知り、表現する方法での違いを学ぶ          効果的な表現方法を考察しディスカッションを重ねる</p> <p>5 ブランドストーリー設定          コンセプトに基づくマーケティング方法やビジュアルアイデンティティーなどブランドの発信方法を決めて全体のストーリーを設定する</p> <p>6 ワイヤーフレーム計画          ワイヤーフレームを作ることでブランディング制作を可視化する</p> <p>7 ビジュアルアイデンティティー制作          ストーリー発信に効果的なブランディングの為のデザインパートを制作し完成させる</p> <p>8 作品制作の為の計画          デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける</p> <p>9 トーン&amp;マナー設定          デザインルールを決めることでブランドの世界観の統一を図る</p> <p>10 企画内容発表          企画内容がコンセプトの伝わるものになっているか発表をし          今後の作品制作に活かす</p> <p>11 作品制作          ビジュアルアイデンティティーを活かした作品制作（グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施）</p> <p>12 作品制作          ビジュアルアイデンティティーを活かした作品制作（グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施）</p> <p>13 作品完成・撮影          作品を完成させ、企画書に入れるための撮影をする</p> <p>14 まとめ（PBL）          作品を全て揃え、企画と制作をまとめ。</p> <p>15 学修成果発表 講評          各作品を鑑賞し、意見を出し合い今後につなげる。また、自分の特性を客観的に考察する</p>

到達目標・基準 C評価になる基準	○B : 主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる ○C : デザインソフトを使い、制作ができる
事前・事後学習	事前学習：ブランド発信におけるデザインの背景やコンセプトを考察する（10分） 事後学習：各自スケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（35分）
指導方法	全体で取組課題を設定し、そこからそれぞれが課題設定をしていく。 主体的に参加し、課題に取組む必要がある。 個人サポートと全体サポートを交互に行い、操作性や進捗を確認 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う フィードバックは適宜個人やグループに合わせて行う
アセスメント・成績評価の方法・基準	○B : 課題や授業への貢献度を評価 ○C : 課題と成果物による評価 作品70%、授業態度及び貢献度30%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobe ソフト使用 各自PC持参 作品制作の為自主的な受講態度が求められる。プロジェクト演習科目と連動していく為、授業外での活動などが発生し工程が変動する場合がある。 「ブランドプロデュース演習」「ビジュアルアート演習」の科目履修をすることでデジタル技術を本科目にも活かすことができる
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F36C61	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ファッション業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、特に将来アパレル会社における職種（企画、デザイナー、MDなど）にとって必要なコンセプトワーク・商品企画・MD・デザイン展開などの視点を養い『理想のアパレルブランド』を立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要となる知識やスキルを理解する。</p> <p>(学習成果) ◎A：ファッションに関する知識や情報の収集を行い、意見交換をしながら課題解決策を提案できる。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、理論的にプレゼンテーションすることができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状解説、グループ分けアンケート 2 オリジナルブランド概要決定（PBL） グループワークにてオリジナルアパレルブランドの概要を決定する。 3 ブランドコンセプト（ワーク）（PBL） ファッションブランドの研究を基にオリジナルアパレルブランドのコンセプトワークを作成する 4 ターゲット設定（ワーク）（PBL） ターゲット設定及びターゲットイメージマップを作成する 5 店舗設計（路面店）（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランドの路面店用店舗物件選択、店舗内装プランを作成する 6 商品構成・商品イメージ（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランドが展開する商品イメージ及び商品構成プランを作成する 7 VPスタイリングプラン（ワーク）（PBL） 商品イメージを基に店頭でもVPをイメージし3体のスタイリングプランを作成する。 8 広告宣伝プラン及び3ヵ年計画（ワーク）（PBL） 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成する。 9 コンセプトワークプレゼンテーション（プレゼンテーション） 各グループがメンバー全員でプレゼンテーションをする。 10 コンセプトワークブラッシュアップ（PBL） 指摘された修正ポイントを理解し、グループワークにてコンセプトワークをブラッシュアップする。 11 起業・事業計画（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランド立ち上げに向けたデビュー準備と収支プランを作成する。 12 MD・商品企画 1（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成 13 MD・商品企画 2（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成 14 MD・商品企画 3（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成 15 MD構成・商品計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） 各グループがメンバー全員により商品計画・事業計画の最終プレゼンテーション
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：ファッションに関する知識や情報を収集し、分析結果を発表できる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビジネス情報誌、インターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容を基に「アパレルブランドの運営」についてまとめる（25分）。

指導方法	パワー・ポイントを使用した講義とワーク・ショップ形式で授業をシナリオ的に展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。 理想のアパレルブランドを立案することで、それを構成する様々な本社業務の役割や実務を体験する。随時フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：課題の取り組みや授業貢献度を評価する。 ◎E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	SNS等のインターネットでファッショングに関する知識や感性を養い、アパレルブランドの実店舗やオンラインショッピングも随時リサーチする。 ※履修者の状況、進捗などに応じて授業内容を変更することがある。
アクティブラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
未定			
ナンバリング：F36C62			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、ワーク、プレゼンテーション形式等で行う。</p> <p>(授業目標) 1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」を踏まえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目標とする。</p> <p>(学習成果) ○A：店舗調査を積極的に行い、現状分析を踏まえた課題と実践的な対策を述べることができる。 ○E：店舗運営に必要となる知識を理解し、論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 異業種研究（1）（ワーク） 「人気のある店舗における4P戦略」研究 3 異業種研究（2）（ワーク） 「人気のある店舗における4P戦略」研究 4 異業種研究（3）（プレゼンテーション） 「人気のある店舗における4P戦略」プレゼンテーションおよび評価と振り返り 5 異業種研究（4）（ワーク） 「売上がりが低迷している店舗における4Pの課題と解決策」研究 6 異業種研究（5）（ワーク） 「売上がりが低迷している店舗における4Pの課題と解決策」研究 7 異業種研究（6）（プレゼンテーション） 「売上がりが低迷している店舗における4Pの課題と解決策」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 8 店舗運営の現状（1）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗運営の現状」研究 9 店舗運営の現状（2）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗運営の現状」研究 10 店舗出店の現状（1）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗出店の現状」研究 11 店舗出店の現状（2）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗出店の現状」研究 12 店舗運営および出店の現状（プレゼンテーション） 「アパレル小売業における店舗運営および出店の現状」プレゼンテーションおよび評価と振り返り 13 理想の店舗（1）（PBL） 「理想の店舗に必要な条件（ヒト、モノ、カネ、ノウハウ）」研究 14 理想の店舗（2）（PBL） 「理想の店舗に必要な条件（ヒト、モノ、カネ、ノウハウ）」研究 15 理想の店舗（3）（プレゼンテーション） 「理想の店舗」プレゼンテーションおよび評価と振り返り
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	○A：店舗調査を積極的に行い、現状分析と課題について述べることができる。 ○E：店舗運営に必要となる知識を理解し、プレゼンテーションすることができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。

指導方法	パワー・ポイントを使用した講義とワーク・ショップ形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。プレゼンテーションでは、学生同士による他己評価の他、教員から総評、フィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：店舗調査から正確に現状分析を行い、課題を抽出しているかを評価する。 ○E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、課題と解決策を考える習慣を身につけること。
アクティブラーニング・PBL	ワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
齊藤彰、佐藤賢志			
ナンバリング：F36C63	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ウエディングプランナー、ウエディングドレスリストなどのブライダル関連企業に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連携してゼミナール形式で授業を行う。</p> <p>(授業目標) 専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談もを行い、選考対応策も学修する。</p> <p>(学習成果) ○B：ウエディングの現場で求められる共感力とコミュニケーション能力、および社会で活躍できる一般的な知識・教養・常識を身につける。 ○C：自分に適した企業を判断し、ウエディング業界への就職活動を計画的に進めることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について  2 就職活動の取り組みについて 過去の採用実績からウエディング業界と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す  3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ  4 就職活動に必要な視点を磨く 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する  5 就職活動成功事例の共有 過去の学生の就職成功事例を紹介  6 3-why-stepのケーススタディ 1／環境問題 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)  7 3-why-stepのケーススタディ 2／教育問題 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)  8 3-why-stepのケーススタディ 3／物販と物流 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)  9 3-why-stepのケーススタディ 4／テクノロジー テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)  10 企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える  11 模擬面談と発表 1 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く  12 模擬面談と発表 2 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く  13 模擬面談と発表 3 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く  14 模擬面談と発表 4 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く  15 ウエディングゼミの振り返り 就職活動の把握、ウエディングゼミのまとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：ウエディングの現場で求められる共感力とコミュニケーション能力、社会人基礎力を理解できる。 ○C：自分に適した企業を判断し、就職活動を進めることができる。

事前・事後学習	ウェディング業界の企業情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回のテーマについて、予習をしておくこと（30分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（30分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出を求める。 フィードバックの方法：テーマごとの課題に対し、毎授業に回答を共有して指導する。また、質問疑問に対しても随時授業内で回答する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：グループワークでの自己提案力と貢献度 ○C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%（合計100%）
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウェディングジョブ プリント配布(組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート)
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、主体的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択 主要科目：○
担当教員			
西村リサ、峯脇真弓			
ナンバリング：F36C64	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input checked="" type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ビューティ業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ビューティ業界で働く心構えを学ぶ。 (授業目標) 広義に美容をとらえ、自信の生涯を通じてどのように美容と関わっていくのか考えを深め、女性の多様なキャリア形成について実例とともに学ぶ。 (学習成果) <input type="checkbox"/> D：美容への多様な関わり方を理解し、自分が関心を持っている美容について探求できる。 <input type="checkbox"/> E：自分の考え方や思いを的確に表現できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス（西村） 本ゼミナールの概要、授業の進め方 2 女性の多様なキャリアとライフスタイル（1）（西村）（PBL） 個人研究 多様な美容と表現、自分の興味関心のある事柄について考える 3 女性の多様なキャリアとライフスタイル（2）（ゲスト講師：馬場さおり） 求められる知識や技術 言葉1つで全てが変わる！ライティングの基礎知識 4 女性の多様なキャリアとライフスタイル（3）（ゲスト講師：馬場さおり） 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 5 女性の多様なキャリアとライフスタイル（4）（ゲスト講師：馬場さおり） 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識 6 女性の多様なキャリアとライフスタイル（5）（ゲスト講師：馬場さおり） 求められる知識や技術 売り込むためのセールスライティングの基礎知識 7 女性の多様なキャリアとライフスタイル（6）（西村）（PBL） 自分の興味の方向性を見極め、研究する 8 女性の多様なキャリアとライフスタイル（7）（ゲスト講師：小山田明子） 求められる知識や技術 女性の健康と食事 9 女性の多様なキャリアとライフスタイル（8）（ゲスト講師：小山田明子） 求められる知識や技術 マクロビオティックについて 10 女性の多様なキャリアとライフスタイル（9）（ゲスト講師：小山田明子） 求められる知識や技術 マクロビオティック望診 11 女性の多様なキャリアとライフスタイル（10）（ゲスト講師：小山田明子） 求められる知識や技術 女性のライフステージと身体 12 女性の多様なキャリアとライフスタイル（11）（峯脇） 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 13 女性の多様なキャリアとライフスタイル（12）（峯脇） 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて 14 女性の多様なキャリアとライフスタイル（14）（西村）（PBL） 個人研究 課題グループ発表（プレゼンテーション） 15 ガイダンス（西村）（PBL） 個人研究 課題全体発表（プレゼンテーション） 自分らしい生き方を目指して～ワークライフバランスについて
到達目標・基準 C評価になる基準	<input type="checkbox"/> D：自分の持っている知識や情報をまとめることができる。 <input type="checkbox"/> E：自分の考え方を言語化しアウトプットできる。

事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い自分自身のキャリア形成やライフスタイルについて考える（25分）。
指導方法	各自パソコンを使用してノートをとる。 パワーポイント等を使用する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「妊活食事法」コウノトリごはん 小山田明子 セルバ出版
履修上の注意	毎回パソコンを持参すること。 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこ と。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL プレゼンテーション ディスカッション 実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F36C65			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input checked="" type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 学生自ら志望する大学合格に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習を行う。各自のスケジュールに合わせた個別指導を受ける。</p> <p>(授業目標) 自己の目標に対して、発生しそうな問題を自分なりに想定したうえで現実的な計画を立て、達成に向けて努力する。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="checkbox"/> C：自己の目標に対して計画を大まかに立てることができ、自分なりに試行錯誤しながら状況に合わせて勉強を進めていくことができる。  <input type="checkbox"/> D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・進学準備カウンセリング 【対面】      受験先決定に向けたカウンセリング      編入に向けて本格的な準備を始める</p> <p>2 学習計画書の作成（1）、情報収集・試験対策（1）【対面】      編入学試験までの学習スケジュール管理について学習する      自ら行うこと、支援を必要とする項目を整理する      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>3 学習計画書の作成（2）、情報収集・試験対策（2）【対面】      第1志望校合格に向けて、各自の学習スケジュールを作成する      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>4 志望理由書の書き方（1）、情報収集・試験対策（3）【対面】      編入学のポイントとなる志望理由書の書き方について学習する      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>5 志望理由書の書き方（2）情報収集・試験対策（4）【対面】      編入学のポイントとなる志望理由書の書き方を実践練習する      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>6 面接対策（1）、情報収集・試験対策（5）【対面】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>7 面接対策（2）、情報収集・試験対策（6）【対面】      面接での受け答えについて実践練習する      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>8 状況確認及び進学カウンセリング、情報収集・試験対策（7）【対面】      現在の対策状況を確認し、必要があれば対策を練り直す      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>9 情報収集・試験対策（8）【対面】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>10 情報収集・試験対策（9）【対面】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>11 情報収集・試験対策（10）【対面】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>12 情報収集・試験対策（11）【オンデマンド】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>13 情報収集・試験対策（12）【オンデマンド】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>14 情報収集・試験対策（13）【オンデマンド】      学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>15 対策状況最終確認及び進学カウンセリング、今後のスケジュール確認 【対面】      前期の対策をふりかえり、編入学に向けて今後の方針を確認する</p>

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し必要な計画を立て、合格を目指して自分なりに勉強を進める。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ計画立案する(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応じて、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 ○D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	『大学受験文系大学・学部の志望理由書の書き方：A0入試・推薦入試対策』(2007) シグマベスト 『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』(2015) 大修館書店
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行い、学びに生かすこと。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、報告すること。
アクティブラーニング、PBL	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：F37C67			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標)</p> <p>社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。      ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修（ゲスト講師）          プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。          （課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解）          参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 訪問企業の発表、訪問順序の決定（ゲスト講師）          訪問先を確認し、自分たちが先方に尋ねてみたいこと（働くこととはどういうことか、進路を決めるときにどのようなことを軸としたのか、学生時代の過ごし方など）を考え、今後の取り組みに備える。</p> <p>3 質問内容の作成（個人作業→グループワーク）（ゲスト講師）          企業に聞きたいことを整理し、まとめ、尋ねかたについて話し合う。</p> <p>4 訪問に向けての予行演習・質問内容の作成（グループワーク）（ゲスト講師）          課題解決案の初期案を作成する。          講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。          自分たちで訪問先にアポイントを取る（話し方、何を尋ねるべきなのか、確認すべきことがらは何か）。</p> <p>5 名刺交換の練習をする。          経路の確認等をおこなう。</p> <p>6 企業訪問①（ゲスト講師）          案をもとに、実際に現地へ赴く。          企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>7 企業訪問②（ゲスト講師）          案をもとに、実際に現地へ赴く。          企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>8 振り返り①（ゲスト講師）          実際に初めて訪問して感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。          何ができる、何ができなかつたのかを確認する。          講師からアドバイスを受け、次回に向けてすべきことは何か、討議する。</p> <p>9 キャリアとは何か（ゲスト講師）          講師の講義（キャリアについて）を聞き、学んだことを活かして今後の取り組みに備える。          次の企業訪問に向けて、質問を考える。          現地調査や確認をおこなう。</p> <p>10 企業訪問③（ゲスト講師）          案をもとに、実際に現地へ赴く。          企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>11 企業訪問④（ゲスト講師）          案をもとに、実際に現地へ赴く。          企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>12 振り返り②（ゲスト講師）          3、4回目の企業訪問で感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。          成長した点があつたか、今後の課題を確認する。</p>
------	---

	<p>今後に向けてすべきことは何か討議し、プラッシュアップをはかる。 講師からアドバイスを受け、今後のプレゼンテーションに向けての準備をする。</p> <p>振り返り③（ゲスト講師） 企業訪問で感じたこと、学び得たことを整理し、掘り下げる。 計画案をまとめ、実現し、結果についての調査・分析をまとめる。 講師からアドバイスを受け、この後の取り組みに備え、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>12 13 14 15</p> <p>プレゼンテーション実施①（ゲスト講師） 課題の解決案を企業や自治体に対して発表する。</p> <p>プレゼンテーション実施②（ゲスト講師） 課題の解決案を学内や来校者に対して発表する。</p> <p>報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり（ゲスト講師） 活動の結果を分析し、感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 活動全体のふりかえりを行い、あらためて自分たちのキャリア、生き方について考えをまとめ、整理する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法	産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告（発表）までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に実際に足を運んで活動する日もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し決められたプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。 平常点（課題提出、貢献度）50%、成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど）50%
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	*参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会がある日には必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もあるので注意すること。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。
アクティブラーニング・PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	服専：選択
担当教員			
濵木祥子、吉田涼平			
ナンバリング：F37C67	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>この授業は、企業の課題解決を目的としたPBL型授業である。大学の一般的な授業では得られない「実社会での実践的な経験」を提供する。受講者は、企業が直面する課題に対する解決策を提案するため、グループで活動を行い、一般的な企業が行う営利目的のプロジェクトがどのように進行するかを体験する。所定の成果を達成することで、単位を修得できる授業である。</p> <p>(授業目標)</p> <p>企業の担当者と直接コミュニケーションをとり、実社会の現実を体感することで、社会人としての第一歩を踏み出す基盤を築く。          グループ活動を通じて、自身の得意分野や改善すべき課題に気付き、自己認識を深める。          チームでの活動を通じて協働スキルや問題解決力を向上させる。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎ A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、自発的な行動力を發揮してプロジェクトを成功に導くことができる。          ○ C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的に役割を全うする。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修          プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。          (課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解)          参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 企業（自治体）より、掲示された課題の説明          企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題を担当者から直接お話しいただくことで、自分事として捉えて今後の取り組みに備える。</p> <p>3 企業（自治体）より、掲示された課題の検討（グループワーク）          企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題について、グループで討論し、課題解決の為に解決策を出し合う。</p> <p>4 課題解決案の作成（グループワーク）          課題解決案の初期案を作成する。          講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。</p> <p>5 課題解決案の発表          課題解決案の初期案を発表する。</p> <p>6 フィールドワーク・実施 1          課題解決初期案をもとに、実際に現地調査をする。</p> <p>7 課題解決案の検討 1（グループワーク）          現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決策をブラッシュアップする。</p> <p>8 中間報告会 1          各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について企業からアドバイスをいただく。</p> <p>9 課題解決案の見直し（グループワーク）          講義、資料検索やディスカッションなどを通して課題解決案の目的、内容等を見直す。</p> <p>10 フィールドワーク・実施 2          課題解決案が実際に実現可能な解決案となるか、現地調査や確認を行う。</p> <p>11 課題解決案の検討 2（グループワーク）          現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決案をブラッシュアップする。</p> <p>12 中間報告会 2          進捗確認、必要に応じて企業からアドバイスをいただく。</p> <p>13 課題解決案の実現（グループワーク）          課題解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる。</p> <p>14 プレゼンテーション・フィールドワーク・実施          課題の解決案を企業に対して発表する。</p>

	15 報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり 結果を調査・分析し、報告書を産学（官）連携先へ提出・評価を受ける。 活動全体のふりかえりをする。
到達目標・基準 C評価になる基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容とチーム全体の状況を理解し、自発的な行動力を發揮してプロジェクト成功に貢献する。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて役割を全うする。
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法	産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に伺っての活動もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する ○C：平常点および成果発表で評価する  平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	* 参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 * 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 * プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 * プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 * グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。
アクティブラーニング・ PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、松井恵美子、中村晴菜、狩野恭子			
ナンバリング：F37C67	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>企業（ホテル業界）（自治体）等の課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ブランドのより良い発信を目指し、ラグジュアリーホテル業界と一緒にプロジェクトを実施する授業である。ラグジュアリーホテルのホスピタリティを学ぶだけでなく周辺地域についても学びを深めるものである。社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、伝わるデザイン制作を目標にジェネリックスキルを高める。ブランド接点をデザインの観点から探究することで、より良いブランド発信を目指とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○ A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。      ○ C：ブランドを理解し、実現可能で独自性のあるデザイン制作ができる。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修      プロジェクトマネジメントについて</p> <p>2 オリエンテーション グループワーク、ディスカッション、PBL型授業      プログラムの意義・目的について、参加メンバー紹介とグループ作り、スケジュール説明、注意事項など</p> <p>3 課題の理解① グループワーク、ディスカッション、PBL型授業      スモールラグジュアリーとは</p> <p>4 課題の理解② グループワーク、ディスカッション、PBL型授業      スモールラグジュアリーのホスピタリティとは</p> <p>5 課題の理解      企業からの課題の説明</p> <p>6-9 課題解決案の作成      ビジュアルアイデンティティをメインにデザイン制作を通して課題解決案を作成する（4回程度）</p> <p>10 中間報告会      各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について連携先からアドバイスを頂き解決案をプラッシュアップする。</p> <p>11-14 課題解決案の実現      フィードバックから調査・分析をまとめ、課題解決案を元に細かいデザイン表現にしていく（4回程度）</p> <p>15 結果報告と振り返り      結果の報告をし、連携先の評価を受ける。活動全体の振り返りと今後を考察する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	○ A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後まで貢献することができる。 ○ C：デジタルスキルを活用しデザイン制作ができる
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提供内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（90分） 事後学習：事後の振り返り、関連する社会課題などの学習、進歩状況によってはグループ活動など。（90分）
指導方法	連携先企業の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から適宜、個別あるいはグループ、履修者全體に対してフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○ A：平常点および成果発表で評価する ○ C：平常点および成果発表で評価する 平常点（課題提出、貢献度）50% 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど）50%
テキスト	なし

参考書	必要に応じて掲示する
履修上の注意	<p>Adobeソフト使用 各自PC持参      「デザインクリエーション デジタルゼミ」の中でも横断的に取組む</p> <p>プロジェクト演習は定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇の活動が含まれる場合もある。</li> <li>* デジタルゼミ履修者のみ履修することができる。</li> <li>* プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。</li> <li>* グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。</li> <li>* 履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング、PBL	フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村公子、石田毅、松井恵美子、姜瑢嬉			
ナンバリング：F37C67			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 課題解決に向けて「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。ホスピタリティをテーマに、夏期休暇を利用して韓国を舞台にプロジェクトを展開する。両国の違いを検証し、グローバルなホスピタリティを提供できる提案を行う。前期における日本での事前学習を経て、韓国では誠信女子大学で語学やK-Beauty等の様々な研修を受けたり、実際に各自のテーマに沿ったホスピタリティを体験したりすることによって学びを深める。さらに、韓国人学生との交流を通して考え方や求めているものの違いを知り、課題解決のための糸口を探る。</p> <p>(授業目標)          グローバルな視点からのホスピタリティ提供するためのティップスを提案することを目標に、まずは自国および韓国の事例を探り、そこから垣間見られる違いを検証する。韓国人学生の協力を得ながら、多角的かつ現実的な解決案を提示する。</p> <p>(学習成果)  <input type="radio"/>A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。  <input type="radio"/>C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にP D C Aを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション、課題理解          プログラムの意義・目標の共有、課題の理解、グループ作り、スケジュール説明、注意事項 他</p> <p>2 テーマ策定（グループワーク）、韓国事情理解          テーマ策定、韓国語・韓国事情について学びを進める</p> <p>3 現状分析（グループワーク）、韓国事情理解          グループごとに各テーマにおける日本と韓国の現状を分析する</p> <p>4 現状分析、提案内容の作成（グループワーク）          引き続き現状分析を行い、各グループごとに日本から見た提案を作成する</p> <p>5 中間報告会（プレゼンテーション）、渡航準備          各グループごとに取組中の状況報告を行い、関連各署からアドバイスをいただきながら、提案内容をブラッシュアップする</p> <p>6 現地研修（2週間）、課題解決案作成・発表（グループワーク・プレゼンテーション）          フィールドワークやアウティングを通して現地の実態を調査する。現地の学生と課題解決に向けたディスカッションを行い、協働で最終案を作成・発表する</p> <p>7 提案の実践          日韓交流ボランティアに参加し、解決案として提案したホスピタリティを実践する</p> <p>8 振り返り、TOITA Fes発表準備          これまでの経過を振り返り、プロジェクトの目標達成に向けてP D C Aを回しながら進められたかどうかを検証する。Fesでの発表（展示）の準備をおこなう</p> <p>9 TOITA Fes発表</p>
※プロジェクトの内容によって変更することがある	
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>課題解決に向けて多くの事例を検証し、多様で複雑な価値観に触れることに努める。国の大垣根を超えた協働の学びに積極的に参加し、自らの課題解決案を提案することができる。</p> <p><input type="radio"/>A：課題内容と自らの役割をよく理解し、チームで協力し合いながら成果実現にむけて最後まで貢献することができる。  <input type="radio"/>C：現地での研修がより成果の高いものになるよう、自らの事前学習目標やスケジュールを計画・立案し実行できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（90分）</p> <p>事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの情報収集を行う。定期的な韓国語学習は必須。（90分）</p>
指導方法	連携先大学および企業、団体等の協力のもと実施するPBL型授業である。個人およびグループでの活動が基本。課題解決案の提示に向けて、韓国語や韓国事情とともに各自のテーマに沿った事例を収集し検証する。夏期の韓国での研修に向けて、前期には学内で事前の学習を行う。帰国後はTOITA Fesで成果を発表する。

	フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで評価する ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ◎C：平常点および成果発表で評価する。
	平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する。
履修上の注意	* 「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 * 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 * プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 * プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 * グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 * 履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F37C67			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価による基準	<p>(授業内容) スキンケア化粧品のブランドや商品のコンセプトや対象者を考える「企画」から、配合成分やパッケージデザインまでの「商品化」を体験できる。</p> <p>(授業目標) 化粧品が出来上がるまでのプロセスを理解することで、市場に出回る商品や化粧品ビジネスを俯瞰できる様になる。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/>A：主体的にプロジェクトに参加できる。  <input type="radio"/>C：課題解決に必要な実務能力を理解し、行動することができる。       </p>
----------------------------------	--

授業計画	1 プロジェクトマネジメント研修 課題の理解・深堀、課題に纏わる現状調査・理解連携企業、地域理解の必要性について 2 オリエンテーション 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 チームビルディング、目標の共有 3 オリジナルコスメ制作までの流れ（サティス製薬） 化粧品製造の一般的な流れ 4 商品企画（1） コンセプト・制作アイテム・商品名決め 5 商品企画（2） 配合成分・容器選定 6 商品企画（3） 試作品確認 7 商品企画（4） パッケージデザイン打合せ ※デザインはデジタルゼミと協働 8 商品企画（5） 中間発表 TOITA Fes準備 9 商品企画（6） 中間発表 TOITA Fes準備 10 商品企画（6） 中間発表 TOITA Fes 11 工場見学 企画した商品が生産される過程を見学する。 12 プロモーション（1） 撮影・視聴振り返り 13 プロモーション（2） 撮影・視聴振り返り 14 プロモーション（3） 撮影・視聴振り返り 15 振り返り 活動を通じて得た学びを、今後どのように活かしていくかを考える。
到達目標・基準 C評価による基準	<input checked="" type="radio"/> A：協力的にプロジェクトに参加できる。 <input type="radio"/> C：課題解決に必要な実務能力を理解している。

事前・事後学習 事前学習：スキンケア市場を調査し参考になる情報について研究する。（90分）

	事後学習：授業の振り返りを行い、次回の授業で必要な活動を考えておく。 (90分)
指導方法	実習を中心とし、必要に応じ担当教員よりプロジェクトやプリント等で資料を提示する。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 ○C：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 課題50%、授業態度・貢献度50%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。 販売職、企画職に内定または将来希望している事が望ましい
アクティブ・ラーニング、PBL	アクティブ・ラーニング、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F37C67			授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) テレビ通販やECサイトにおけるライブコマースについて、業界の知識を学びながら、出演者として商品を紹介するノウハウを学ぶ。インスタライブを活用し、発信力を身につける。</p> <p>(授業目標) 需要が高まるライブコマースのノウハウを学び、就職後に即戦力となるスキルを身につける。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/>A：チームのなかで主体的に撮影や準備に参加できる。  <input checked="" type="radio"/>C：課題解決に必要な実務能力を理解し、発信者として正確に情報を伝えることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 プロジェクトマネジメント研修 課題の理解・深堀、課題に纏わる現状調査・理解連携企業、地域理解の必要性について  2 オリエンテーション 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 チームビルディング、目標の共有  3 自己PRの重要性 発信者として、商品の価値をどのように伝えるかを学ぶ。  4 自己PR撮影 自己PRを動画にて撮影し、客観的に振り返る。  5 伝える技術 発信者として、伝える内容や情報を整理し、効果的に伝える構成の組み方などを学ぶ。  6 ライブコマース実習（1） 実習に向けたチーム決め、ロールプレイングを行う。  7 ライブコマース実習（2） 実習に向け商材決め、台本作成、カメラ映りや画角について検討する。  8 ライブコマース実習（3） 撮影・視聴振り返り 中間発表 TOITA Fees  9 ライブコマース実習（4） 撮影・視聴振り返り 中間発表 TOITA Fees  10 ライブコマース実習（5） 表現方法をブラッシュアップする。 表現法Q&A、組み立てについて考える。  11 ライブコマース実習（6）（インスタライブ） 撮影・視聴振り返り 次回に向けた商材決め、台本作成  12 ライブコマース実習（7）（インスタライブ） 撮影・視聴振り返り  13 ライブコマース実習（8）（インスタライブ） 撮影・視聴振り返り  14 ライブコマース実習（9）（インスタライブ） 撮影・視聴振り返り  15 振り返り 活動を通じて得た学びを、今後どのように活かしていくかを考える。
到達目標・基準 C評価になる基準	<input checked="" type="radio"/> A：チームのなかで協力的に撮影や準備に参加できる。 <input checked="" type="radio"/> C：課題解決に必要な実務能力と発信者として正確に情報を伝えることの大切さを理解している。

事前・事後学習	事前学習：ライブ配信やライブコマースを視聴し、参考にしたい発信者を研究する。 (90分) 事後学習：授業の振り返りを行い、次回の授業で必要な活動を考えておく。 (90分)
指導方法	実習を中心とし、必要に応じ担当教員よりプロジェクトやプリント等で資料を提示する。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 ○C：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 課題50%、授業態度・貢献度50%
テキスト	なし
参考書	動画マーケティング トーク術&撮影・制作テクニック 久松慎一／著 江見真理子／著 玄光社
履修上の注意	定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。 販売職、プレス、PR職に内定または将来希望している事が望ましい
アクティブ・ラーニング、PBL	アクティブ・ラーニング、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ、秋元未奈子			
ナンバリング：F37C67	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) ファッショング販売職、化粧品販売職の現場で需要の高い「パーソナルカラー」と呼ばれる、似合う色に関する知識を深め、実践的な力を身につける。</p> <p>(授業目標) カラードレープを使った、パーソナルカラー選びの実務能力を高める。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/>A：チームのなかで主体的にサロン運営に参加できる。  <input checked="" type="radio"/>C：課題解決に必要な実務能力を理解し、他者へのアドバイスを実践できる。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 課題の理解・深堀、課題に纏わる現状調査・理解連携企業、地域理解の必要性について</p> <p>2 オリエンテーション 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 チームビルディング、目標の共有 パーソナルカラー実態調査について 色彩基礎知識確認</p> <p>3 パーソナルカラー実態調査（1） TOITA Fesにてパーソナルカラーに関する実態調査に必要な準備</p> <p>4 パーソナルカラー実態調査 TOITA Fesにてパーソナルカラーに関する実態調査を行い、結果から課題を抽出・設定する。</p> <p>5 パーソナルカラー演習（1） 課題解決のために必要な実務能力を身につける。</p> <p>6 パーソナルカラー演習（2） 課題解決のために必要な実務能力を身につける。</p> <p>7 パーソナルカラー演習（3） 課題解決のために必要な実務能力を身につける。</p> <p>8 パーソナルカラー演習（4） 課題解決のために必要な実務能力を身につける。 技術の定着度を確認するための中間発表を行う。</p> <p>9 パーソナルカラーサロン運営実践（1） ゲストに対するパーソナルカラーアドバイスを行う。</p> <p>10 パーソナルカラーサロン運営実践（2） ゲストに対するパーソナルカラーアドバイスを行う。</p> <p>11 パーソナルカラーサロン運営実践（3） 実践を振り返り、新たな課題や改善点を洗い出し、次の準備を行う。</p> <p>12 パーソナルカラーサロン運営実践（4） ゲストに対するパーソナルカラーアドバイスを行う。</p> <p>13 パーソナルカラーサロン運営実践（5） ゲストに対するパーソナルカラーアドバイスを行う。</p> <p>14 パーソナルカラー演習（5） パーソナルカラー実態調査・サロン実践、総まとめ演習課題</p> <p>15 振り返り 活動を通じて得た学びを振り返り、目標設定を行う。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<input checked="" type="radio"/> A：チームのなかで協力的にサロン運営に参加できる。 <input checked="" type="radio"/> C：課題解決に必要な実務能力を理解している。
事前・事後学習	事前学習：色彩理論やパーソナルカラーに関する基礎知識を復習する。（90分）

	事後学習：授業の振り返りを行い、次回の授業で必要な活動を考えておく。（90分）
指導方法	実習を中心とし、必要に応じ担当教員よりプロジェクトやプリント等で資料を提示する。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 ○C：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 課題50%、授業態度・貢献度50%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」 2年前期トータルコーディネート演習と同様のテキストのため、改めて購入する必要はない
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」
履修上の注意	定期授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。 カラーコーディネート論、カラーコーディネート演習、トータルコーディネート演習を履修していること。 色彩検定を取得していることが望ましい。 ゲストに対するパーソナルカラーアドバイスは、オープンキャンパスなど休日を利用して行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	アクティブ・ラーニング、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：F38C68			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標)</p> <p>社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。      ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修（ゲスト講師）      プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。      （課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解）      参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 訪問企業の発表、訪問順序の決定（ゲスト講師）      訪問先を確認し、自分たちが先方に尋ねてみたいこと（働くこととはどういうことか、進路を決めるときにどのようなことを軸としたのか、学生時代の過ごし方など）を考え、今後の取り組みに備える。</p> <p>3 質問内容の作成（個人作業→グループワーク）（ゲスト講師）      企業に聞きたいことを整理し、まとめ、尋ねかたについて話し合う。</p> <p>4 質問内容の作成（グループワーク）（ゲスト講師）      課題解決案の初期案を作成する。      講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。      自分たちで訪問先にアポイントを取る（話し方、何を尋ねるべきなのか、確認すべきことがらは何か）。      名刺交換の練習をする。      経路の確認等をおこなう。</p> <p>5 企業訪問①（ゲスト講師）      案をもとに、実際に現地へ赴く。      企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>6 企業訪問②（ゲスト講師）      案をもとに、実際に現地へ赴く。      企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>7 振り返り①（ゲスト講師）      実際に初めて訪問して感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。      何ができる、何ができなかつたのかを確認する。      講師からアドバイスを受け、次回に向けてすべきことは何か、討議する。</p> <p>8 キャリアとは何か（ゲスト講師）      講師の講義（キャリアについて）を聞き、学んだことを活かして今後の取り組みに備える。      次の企業訪問に向けて、質問を考える。      現地調査や確認をおこなう。</p> <p>9 企業訪問③（ゲスト講師）      案をもとに、実際に現地へ赴く。      企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>10 企業訪問④（ゲスト講師）      案をもとに、実際に現地へ赴く。      企業を訪問＆インタビューする。</p> <p>11 振り返り②（ゲスト講師）      3、4回目の企業訪問で感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。</p>

	<p>成長した点があったか、今後の課題を確認する。 今後に向けてすべきことは何か討議し、プラスシューアップをはかる。 講師からアドバイスを受け、今後のプレゼンテーションに向けての準備をする。</p> <p>振り返り③（ゲスト講師） 企業訪問で感じたこと、学び得たことを整理し、掘り下げる。 計画案をまとめ、実現し、結果についての調査・分析をまとめる。 講師からアドバイスを受け、この後の取り組みに備え、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>12 13 14 15</p> <p>講師からアドバイスを受け、この後の取り組みに備え、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>プレゼンテーション実施①（ゲスト講師） 課題の解決案を企業や自治体に対して発表する。</p> <p>プレゼンテーション実施②（ゲスト講師） 課題の解決案を学内や来校者に対して発表する。</p> <p>報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり（ゲスト講師） 活動の結果を分析し、感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 活動全体のふりかえりを行い、あらためて自分たちのキャリア、生き方について考えをまとめ、整理する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。</p> <p>○C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）</p>
指導方法	<p>産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告（発表）までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に実際に足を運んで活動する日もある。</p> <p>フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体制してフィードバックする。</p> <p>授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し決められたプログラムを修了することで、評価する。</p> <p>◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。</p> <p>平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%</p>
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会がある日には必ず参加すること。</li> <li>* 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もあるので注意すること。</li> <li>* プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。</li> <li>* プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。</li> <li>* グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。</li> </ul>
アクティブラーニング・PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	服専：選択
担当教員			
瀧木祥子、吉田涼平			
ナンバリング：F38C68	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>この授業は、企業の課題解決を目的としたPBL型授業である。大学の一般的な授業では得られない「実社会での実践的な経験」を提供する。受講者は、企業が直面する課題に対する解決策を提案するため、グループで活動を行い、一般的な企業が行う営利目的のプロジェクトがどのように進行するかを体験する。所定の成果を達成することで、単位を修得できる授業である。</p> <p>(授業目標)</p> <p>企業の担当者と直接コミュニケーションをとり、実社会の現実を体感することで、社会人としての第一歩を踏み出す基盤を築く。</p> <p>グループ活動を通じて、自身の得意分野や改善すべき課題に気付き、自己認識を深める。</p> <p>チームでの活動を通じて協働スキルや問題解決力を向上させる。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎ A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、自発的な行動力を發揮してプロジェクトを成功に導くことができる。      ○ C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的に役割を全うする。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修      プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。      (課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解)      参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 企業（自治体）より、掲示された課題の説明      企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題を担当者から直接お話しいただくことで、自分事として捉えて今後の取り組みに備える。</p> <p>3 企業（自治体）より、掲示された課題の検討（グループワーク）      企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題について、グループで討論し、課題解決の為に解決策を出し合う。</p> <p>4 課題解決案の作成（グループワーク）      課題解決案の初期案を作成する。      講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。</p> <p>5 課題解決案の発表      課題解決案の初期案を発表する。</p> <p>6 フィールドワーク・実施 1      課題解決初期案をもとに、実際に現地調査をする。</p> <p>7 課題解決案の検討 1（グループワーク）      現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決策をブラッシュアップする。</p> <p>8 中間報告会 1      各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について企業からアドバイスをいただく。</p> <p>9 課題解決案の見直し（グループワーク）      講義、資料検索やディスカッションなどを通して課題解決案の目的、内容等を見直す。</p> <p>10 フィールドワーク・実施 2      課題解決案が実際に実現可能な解決案となるか、現地調査や確認を行う。</p> <p>11 課題解決案の検討 2（グループワーク）      現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決案をブラッシュアップする。</p> <p>12 中間報告会 2      進捗確認、必要に応じて企業からアドバイスをいただく。</p> <p>13 課題解決案の実現（グループワーク）      課題解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる。</p> <p>14 プрезентーション・フィールドワーク・実施      課題の解決案を企業に対して発表する。</p>

	15	報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり 結果を調査・分析し、報告書を産学（官）連携先へ提出・評価を受ける。 活動全体のふりかえりをする。
到達目標・基準 C評価になる基準		実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ○A：課題内容とチーム全体の状況を理解し、自発的な行動力を發揮してプロジェクト成功に貢献する。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて役割を全うする。
事前・事後学習		事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法		産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけではなく、連携先等に伺っての活動もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、評価する。 ○A：平常点および成果発表で評価する ○C：平常点および成果発表で評価する 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト		必要に応じて提示する
参考書		授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意		* 参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 * 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 * プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 * プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 * グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL		グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
中村公子、石田毅、松井恵美子、姜瑢嬉			
ナンバリング：F38C69			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力  <input checked="" type="checkbox"/>B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/>C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/>D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/>E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 課題解決に向けて「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。ホスピタリティをテーマに、夏期休暇を利用して韓国を舞台にプロジェクトを展開する。両国の違いを検証し、グローバルなホスピタリティを提供できる提案を行う。前期における日本での事前学習を経て、韓国では誠信女子大学で語学やK-Beauty等の様々な研修を受けたり、実際に各自のテーマに沿ったホスピタリティを体験したりすることによって学びを深める。さらに、韓国人学生との交流を通して考え方や求めているものの違いを知り、課題解決のための糸口を探る。</p> <p>(授業目標)          グローバルな視点からのホスピタリティ提供するためのティップスを提案することを目標に、まずは自国および韓国の事例を探り、そこから垣間見られる違いを検証する。韓国人学生の協力を得ながら、多角的かつ現実的な解決案を提示する。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/>A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。  <input checked="" type="radio"/>C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にP D C Aを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション、課題理解          プログラムの意義・目標の共有、課題の理解、グループ作り、スケジュール説明、注意事項 他</p> <p>2 テーマ策定（グループワーク）、韓国事情理解          テーマ策定、韓国語・韓国事情について学びを進める</p> <p>3 現状分析（グループワーク）、韓国事情理解          グループごとに各テーマにおける日本と韓国の現状を分析する</p> <p>4 現状分析、提案内容の作成（グループワーク）          引き続き現状分析を行い、各グループごとに日本から見た提案を作成する</p> <p>5 中間報告会（プレゼンテーション）、渡航準備          各グループごとに取組中の状況報告を行い、関連各署からアドバイスをいただきながら、提案内容をブラッシュアップする</p> <p>6 現地研修（2週間）、課題解決案作成・発表（グループワーク・プレゼンテーション）          フィールドワークやアウティングを通して現地の実態を調査する。現地の学生と課題解決に向けてディスカッションを行い、協働で最終案を作成・発表する</p> <p>7 提案の実践          日韓交流ボランティアに参加し、解決案として提案したホスピタリティを実践する</p> <p>8 振り返り、TOITA Fes発表準備          これまでの経過を振り返り、プロジェクトの目標達成に向けてP D C Aを回しながら進められたかどうかを検証する。Fesでの発表（展示）の準備をおこなう</p> <p>9 TOITA Fes発表</p>
※プロジェクトの内容によって変更することがある	
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>課題解決に向けて多くの事例を検証し、多様で複雑な価値観に触れることに努める。国の大垣根を超えた協働の学びに積極的に参加し、自らの課題解決案を提案することができる。</p> <p><input checked="" type="radio"/>A：課題内容と自らの役割をよく理解し、チームで協力し合いながら成果実現にむけて最後まで貢献することができる。  <input checked="" type="radio"/>C：現地での研修がより成果の高いものになるよう、自らの事前学習目標やスケジュールを計画・立案し実行できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（90分）</p> <p>事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの情報収集を行う。定期的な韓国語学習は必須。（90分）</p>
指導方法	連携先大学および企業、団体等の協力のもと実施するPBL型授業である。個人およびグループでの活動が基本。課題解決案の提示に向けて、韓国語や韓国事情とともに各自のテーマに沿った事例を収集し検証する。夏期の韓国での研修に向けて、前期には学内で事前の学習を行う。帰国後はTOITA Fesで成果を発表する。

	フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで評価する ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。  平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する。
履修上の注意	* 「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 * 放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 * プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 * プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 * グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 * 履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F38C69	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 学生美容家として、オープンキャンパスでのビューティアドバイザー（メイクアップアドバイス等）活動を中心に、化粧品販売職に関する職業理解を深める活動を行います。</p> <p>(授業目標) 職業理解と職業体験により、化粧品販売職への就職への意識を高める。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/>A：学生美容家として全体を意識し、主体的に関わることができる  <input type="radio"/>C：来場者視点で目的を考え、イベントの企画やオープンキャンパスの運営を主体的に行うことができる       </p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 課題の理解・深堀、課題に纏わる現状調査・理解連携企業、地域理解の必要性について</p> <p>2 オリエンテーション 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 チームビルディング、目標の共有</p> <p>3 学生美容家とは（1） 学生美容家の活動について オープンキャンパスでの活動の流れ、実践ロールプレイング</p> <p>4 学生美容家とは（2） 学生美容家の活動について オープンキャンパスでの活動の流れ、実践ロールプレイング</p> <p>5 化粧品販売職について 百貨店系化粧品ブランドについて学ぶ 職種理解を深める</p> <p>6 店舗調査・体験 百貨店系の化粧品店で、接客を体験し商品を購入する。</p> <p>7 店舗調査・体験報告会 店舗調査で得た学びを資料にまとめ報告する</p> <p>8 店舗調査・体験報告会 店舗調査で得た学びを資料にまとめ報告する</p> <p>9 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>10 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>11 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>12 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>13 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>14 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む</p> <p>15 学生美容家実践 学生美容家として活動するために必要な準備を含めた実践</p>

	16 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	17 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	18 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	19 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	20 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	21 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	22 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	23 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	24 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	25 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	26 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	27 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	28 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	29 学生美容家実践 オープンキャンパス・TOITA Fes・学外活動含む
	30 振り返り 1年間の活動を通じて得たもの、今後の目標設定を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：学生美容家として能動的に行動できる。 ○C：イベントの企画やオープンキャンパスの運営計画や課題を理解している。
事前・事後学習	事前学習：化粧品販売店の店舗観察や販売員に関する情報を収集する。 (90分) 事後学習：授業の振り返りを行い、次回の授業で必要な活動を考えておく。 (90分)
指導方法	担当教員や企業連携による授業である。 関連する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用いた講義形式とミーティングなどを含む演習形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中やGoogle classroomにて実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 ○C：活動の様子や振り返りレポート課題によって評価する。 課題50%、授業態度・貢献度50%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。 通常開講のため、休暇期間にも活動がある。 卒業後は、化粧品販売職を希望している者が対象である。 授業内で練習のために、受講者同士で化粧の練習をすることがある。 授業実施日が、オープンキャンパスに設定されることがある。 TOITA Fesでは、ブース出展を予定している。
アクティブラーニング・PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	2	服専：選択
担当教員			
平光くり子、佐藤賢志			
ナンバリング：F38C69	実務家教員による授業		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力  <input type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力  <input checked="" type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力  <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力  <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>本授業では、アパレル業界で活躍する企業と提携し、ゼロからアパレルブランドを立ち上げ、実際に運営する。提携企業の仕入れルートを活用し、商品企画、仕入れ、販売促進、マーケティング、販売といった業務を体験することで、アパレル業界における多様な職種の役割を具体的に理解する。また、ブランド運営を通じて成功体験を得ることで、実務に基づく知識とスキルを習得することを目的とする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>実際のビジネス環境でアパレルブランドを立ち上げ、運営することを通じて、マーチャンダイザー、プレス、マーケティング、デザイナー、バックオフィスなど、多様な職種の役割を具体的に理解する。また、個人ではなくチームとして効果的に働くための知識やスキルを習得することを目標とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎ A：ブランド運営を実際に成功に導く為にチーム内で特定の役職を担当し、自身の業務を遂行するだけでなく、他のメンバーの進捗を共有、支援することができる。      ○ C：市場調査を基に競合分析とトレンド分析を行い、それに基づいた商品企画や販売促進活動を効果的に行実行できるスキルを修得し、さらにアパレル業務（SNS運用や対面での接客）を通じてお客様を満足させる対応ができる。</p>
授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修（ゲスト講師）      課題の理解・深堀、課題に纏わる現状調査・理解連携企業、地域理解の必要性について</p> <p>2 ブランド設立の概要説明とプランディング（ゲスト講師）      オリエンテーション、プロセスエコノミーの流れやSNSについて説明、理想とするブランドのイメージやテーマを検討する</p> <p>3 ブランドとチーム編成（グループワーク）（ゲスト講師）      複数のブランドチームとメンバー（役職）の決定</p> <p>4 プランディングと利益計画の決定（ゲスト講師）      ブランドイメージとターゲット顧客、商品の特徴の検討</p> <p>5 利益計画の決定（ゲスト講師）      販売価格帯・仕入価格帯、想定利益を決定</p> <p>6 ブランドのロゴと商品タグのデザイン。オリジナルアイテムの企画（ゲスト講師）      ブランディングに沿ったロゴ及びネームタグデザインの作成、オリジナルアイテムの内容検討</p> <p>7 販売計画（ゲスト講師）      販売計画の作成方法と活用方法</p> <p>8 グループプレゼンテーション（1）（ゲスト講師）      グループ毎にプレゼンを行い、相互評価を行う。</p> <p>9 グループプレゼンテーション（2）とプランディングの再確認（ゲスト講師）      評価の続きと、決定したグループでのプランディングのブラッシュアップ</p> <p>10 セレクト商品の選定、オリジナル製作と仕入れ（ゲスト講師）      セレクト商品の選定と本番仕入れ、在庫にする商品の発注方法の説明、オリジナル商品製作の進行</p> <p>11 在庫管理と品質管理（ゲスト講師）      検品方法、入出荷と在庫管理業務、発送方法などの説明</p> <p>12 インフルエンサーチャンネルや広告について（ゲスト講師）      SNSやインフルエンサーを活用した販売促進マーケティング業務、インターネット広告の基本的なノウハウについて学ぶ</p> <p>13 オリジナルアイテムの発注、セレクトアイテムの事前調査（1）（ゲスト講師）      オリジナルアイテムを実際に発注、韓国買い付け卸売市場の事前調査</p> <p>14 セレクトアイテムの事前調査（2）（ゲスト講師）      韓国買い付け卸売市場の事前調査</p>

	15	進捗確認とブラッシュアップ（ゲスト講師） これまでの授業内容の進捗状況の確認と、より良くするための強化。
	16	在庫発注、ECショップ準備、オリジナル先行販売について（ゲスト講師） 商品の発注、オリジナル商品の先行販売開始
	17	撮影の準備と実施、画像や動画の加工編集、ECショップ準備（ゲスト講師） 撮影の概要説明、ロケ現場やスタジオの選定、モデルやカメラマンの手配、撮影を実施 画像・動画を加工編集し、アルバムとしてまとめる
	18	ECブランドの本格スタート（ゲスト講師） SNS情報発信及びブランド公式ページと販売サイトの本格活動
	19	追加する新作商品のチェックと販売準備（ゲスト講師） 隔週新作商品の商品ページの作成やSNSでの告知
	20	売れ行きの状況把握（ゲスト講師） 売上を向上する為、SNS強化や告知についての検討
	21	POPUP準備（1）（ゲスト講師） 戸板FESで行うPOPUPの準備
	22	POPUP準備（2）（ゲスト講師） 戸板FESで行うPOPUPの準備
	23	POPUPの反省（ゲスト講師） POPUPの売上集計や反省
	24	WEBショッピング強化 セール準備や、WEBショッピングでの施策など検討
	25	ブランド運営計画の策定（ゲスト講師） ブランドを継続的に運営するための中長期的な運営計画を策定する。チームで今後の目標や課題を共有し、具体的なアクションプランを作成する。
	26	販売戦略の実践と分析、施策検討（ゲスト講師） 実際の販売結果を分析する。年末年始に向けたセールや施策を検討し計画する。
	27	ブランド価値向上の取り組み（ゲスト講師） ブランドの持続的な成長を目指し、SNSや広告を活用したプロモーション活動を強化する
	28	販売と運営の最終調整（ゲスト講師） 販売活動やプロモーションを継続しながら、ブランド運営全体の最終調整を行う
	29	プレゼンテーション準備（ゲスト講師） これまでのブランド運営を総括し、成果と課題を整理する
	30	最終プレゼンテーション（ゲスト講師） ブランド運営の集大成として、各チームが最終プレゼンテーションを実施する
到達目標・基準 C評価になる基準		◎A：自身の担当業務を遂行するとともに、チーム内で積極的に助け合い、実際にブランド運営を成功に導く方法を理解し、説明できる。 ○C：各ブランドに適した販売促進活動や商品企画を策定し、それを実際に実行し、アパレルブランドにおける顧客満足を獲得する方法を説明できる。
事前・事後学習		事前学習：他ブランドのリサーチを行い、自身のブランドの参考となる事例を収集・分析する。（90分） 事後学習：画像編集やブランドSNSに使用する素材の収集、自身のブランドに適したセレクト案の作成を行う。また、自身のブランドの投稿を毎日SNSで発信する。（90分）
指導方法		授業要点についてはパワーポイントなどをモニターで映して説明をする。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、フィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		◎A：自身の担当業務における進捗状況や達成度、チーム全体の協働力、団結力、そして最終的な成果物の完成度を総合的に評価する。また、グループワークにおける貢献度や、最終プレゼンテーションでの内容、表現力、説得力も評価の対象とする。 ○C：提案された販売促進活動や商品企画が、各ブランドの戦略（ブランディング）にどれだけ適合し、効果的であるかを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%、
テキスト		なし
参考書		なし
履修上の注意		人数制限により選考を行う可能性がある。 授業の進み具合によっては課外活動にて撮影や、素材集めなどを行う可能性がある。 本講座では、ECサイトの運営や管理、商品の製作など、授業外でも自ら率先して取り組む姿勢を求める。 SNSの運用に伴い、TikTokやInstagramへの出演の可能性がある。
アクティブラーニング・PBL		グループワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F39C70（1年生）	ナンバリング：F38C68（2年生）		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力      ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力      □C：目標と計画を立てて課題を解決する力      □D：知識を活かして考える力      □E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容)</p> <p>本科目は、海外大学編入学・留学支援センターが指定する2週間以上の短期留学プログラムに参加して所定の成果を上げた者に単位認定（P評価）するものである。海外短期研修は、夏期休暇期間もしくは春期休暇期間に実施される。</p> <p>(授業目標)</p> <p>提携機関での研修を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準）      ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定）      短期海外研修の意義、目的、日程、費用等について説明する。</p> <p>2 海外研修申込書・渡航届の提出      必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。</p> <p>3 事前研修（複数回あり）      電子渡航認証の取得やプレイスメントテストの受験、研修先・滞在先の説明や注意点の確認を通じて渡航準備を完了する。</p> <p>4 実地研修（2週間以上）      研修先で授業やアクティビティに参加する。</p> <p>5 事後研修・成果発表      帰国報告書を提出し、研修での学びを総括する。合わせて研修内容を学内で発表する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準）      ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が複数回設定されるので、必ず参加すること。</li> <li>・研修先主催の事前研修が設定されることもある。その場合も必ず参加すること。</li> <li>・帰国後は研修での体験を発表する機会を設ける。ガクチカとしても活かせるように十分に準備して臨むこと。</li> </ul> <p>○ 事前学習（対面・オンライン） 360分相当      ○ 事後学習（途中報告・発表準備） 240分相当      ○ 事後学習（帰国報告） 90分</p>
指導方法	<p>海外大学編入学・留学支援センターの教職員を中心に行う。必要に応じて研修先のスタッフを交えることもある。</p> <p>フィードバックの方法：①対面での書類作成指導、②対面での渡航前説明会、③オンラインでの途中報告、④対面での帰国報告プレゼンテーション</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準）      ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p> <p>以下の取り組みをもとに総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書類の提出（海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書）</li> <li>・事前研修会への参加</li> <li>・事後研修会への参加</li> <li>・研修機関からの成果報告</li> <li>・成果発表</li> </ul>
テキスト	特になし
参考書	

履修上の注意	海外短期研修の詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F39C71（1年生）	ナンバリング：F38C69（2年生）		授業方法：対面
添付ファイル			
-----			

学習成果	<b>ディプロマ・ポリシー</b> <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 本科目は、海外大学編入学・留学支援センターが指定する2週間以上の海外インターンシップに参加して所定の成果を上げた者に単位認定（P評価）するものである。海外インターンシップは、夏期休暇期間もしくは春期休暇期間に実施される。</p> <p>(授業目標) 海外での就業経験を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。</p> <p>(学習成果)  <input checked="" type="radio"/> A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準）  <input type="radio"/> B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）       </p>
----------------------------------	--

授業計画	1 説明会（課外時間に実施） 海外インターンシップの意義、目的、研修内容、日程、費用などを説明する。 2 海外研修申込書・渡航届の提出 必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。 3 オンライン面談および事前研修 電子渡航認証の取得やインターンシップ先の選定、滞在先や注意事項などの説明などを通じて渡航準備を完了する。 4 インターンシップ（2週間以上） 派遣先でインターンとして業務に従事する。 5 事後研修・成果発表 帰国報告書を提出し、インターンシップでの学びを総括する。合わせて海外での就業体験を学内で発表する。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<input checked="" type="radio"/> A：本学および提携先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準） <input type="radio"/> B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）
---------------------	--

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が設定されるので、必ず参加すること。</li> <li>提携先機関主催のオンライン面談や事前研修が設定されることがある。その場合も必ず参加すること。</li> <li>帰国後は海外インターンシップの経験を何らかの形で発表する機会を設ける。ガクチカとして活かせるよう十分に準備して臨むこと。</li> </ul> <input type="radio"/> 事前学習（対面・オンライン）360分相当 <input type="radio"/> 事後学習（発表準備）240分相当 <input type="radio"/> 事後学習（帰国報告）90分
---------	---

指導方法	提携先機関のスタッフが中心的に指導を行うが、海外大学編入学・留学支援センターの教職員とともに支援する。 フィードバック方法：①対面での書類作成指導 ②対面での渡航前説明会、③オンラインで途中報告 ④対面での帰国報告プレゼンテーション
------	---

アセスメント・成績評価の方法・基準	<input checked="" type="radio"/> A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準） <input type="radio"/> B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準） <p>以下の取り組みをもとに総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書類の提出（海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書）</li> <li>事前研修会への参加</li> <li>事後研修会への参加</li> <li>インターンシップ先からの評価</li> <li>成果報告</li> </ul>
-------------------	---

テキスト	特になし
------	------

参考書	
-----	--

履修上の注意	海外インターンシップの詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。
--------	--



英文科目名称：

開講期間 後期	配当年 1	単位数 6	科目必選区分 服専：選択
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F39C72			
添付ファイル			
-----			

学習成果	ディプロマ・ポリシー <input checked="" type="checkbox"/> A：他者と協力して共に創り上げる力 <input checked="" type="checkbox"/> B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 <input type="checkbox"/> C：目標と計画を立てて課題を解決する力 <input type="checkbox"/> D：知識を活かして考える力 <input type="checkbox"/> E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本科目は、海外大学編入学・留学支援センターを通じて提携大学で1学期間以上の留学をし、所定の成果を上げた者に単位認定（P評価）するものである。  (授業目標) 提携大学への留学を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。  (学習成果) ◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外留学の意義、目的、日程、費用等について説明する。 2 海外研修申込書・渡航届の提出 必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。 3 事前研修（複数回あり） 電子渡航認証の取得やプレイスメントテストの受験、留学先・滞在先の説明や注意点の確認を通じて渡航準備を完了する。 4 提携大学への留学（1学期以上） 留学先で授業やアクティビティに参加する。 5 事後研修・成果発表 帰国報告書を提出し、留学報告会で成果を発表する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）
事前・事後学習	・海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が複数回設定されるので、必ず参加すること。 ・研修先主催の事前研修が設定されることもある。その場合も、必ず参加すること。 ・帰国後、学長に向けた留学報告会が設定される。大学の代表または奨学生として恥じることのないよう、十分な準備をもって臨むこと。 ○ 事前学習（対面・オンライン） 360分相当 ○ 事後学習（途中報告・発表準備） 240分相当 ○ 事後学習（帰国報告） 90分
指導方法	海外大学編入学・留学支援センターの教職員を中心に行う。必要に応じて留学先または外部機関のスタッフを交えることもある。 フィードバックの方法：①対面での書類作成指導、②対面での渡航前説明会、③オンラインでの途中報告、④対面での帰国報告プレゼンテーション
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）  以下の取り組みをもとに総合的に評価する。 ・書類の提出（海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書） ・事前研修会への参加 ・事後研修会への参加 ・留学報告会でのプレゼンテーション ・戸板フェス等での成果発表
テキスト	特になし
参考書	
履修上の注意	ターム留学の詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。

